

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]
結果報告

平成27年7月17日（金）
佐賀県教育委員会

—目 次—

1	調査の実施概要	1
2	教科に関する調査の概要	4
3	教科ごとの調査結果	
◎	国語	
(1)	全体的な傾向及び観点別の正答率	5
(2)	地域別の正答率	7
(3)	各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題	8
(4)	改善のポイント	14
◎	算数・数学	
(1)	全体的な傾向及び観点別の正答率	15
(2)	地域別の正答率	17
(3)	各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題	18
(4)	改善のポイント	23
◎	理科	
(1)	全体的な傾向及び観点別の正答率	24
(2)	地域別の正答率	26
(3)	各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題	27
(4)	改善のポイント	29
4	児童生徒意識調査（小学5年生・中学1年生・中学2年生）、児童生徒質問紙 （小学6年生・中学3年生）、学校質問紙調査及び教師意識調査の概要	
(1)	授業への関心・理解度・有用性について	30
(2)	学習活動に関する意識について	45
(3)	家庭での学習について	50
(4)	学校生活、家庭生活についての児童生徒の意識・実態について	56
(5)	地域別の状況	66
(6)	児童生徒意識調査結果のまとめと指導改善のポイント	84

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4 月調査〕結果概要報告

1 調査の実施概要

(1) 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の実現状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が協力し、一体となって実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

(2) 調査実施日

小・中学校とも平成 27 年 4 月 21 日（火）

(3) 調査内容

① 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」

- ・ 小学 5 年生 国語、算数
- ・ 小学 6 年生 国語、算数、理科
- ・ 中学 1 年生、中学 2 年生 国語、数学
- ・ 中学 3 年生 国語、数学、理科

② 学習に対する意識や生活習慣等に関する「児童生徒意識調査」

③ 学習指導法等に関する「教師意識調査」

※ 小学 6 年生及び中学 3 年生は、全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を活用

(4) 調査方法

① 教科に関する調査

- ・ 小学校 各教科 45 分（小学 6 年生は、40 分）
各学校で時間を設定して実施
- ・ 中学校 各教科 50 分（中学 3 年生は、45 分）
各学校で時間を設定して実施

② 児童生徒意識調査

- ・ 小学校及び中学校 10 分程度
各学校で時間を設定して実施

③ 教師意識調査

- ・ 小学校 小学 4 年生、小学 5 年生、小学 6 年生の国語、社会、算数、理科の担当教職員が対象（平成 27 年 2 月実施）
- ・ 中学校 中学 1 年生、中学 2 年生の国語、社会、数学、理科、英語の担当教職員が対象（平成 27 年 2 月実施）

(5) 調査の成果指標

① 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

② 児童生徒や教師に対する意識調査

学習への意識・態度、生活習慣、指導方法などの実態把握を行い、教科に関する調査の結果と関連させて、授業における指導法や家庭学習等の改善と向上を目指している。

(6) 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	161	第5学年	7,639
		第6学年	7,743
中学校	90	第1学年（県立学校を含む）	7,712
		第2学年（県立学校を含む）	7,827
		第3学年（県立学校を含む）	7,859
特別支援学校	5	小学部第5学年	6
		小学部第6学年	3
		中学部第1学年	2
		中学部第2学年	6
		中学部第3学年	5
計			38,802

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較が可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法〔注2〕の考え方に沿って、小問毎に「期待正答率」を設定し、それを集約して設定している。「期待正答率」とは、問題の特性や難易度に応じて判断した、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

○「十分達成」は、学習内容の習得が十分であると判断される基準

○「おおむね達成」は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、この到達基準を基に、各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■小・中学校別期待正答率

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

2 教科に関する調査の概要

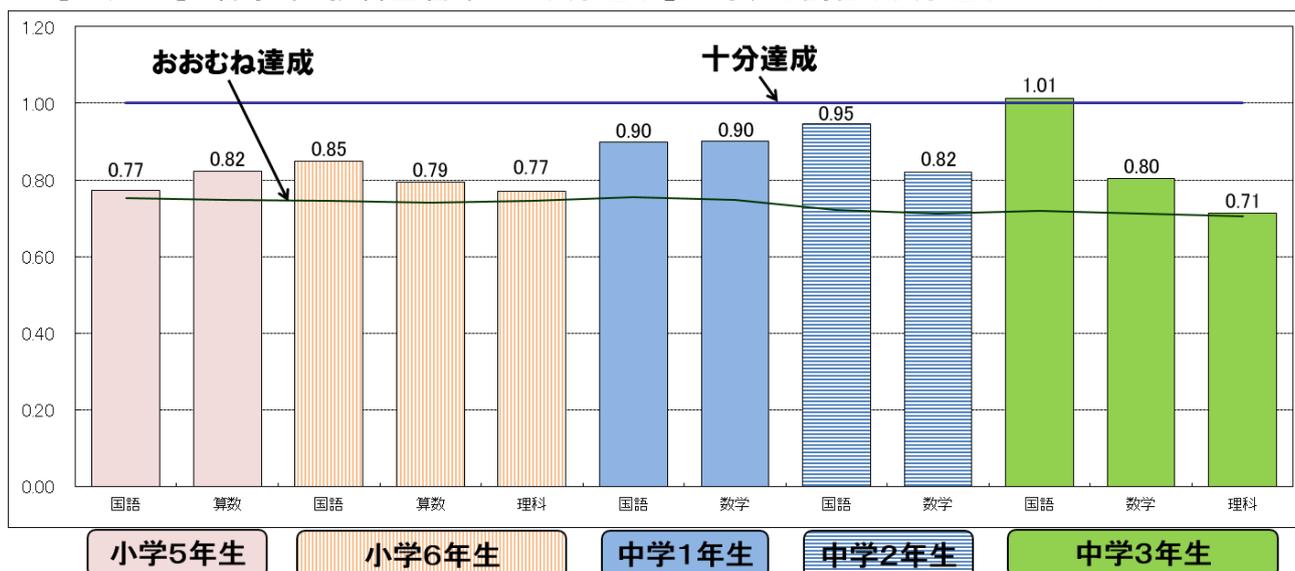
- 県で設定した「到達基準」(P2〔注1〕参照)に対して、12教科中全教科で「おおむね達成」の基準を上回っており、本県児童生徒の学習内容の習得状況はおおむね良好である。〔表1〕
- このうち、中学3年生国語のみが「十分達成」の基準を上回っているが、他の教科については、下回っている。〔グラフ1〕

〔表1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成27年度[4月調査]の到達状況				平成26年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	62.3	80.5	60.5	0.77	67.6	79.8	59.8	0.85
小5算数	65.2	79.3	59.3	0.82	59.7	79.6	59.6	0.75
小6国語	66.9	78.9	58.9	0.85	64.5	78.4	58.4	0.82
小6算数	61.3	77.2	57.2	0.79	69.9	78.0	58.0	0.90
小6理科	60.4	78.5	58.5	0.77	—	—	—	—
中1国語	73.1	81.3	61.3	0.90	70.1	80.0	60.0	0.88
中1数学	71.2	79.1	59.1	0.90	70.5	79.5	59.5	0.89
中2国語	67.8	71.6	51.6	0.95	60.4	69.5	49.5	0.87
中2数学	57.2	69.7	49.7	0.82	47.3	68.4	48.4	0.69
中3国語	72.2	71.3	51.3	1.01	70.0	69.9	49.9	1.00
中3数学	55.7	69.4	49.4	0.80	61.8	70.6	50.6	0.88
中3理科	48.2	67.6	47.6	0.71	—	—	—	—

※ 網掛けについては「十分達成」に対する割合が1.0を上回っている教科を示している。

〔グラフ1〕各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合(十分達成=1.00)

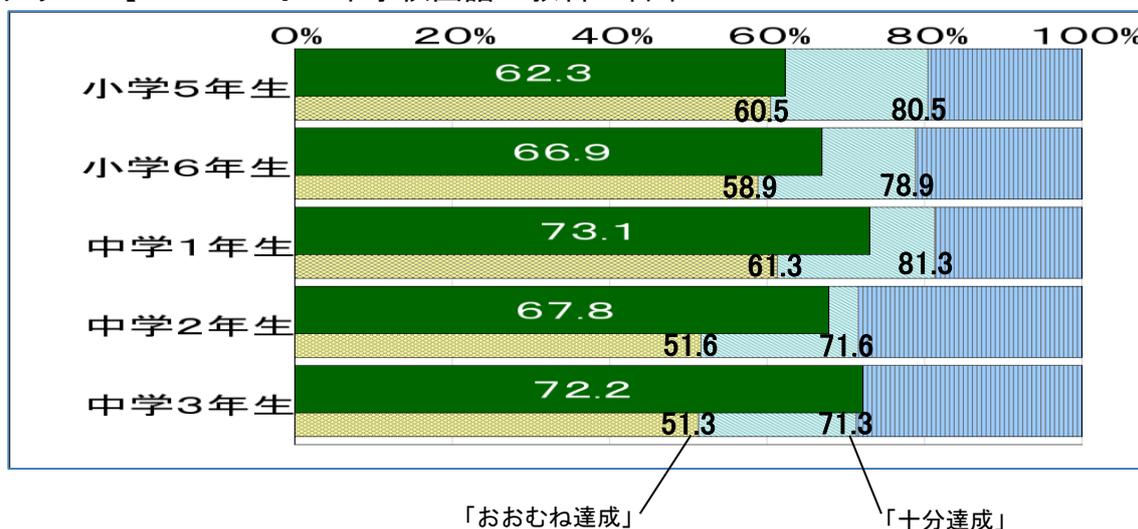


3 教科ごとの調査結果 ◎ 国語（小学5年生～中学3年生）

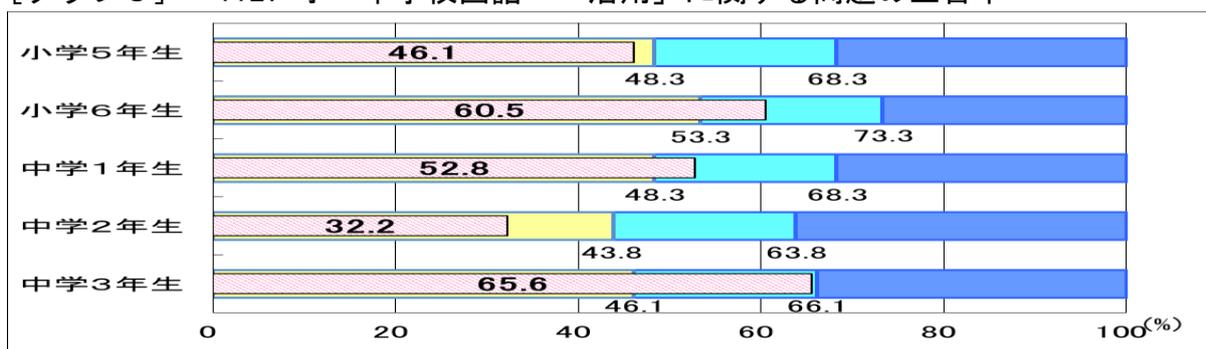
(1) 結果の概要

- 教科正答率では、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回っている。中学3年生においては、「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ2】
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、中学2年生は「おおむね達成」の基準を下回っている。【グラフ3】
- 「話す・聞く能力」については、小学校6年生を除いて「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、立場を明確にして、質問や意見を述べたり分からない点や確かめたい点を質問したりすることに課題が見られる。【グラフ4】
- 「書く能力」については、小・中学校共に「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、文章と図を関係付けて、自分の考えを書く設問、中学校では、平成26年度に引き続き「条件」に合わせて書く設問において課題が見られる。【グラフ5】
- 「読む能力」については、小学校5年生を除いて「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、文章を読んで「内容を的確に捉える」「表現の工夫を捉える」設問に課題が見られる。【グラフ6】
- 「言語についての知識・理解・技能」については、小・中学校共に「おおむね達成」の基準を上回っている。小学校では、言葉の特徴や決まりに関する事項、中学校では漢字を正しく書く設問において課題が見られる。【グラフ7】
- 昨年度に引き続き、小学校では、「読むこと」と「書くこと」を関連させて考えをまとめて書く設問、中学校では、読み取った内容を基に書いたり複数の「条件」に合わせて書いたりする設問において課題が見られる。

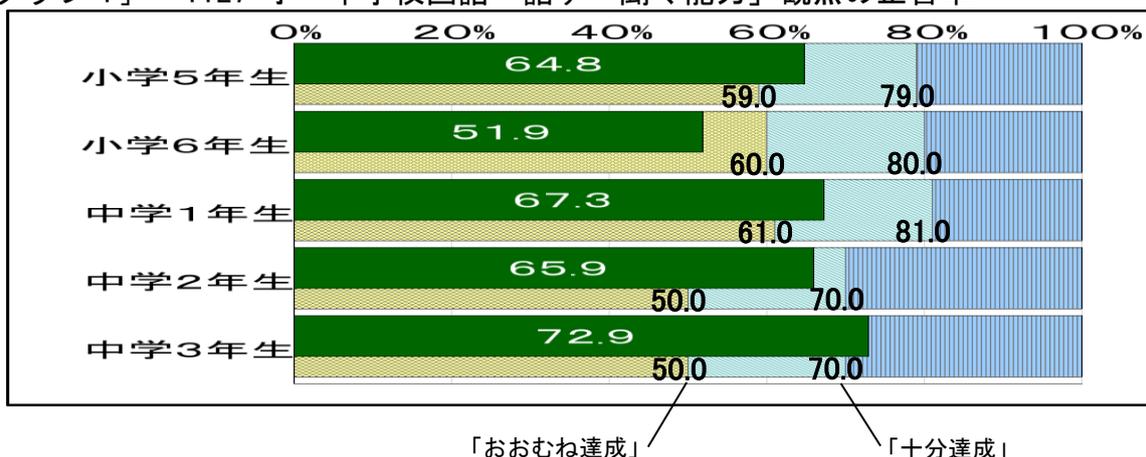
【グラフ2】 H27 小・中学校国語 教科正答率



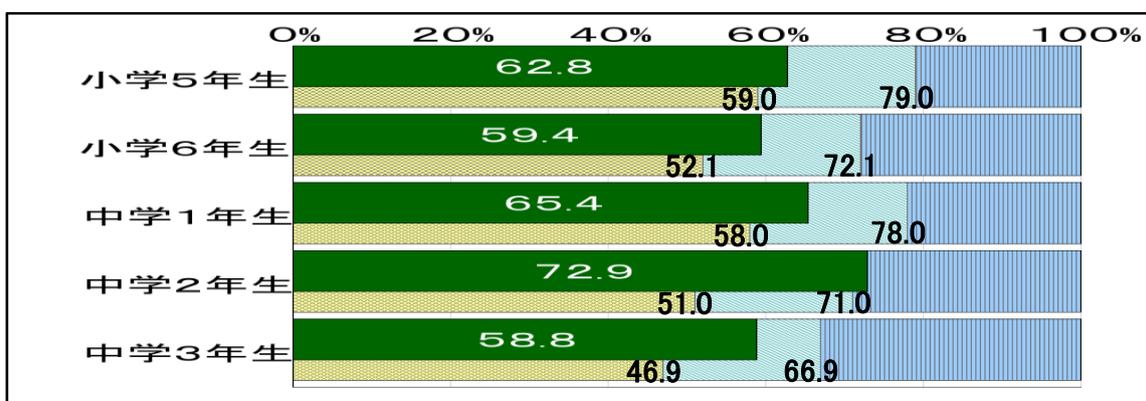
【グラフ3】 H27 小・中学校国語 「活用」に関する問題の正答率



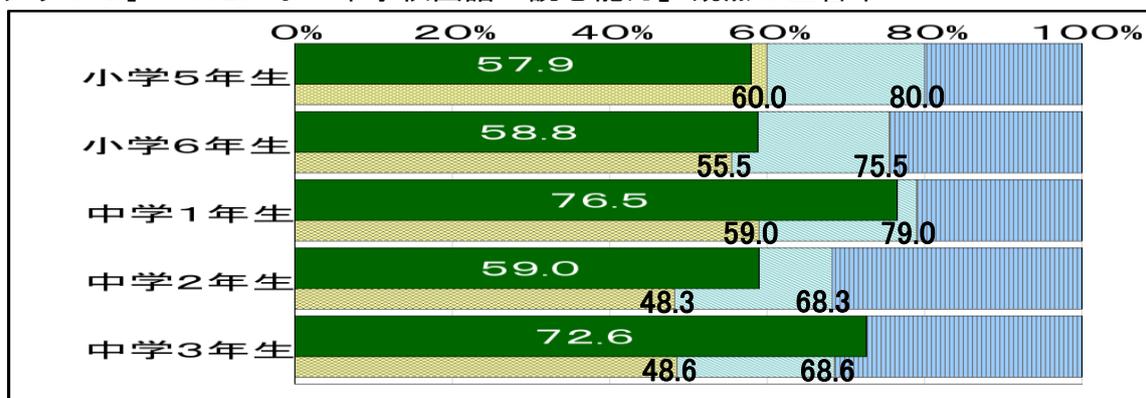
[グラフ4] H27 小・中学校国語「話す・聞く能力」観点の正答率



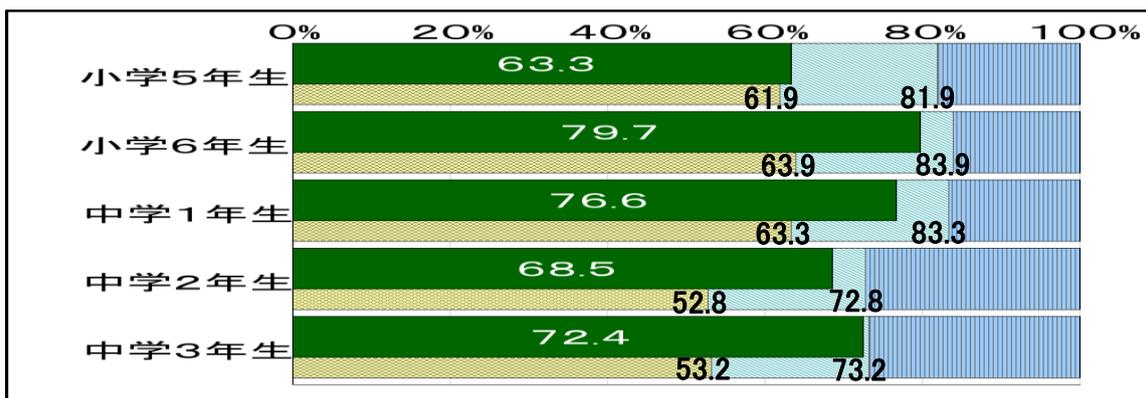
[グラフ5] H27 小・中学校国語「書く能力」観点の正答率



[グラフ6] H27 小・中学校国語「読む能力」観点の正答率



[グラフ7] H27 小・中学校国語「言語についての知識・理解・技能」観点の正答



(2) 地域別の状況

- 県内5地域の国語の学年別平均正答率の対県比は[表2]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、4学年で5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ8]

[表2] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	国語	H27	1.02	1.00	0.93	1.00	1.06	▲拡 0.13
		H26	0.99	1.01	0.97	1.03	1.01	0.06
小学校6年生	国語	H27	1.01	1.01	0.96	1.00	1.01	縮 0.05
		H26	1.02	1.00	0.96	0.98	1.03	0.07
中学校1年生	国語	H27	0.99	1.02	0.98	1.02	0.99	縮 0.04
		H26	0.98	1.02	0.98	1.03	0.99	0.05
中学校2年生	国語	H27	0.98	1.03	0.96	1.02	1.02	拡 0.07
		H26	1.00	1.03	0.98	1.00	0.97	0.06
中学校3年生	国語	H27	1.01	1.01	0.98	1.00	0.98	0.03
		H26	1.00	1.01	1.00	1.01	0.98	0.03

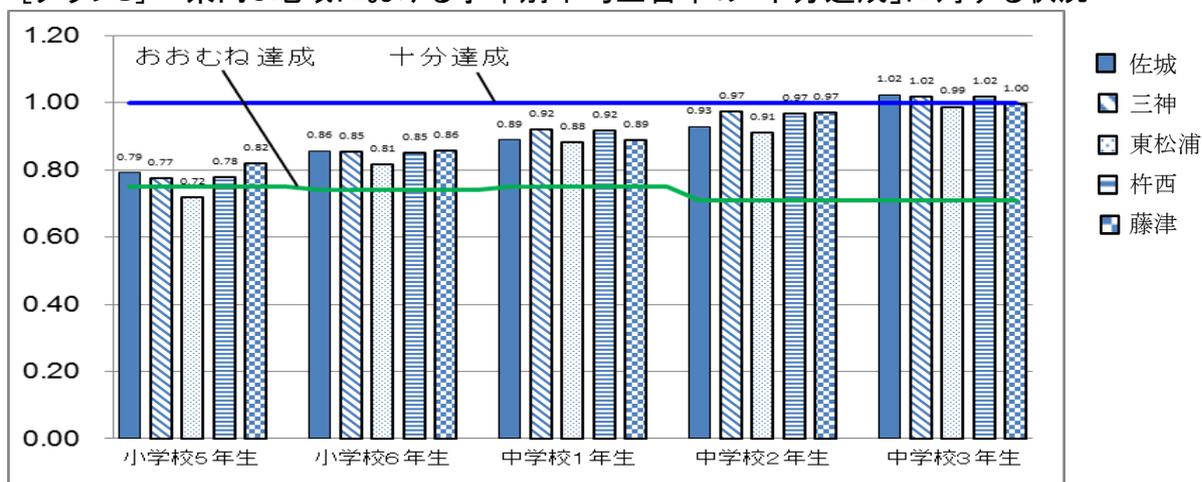
※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ8] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題

① 小学5年生 国語

[表3] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「○」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式	「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		欲国語への関心・意	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語に関する知識・理解・技能							
1	一	適切な言葉遣いで話す	○				○		85	65	93.2	0.2	◎
1	二	間の取り方に注意して話す	○				○		85	65	49.9	0.2	▼
1	三	相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら内容を明確にして話す	○				○		80	60	73.1	0.4	
1	四	聞いた事柄を基に分からない点を質問する	○				○		80	60	70.7	0.3	
1	五	聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問する	○				○	○	65	45	37.0	5.5	▼
2	一	相手や目的に応じて、手紙の構成をする		○			○		80	60	72.6	5.2	
2	二	目的に応じて、必要な事柄を明確に書いたり、相手に応じて丁寧な表現を用いて書いたりする		○			○		85	65	79.3	0.7	
2	三	相手や目的に応じた表現に書き直す		○			○		80	60	82.6	4.9	◎
2	四	書こうとすることの中心を明確にし、条件に合わせて書く		○			○	○	70	50	50.5	8.4	
2	五	手紙の構成を理解し、後付けを書く		○			○		80	60	28.9	1.7	▼
3	一	叙述を基に登場人物の気持ちを捉える			○		○		80	60	77.7	1.5	
3	二	各場面の様子に気を付けながら場面と場面とを関係付けて読む			○		○		80	60	63.3	1.9	
3	三	文章の中心に気を付けて読み、理由を挙げて感想を述べる			○		○	○	70	50	50.8	11.0	
4	一	中心となる語を捉える			○		○		85	65	55.2	6.4	▼
4	二	文章に書かれている事実を捉える			○		○		85	65	50.7	3.2	▼
4	三	段落相互の関係を捉える			○		○		80	60	49.9	4.1	▼
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「試みる」				○	○		80	60	85.2	3.8	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「貨物」				○	○		85	65	92.5	2.4	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「印象」				○	○		85	65	89.8	3.2	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「博物館」				○	○		80	60	65.6	5.6	
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「季節」				○	○		80	60	69.0	6.1	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「覚ます」				○	○		80	60	69.3	8.7	
5	三1	修飾と被修飾の関係について理解する				○	○		85	65	53.9	3.2	▼
5	三2	修飾と被修飾の関係について理解する				○	○		80	60	39.7	3.4	▼
5	四1	慣用句の意味を知る				○	○		85	65	56.3	8.1	▼
5	四2	慣用句の意味を知る				○	○		80	60	52.6	10.6	▼
5	五①	ローマ字で書く「mae」				○	○		80	60	53.7	13.0	▼
5	五②	ローマ字で表記されたものを読む「げき」				○	○		85	65	56.2	15.3	▼
5	五③	ローマ字で表記されたものを読む「はっぴょう」				○	○		80	60	39.1	22.6	▼

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 適切な言葉づかいで話す設問では、「十分達成」の基準を上回っている
- 間の取り方に注意して話したり、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問したりする設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

書くこと

- 相手や目的に応じた表現に書き直す設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 書こうとすることの中心を明確にし、「条件」に合わせて書く設問では、正答率50.5で「おおむね達成」の基準50.0を0.5ポイント上回っているが、無解答率が8.4ポイントと課題が見られる。

読むこと

- 文学的な文章では、理由を挙げて感想を述べる設問では正答率50.8で「おおむね達成」の基準50.0を0.8ポイント上回っているが、無解答率が11.0ポイントと課題が見られる。
- 説明的な文章では、中心となる語を捉える、文章に書かれている事実を捉える、段落相互の関係を捉える設問において、全て「おおむね達成」の基準を下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 修飾と被修飾の関係、慣用句の意味、ローマ字の読み、書きを問う設問において全て「おおむね達成」の基準を下回っている。

② 小学6年生 国語

[表4] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語理解・技能	選択式	短答式 記述式						
A1	一	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	98.2	0.3	◎	
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	96.4	0.4	◎	
A1	三	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む				○	○		85	65	96.0	0.7	◎	
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		85	65	65.0	6.5		
A1	二	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		80	60	78.8	2.2		
A1	三	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く				○	○		85	65	80.1	1.9		
A2	一	文の中における主語を捉える				○	○		85	65	54.3	0.2	▼	
A2	二	文を構成する主語と述語との照応関係を捉える				○	○		85	65	74.2	0.3		
A3		話の内容に対する聞き方を工夫する	○				○		80	60	51.9	0.2	▼	
A4		具体的な事例を挙げて説明する文章を書く		○			○		80	60	84.9	0.1	◎	
A5	一	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える				○	○		80	60	57.4	0.6	▼	
A5	二	新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える				○	○		80	60	15.0	3.7	▼	
A6		登場人物の相互関係を捉える				○	○		80	60	67.0	1.5		
A7		作品募集の案内の中から、必要な情報を読み取る				○	○	○	80	60	74.5	2.4		
B1	一	目的や意図に応じ、新聞の割り付けをする		○			○		○	75	55	74.8	0.2	
B1	二	目的や意図に応じ、記事に見出しを付ける		○			○		○	80	60	67.8	0.2	
B1	三	目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く		○				○	○	70	50	27.6	2.8	▼
B2	一	目的に応じ、中心となる語や文を捉える				○		○	○	80	60	68.3	2.2	
B2	一	目的に応じ、中心となる語や文を捉える				○		○	○	80	60	85.4	3.1	◎
B2	二	目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉える		○	○			○	○	70	50	65.6	5.1	
B2	三	文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く		○	○			○	○	65	45	43.0	7.0	▼
B3	一	登場人物の行動を基にして、場面の移り変わりを捉える				○		○	○	75	55	59.7	7.1	
B3	二	登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する		○	○			○	○	65	45	51.9	11.7	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 話の内容に対する聞き方を工夫する設問では、正答率 51.9 で「おおむね達成」の基準 60.0 を 8.1 ポイント下回っており、話の目的や意図を考えながら聞くことに課題が見られる。

書くこと

- 具体的な事例を挙げて説明する設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書く設問では、正答率 27.6 で「おおむね達成」の基準 50.0 を 22.4 ポイント下回っており、複数の条件に合わせたり、新聞の様式で書いたりすることに課題が見られる。
- 文章と図とを関係付けて、自分の考えを書く設問では、正答率 43.0 で「おおむね達成」の基準 45.0 を 2.0 ポイント下回っている。無解答率は 7.0 である。複数の条件に合わせて、自分の考えを表現することに課題が見られる。

読むこと

- 目的に応じ、中心となる語や文を捉える 2 つの設問では、アが「おおむね達成」の、イが「十分達成」の基準を上回っている。
- 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉える設問では、正答率 15.0 で「おおむね達成」の基準 60.0 を 45.0 ポイント下回っており、事実と感想、意見などの関係を押さえながら読むことに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 学年別配当表に示されている漢字を正しく読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 文の中における主語を捉える設問では、正答率 54.3 で「おおむね達成」の基準 65.0 を 10.7 ポイント下回っている。主語の働き(意味や使い方)の理解に課題が見られる。

③ 中学1年生 国語

[表5] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式						記述式
1	一	目的に応じて、話し合いの観点を整理する	○				○	80	60	68.7	3.0		
1	二	立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合う	○				○	85	65	87.2	0.2	◎	
1	三	質問の意図を捉える	○				○	85	65	66.1	0.4		
1	四	自分の立場を明確にして説明する	○				○	85	65	84.0	1.4		
1	五	立場を明確にして、質問や意見を述べる	○				○	○	70	50	30.2	6.2	▼
2	一	目的や意図に応じて、書く事柄を整理する		○			○	80	60	62.6	0.3		
2	二	目的や意図に応じて、記述の仕方を工夫する		○			○	85	65	75.3	0.6		
2	三	相手が読んで理解しやすいようによりよく書き直す		○			○	75	55	55.2	4.6		
2	四	事実を整理して、適切な見出しを書く		○			○	80	60	69.0	2.4		
2	五	グラフから分かることを、条件に合わせて書く		○			○	○	70	50	64.9	3.7	
3	一	登場人物の相互関係や心情についての描写を捉える			○	○		80	60	89.1	0.6	◎	
3	二	叙述を基に、登場人物の心情を捉える			○	○		85	65	85.1	0.8	◎	
3	三	叙述を基に、登場人物の相互関係や心情を捉える			○	○		80	60	81.0	0.9	◎	
4	一	文章の内容を的確に捉える			○	○		85	65	64.1	1.6	▼	
4	二	文章の内容を的確に捉え、自分の考えを明確にしながらか読む			○		○	○	65	45	63.2	5.1	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「困って」				○	○	85	65	97.8	1.1	◎	
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「異なる」					○	85	65	97.2	1.2	◎	
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「訪ねる」					○	85	65	97.4	1.3	◎	
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「内閣」					○	85	65	97.8	1.3	◎	
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「養蚕」					○	80	60	71.6	3.8		
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「再び」					○	85	65	76.3	12.1		
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの漢字)「券」					○	85	65	52.4	6.5	▼	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「暖かい」					○	85	65	74.0	4.3		
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「方針」					○	85	65	63.5	12.7	▼	
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「成績」					○	85	65	48.6	8.0	▼	
5	三1	同音・同訓の漢字を正しく使う「治める」					○	80	60	60.0	2.4		
5	三2	同音・同訓の漢字を正しく使う「納める」					○	80	60	67.8	2.3		
5	四	熟語の構成について理解する					○	85	65	74.7	2.7		
5	五	ことわざの意味と使い方について理解する「宝の持ちぐされ」					○	80	60	93.0	2.8	◎	
5	六	相手や場面に応じ、適切に敬語を使う					○	80	60	76.4	3.0		

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 話し合い活動の中で、立場を明確にして、質問や意見を述べる設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

書くこと

- 目的や意図に応じて書く事柄を整理したり、記述の仕方を工夫したりする設問では、「おおむね達成」の基準を上回っている。

読むこと

- 文学的な文章では、登場人物の相互関係や心情についての描写を捉える設問、叙述を基に、登場人物の心情を捉える設問、登場人物の相互関係や心情を捉える設問において、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 説明的な文章では、文章に書かれている内容を的確に捉える設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 漢字の読みについての設問では、5設問中4問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5設問中3問「おおむね達成」の基準を下回っている。

④ 中学2年生 国語

[表6] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	選択式	短答式	記述式						
1	一	主張と根拠の関係に注意して話を構成し、相手に分かりやすく話す	○				○			75	55	73.1	0.3	
1	二	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○					○	○	65	45	23.1	22.3	▼
1	三	相手や場に応じた言葉遣いについての知識を生かして話す	○					○		70	50	92.5	3.2	◎
2	一	相手や場に応じた話し方についての知識を生かして話す	○					○		75	55	93.6	0.6	◎
2	二	相手や場に応じた言葉遣いについての知識を生かして話す	○					○		65	45	47.3	8.7	
3	一	段落の役割を考えて文章を構成する		○				○		75	55	90.8	2.1	◎
3	二	図表などを用いて、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く		○				○		70	50	78.8	1.2	◎
3	三	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く		○				○		70	50	59.6	10.6	
4	一	文章の形式を踏まえ、紙面を構成する		○				○		75	55	90.0	0.7	◎
4	二	伝えたい事柄について、表現の技法を効果的に用いて書く		○		○		○	○	65	45	45.2	10.9	
5	一	前後の文脈から、的確な語句を捉え、判断する				○		○		75	55	93.2	0.8	◎
5	二	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える						○	○	65	45	27.7	7.6	▼
5	三	文章の表現の特徴を的確に捉える				○		○		70	50	52.9	1.5	
6	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する				○		○		70	50	80.8	1.2	◎
6	二	登場人物の描写に注意して読み、内容を理解し、自分の考えをもつ				○			○	60	40	32.8	18.6	▼
6	三	擬人法などの表現技法を理解する				○	○	○		70	50	66.8	3.6	
7	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「険しい」					○	○		75	55	97.7	0.9	◎
7	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「設ける」					○	○		75	55	88.3	4.2	◎
7	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「利益」					○	○		75	55	94.9	2.2	◎
7	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「厳密」					○	○		75	55	87.9	3.3	◎
7	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)					○	○		75	55	98.4	0.8	◎
7	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「祝う」					○	○		75	55	59.4	10.2	
7	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「拜む」					○	○		70	50	27.6	40.1	▼
7	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字)「温かい」					○	○		70	50	56.5	5.7	
7	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「単純」					○	○		70	50	68.6	11.0	
7	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「簡潔」					○	○		70	50	30.5	19.8	▼
7	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の区切り方)					○	○		70	50	85.3	1.4	◎
7	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)					○	○		75	55	41.6	2.9	▼
7	三3	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(故事成語)「蛇足」					○	○		75	55	37.9	2.5	▼
7	四	字形を整えて楷書で書く					○	○		75	55	93.1	3.5	◎
7	五1	歴史的仮名遣いについて理解する					○	○		75	55	81.1	4.1	◎
7	五2	日本の文学には様々な種類の作品があることを理解する					○	○		75	55	72.2	1.7	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 相手や場に応じた言葉遣いについての知識を問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 相手や場に応じた話し方についての知識を問う設問では、正答率 93.6 で「十分達成」の基準 75.0 を 18.6 ポイント上回っている。
- 話し合いの方向を捉えた司会の役割について問う設問では、正答率 23.1 で「おおむね達成」の基準 45.0 を 21.9 ポイント下回っている。また、無解答率も 22.3 ポイントで課題が見られる。

書くこと

- 段落の役割を考えて文章の構成を問う設問と、文章の形式を踏まえて紙面を構成する設問では、どちらも「十分達成」の基準 75.0 を上回っている。
- 図表などを用いて、伝えたい事実や事柄について根拠を明確にして書く設問では、正答率 78.8 で「十分達成」の基準 70.0 を 8.8 ポイント上回っている。
- 書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く設問では、「おおむね達成」の基準 50.0 を 9.6 ポイント上回っているが、無解答率が 10.6 ポイントであり、課題が見られる。誤答の要因としては、文と文をつなぐ接続詞が適切に使えていなかったことが考えられる。
- 伝えたい事柄について、表現の技法を効果的に用いて書く設問では、「おおむね達成」の基準 45.0 を 0.2 ポイント上回ったが、無解答率が 10.9 ポイントであり、課題が見られる。
- 平成 26 年度に引き続き、「条件」に合わせて書く設問において課題が見られる。

読むこと

- 前後の文脈から、的確な語句を判断する設問では、正答率 93.2 で「十分達成」の基準 75.0 を 18.2 ポイント上回っている。文脈の中における語句の意味を的確に捉える設問では、正答率 80.8 で「十分達成」の基準 70.0 を 10.8 ポイント上回っている。
- 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、目的に応じて要旨を捉える設問では、「ね達成」の基準 45.0 を 17.3 ポイント下回っている。

- 登場人物の描写に注意して読み、内容を理解し、自分の考えを書く設問では、正答率 32.8 で「おおむね達成」の基準 40.0 を 7.2 ポイント下回っている。無解答率は 18.6 ポイントであり、課題が見られる。2 問はいずれも「活用」に関する問題で、「条件」に合わせて要旨をまとめたり、自分の考えを書いたりすることに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく読む設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。
- 「文節の区切り方」「字形を整えて楷書で書く」「歴史的仮名遣い」等の「知識」を問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、「訓読みの漢字」「音読みの熟語」の正答率が、それぞれ 2 設問中 1 問で「おおむね達成」の基準を下回っている。無解答率は「拝む」が 40.1 ポイント、「簡潔」が 19.8 ポイントであり、課題が見られる。

⑤ 中学3年生 国語

[表7] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況	
		国語への関心・意欲	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	議・理解・技能	選択式	短答式	記述式						
A1	一	相手の反応を踏まえて話す	○				○				75	55	91.4	0.1	◎
A1	二	聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す	○					○			70	50	46.2	14.4	▼
A2	一	意見を支える根拠の明確さについて助言する		○				○			75	55	78.1	0.3	◎
A2	二	書いた文章を読み返し、語句の選び方や使い方を工夫して書く			○				○		75	55	81.9	0.2	◎
A3	一	表現の技法について理解する					○		○		75	55	55.4	0.3	
A3	二	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する				○			○		70	50	87.1	0.2	◎
A3	三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する				○			○		70	50	89.3	0.3	◎
A4	一	伝えたい事実を明確に書く			○				○		70	50	76.9	4.6	◎
A5	一	文章から適切な情報を得て、考えをまとめる				○			○		75	55	93.2	0.3	◎
A6	一	目的に応じて要旨を捉える				○			○		70	50	70.0	0.4	◎
A6	二	表現の特徴を捉える				○			○		75	55	85.6	0.4	◎
A7	一	伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える			○				○		70	50	65.8	0.7	
A7	二	伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く			○				○		70	50	45.2	10.5	▼
A8	一	必要に応じて質問しながら聞き取る	○						○		75	55	82.0	0.7	◎
A8	二	必要に応じて質問しながら聞き取る	○						○		70	50	73.3	0.8	◎
A9	一1	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		75	55	94.2	2.2	◎
A9	一2	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		70	50	78.8	8.6	◎
A9	一3	文脈に即して漢字を正しく書く					○		○		75	55	75.5	14.1	◎
A9	二1	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		70	50	69.1	5.9	
A9	二2	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		75	55	94.0	0.9	◎
A9	二3	文脈に即して漢字を正しく読む					○		○		75	55	97.2	1.0	◎
A9	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	97.7	0.5	◎
A9	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			70	50	55.6	0.8	
A9	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	83.9	0.7	◎
A9	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	70.7	0.8	
A9	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			70	50	47.9	0.7	▼
A9	三カ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う					○	○			75	55	85.7	0.8	◎
A9	四①	単語の類別について理解する					○	○			75	55	54.7	1.0	▼
A9	四②	単語の類別について理解する					○	○			70	50	27.8	1.2	▼
A9	五	毛筆を用いて、楷書で文字を書く					○	○			75	55	87.0	0.9	◎
A9	六	手紙の書き方を理解して書く					○	○			70	50	58.1	1.2	
A9	七1	漫画の内容を参考にして、登場人物の思いやものの見方を想像する					○	○			70	50	73.0	1.5	◎
A9	七2	代表的な古典の作品に関心をもつ					○	○			75	55	68.9	10.2	
B1	一	状況に応じて、資料を活用して話す	○					○		○	70	50	71.4	0.1	◎
B1	二	効果的な資料を作成し、活用して話す	○					○		○	70	50	85.6	0.2	◎
B1	三	資料の提示の仕方を工夫し、その理由を具体的に書く	○	○					○	○	60	40	60.5	7.2	◎
B2	一	目的に応じて文章を要約する				○			○		70	50	81.3	0.2	◎
B2	二	文章の中心的な部分と付加的な部分などを読み分け、要旨を捉える				○			○		70	50	63.3	0.4	
B2	三	複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く			○				○	○	55	35	16.4	7.9	▼
B3	一	表現の工夫について自分の考えをもつ				○			○		70	50	85.7	0.7	◎
B3	二	表現の工夫について自分の考えをもつ				○			○		70	50	80.6	0.7	◎
B3	三	文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く			○	○			○	○	60	40	45.8	12.9	

○ 成果と課題

話すこと・聞くこと

- 7設問中6問で「十分達成」の基準を上回っている。
- 聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す設問では、正答率46.2で、「おおむね達成」の基準50.0を3.8ポイント下回っている。

書くこと

- 交流をして互いに助言したり、推敲したりすることを問う設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことを問う設問では、正答率45.2で、「おおむね達成」の基準50.0を4.8ポイント下回っており、文の接続に注意し、伝えたい事柄を明確にして書くことに課題が見られる。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問では、正答率16.4で、「おおむね達成」の基準35.0を18.6ポイント下回っており、複数の資料の内容を関連付け、それらの内容を適切に取り上げて、説明や具体例を加えて書くなど、「読むこと」と関連付けて自分の考えを書くことに課題が見られる。

読むこと

- 主として「知識」に関する問題の設問では、「十分達成」の基準を全て上回っている。
- 複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く設問では、正答率が16.4で「おおむね達成」の基準を下回っており、複数の資料から適切な情報を読み取り、書くことと関連付けて自分の考えをまとめることに課題が見られる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく読む、書く、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うことに関しては、12問中8問で「十分達成」の基準を上回っている。
- 「たなびく」という「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」設問では、正答率47.9で、「おおむね達成」の基準を下回っている。H24年度調査でも同一の問題が出題されており、同様の結果であった。語感を磨き語彙を豊かにすることに課題が見られる。
- 単語の類別について、単純な理解はできつつあるが、転成名詞などは十分に理解できていない。
- 送り仮名のある訓読みの漢字(余)を書くことを問う設問の無解答率が、他の設問の無解答率に比べて高い。

(4) 改善のポイント(校種ごと)

小学校

- ・ 国語科の授業における話し合い活動はもちろん、他教科や特別活動における話し合い活動の場においても、立場を明確にして質問や意見を述べることや、出された質問や意見が適切かどうかを意識して聞くことを指導する。
- ・ 話し合い活動や交流活動において、他者の意見に対して「賛成か反対か」「それはなぜなのか」といったことを書かせることで、自分の考えをまとめたり、考えたことを整理したりする機会を設定する。
- ・ 総合的な学習の時間などに、お礼の手紙を書く取り組みなどがあれば事前に指導する機会を設け、学習した内容を想起しながら書かせる指導法が考えられる。
- ・ 単元の指導事項と照らし合わせながら、適切な条件(字数・キーワード・引用など)を設定し、その「条件」に合わせて書かせる指導を継続して行う。
- ・ 漢字の読み書きは、ドリル的な学習だけではなく、漢字の意味や成り立ちを考える場面や、学習した漢字を積極的に使うことができるような場面を設定するなどして、定着を図るようにする。
- ・ 修飾と被修飾の関係については、児童が書いた文を交流させるような学習を位置付けて、書かれた内容が適切かどうかをお互いに確認し合うなどの活動を通して、理解を深めるようにする。
- ・ 慣用句は、意味を指導するだけでなく、学習した慣用句を用いて作文するなどの活動を、「書くこと」の学習に取り入れるなどして、その定着を図る。

中学校

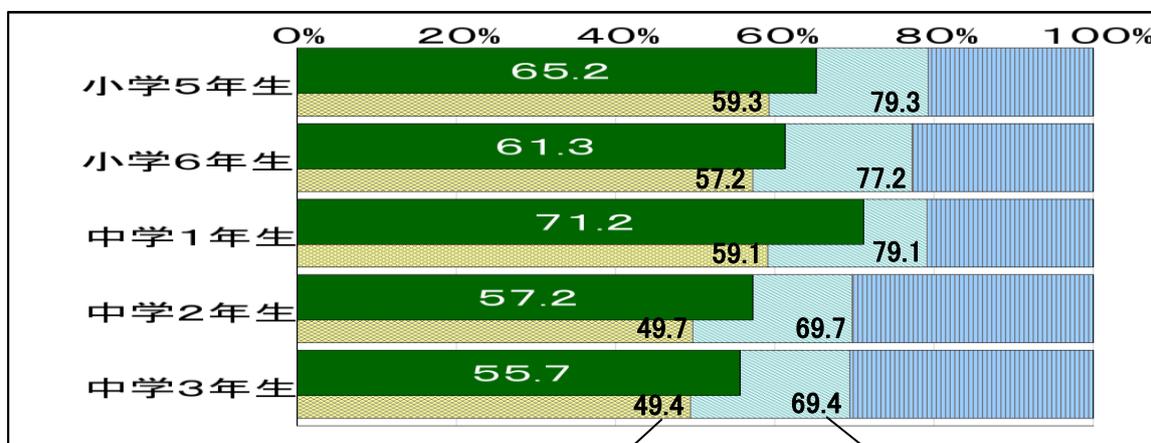
- ・ 「話すこと・聞くこと」に関する学習では、特に、話し合う場を設定し、日常生活や社会生活の中の話題について、司会や提案者を立てて討論を行う等の学習活動を繰り返して行う。
- ・ 「『条件』に合わせて書く」という学習活動を繰り返し設定し、継続的に指導する。
- ・ 「意見を述べる文章を書く」ために、論点について賛成か反対かなど自分の立場を決めて、自分の考えの中心や主張を明確にして書くような学習活動を設定する。
- ・ 文章に書かれていることを読み取るだけにとどまらず、作品に表れている登場人物の心情、書き手の思いや価値観、表現の仕方などについて、自分自身の感想をもち、他者と交流するような学習活動を設定する。
- ・ 目的に沿って資料の内容を整理する際に、使用した資料の内容を適切に取り上げているかを確認するように指導する。また、その内容を基に自分の考えを適切に表現できているかを確認させるなど、「書くこと」と関連付けて指導する。
- ・ 文法事項については、例文を使って比較したり書き換えたりして、文法事項を取り上げる場面を多く設定し、品詞や文の成分が文の中で果たす役割の違いに着目するように指導する。
- ・ 漢字に関しては、読んだり書いたりするだけではなく、漢字の意味を調べたり、話や文章の中で実際に使われている意味を踏まえながら学習したりするなどして、生徒の語彙力が高まるような学習活動に取り組ませる。

3 教科ごとの調査結果 ◎ 算数・数学（小学5年生～中学3年生）

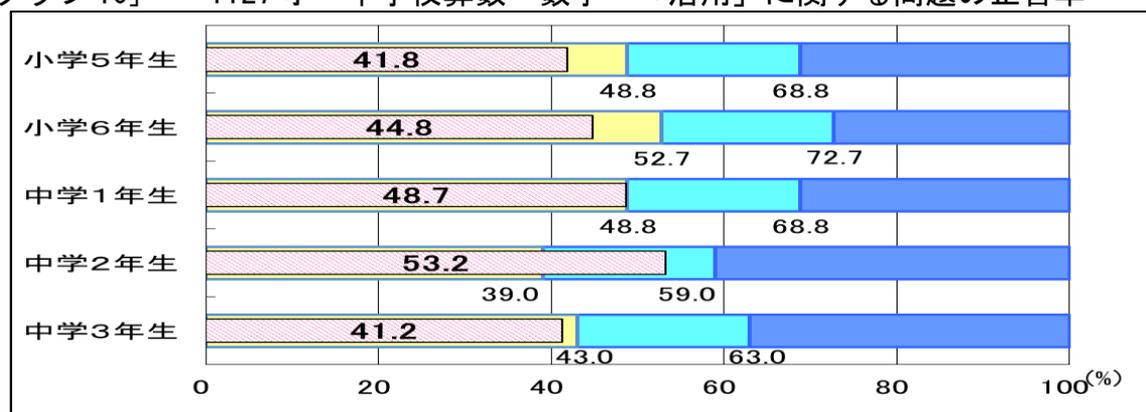
(1) 結果の概要

- 小・中学校ともに、教科正答率では、全ての学年において「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ9]
- 「活用」に関する問題については、小学5年生、小学6年生、中学1年生、中学3年生は「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ10]
- 学んだことを活用して問題の解決をしたり、問題解決の方法や判断の理由を式や言葉で説明したりすることなど数学的な見方や考え方については、引き続き課題が見られる。小学校では、図形の性質や単位量の考え方など学んだことを活用して判断の理由を式や言葉で説明する力に課題が見られる。中学校では、作図方法を理解し、具体的な場面で活用することや資料の傾向を捉えることに課題が見られる。[グラフ11]
- 小学校の「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。中学校は全ての観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ11～13]
- 領域別にみると、小学5年生と中学1年生では、面積や単位量の考え方などの「量と測定」の領域で課題が見られる。小学6年生では図形の性質などの「図形」の領域で課題が見られる。中学2年生では、範囲や最頻値についての知識に関することや資料の傾向を捉えることなどの「資料の活用」の領域で課題が見られる。中学3年生では、全ての領域で「おおむね達成」の基準を上回っており、中でも「数と式」の領域は他の領域と比べて正答率が高い。[グラフ14～18]

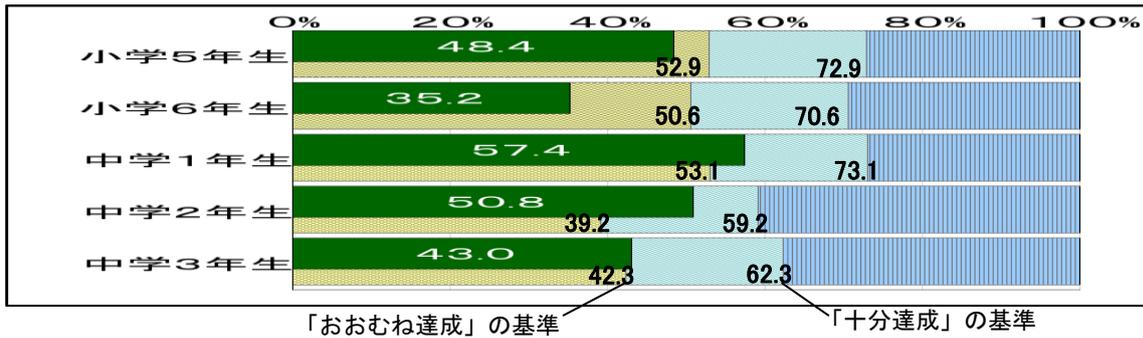
[グラフ9] H27 小・中学校算数・数学 教科正答率



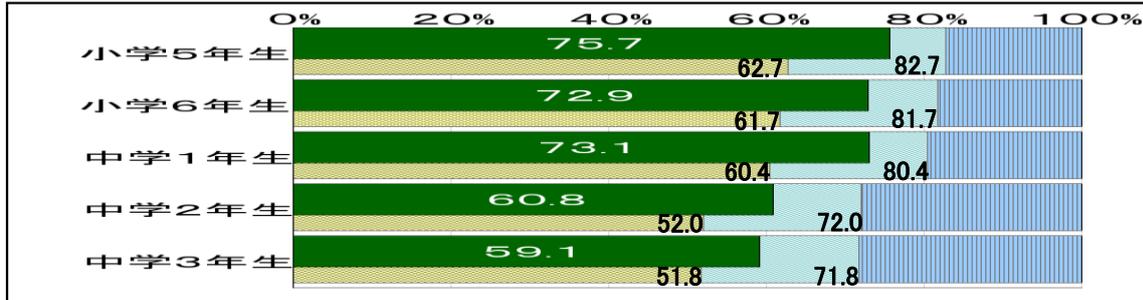
[グラフ10] H27 小・中学校算数・数学 「活用」に関する問題の正答率



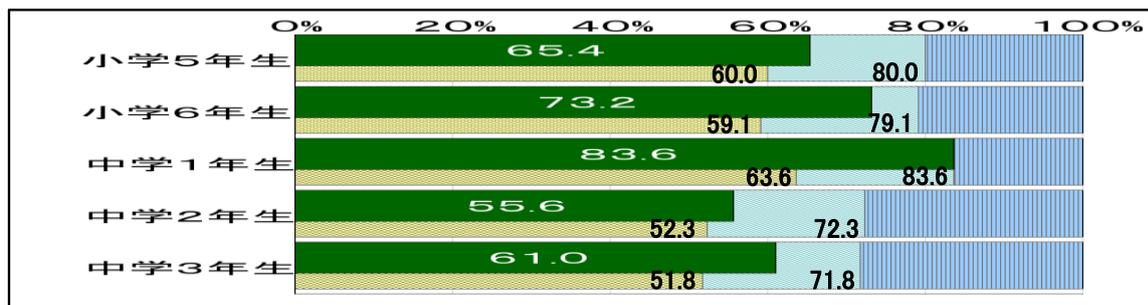
[グラフ 11] H27 小・中学校算数・数学「数学的な考え方（見方や考え方）」観点の正答率



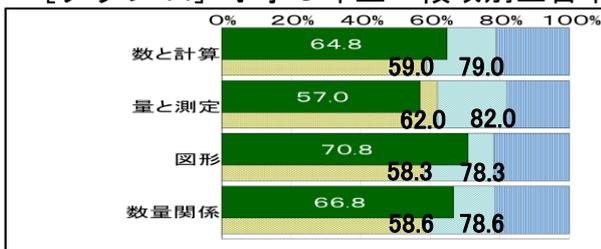
[グラフ 12] H27 小・中学校算数・数学「数量や図形についての(数学的な)技能」観点の正答率



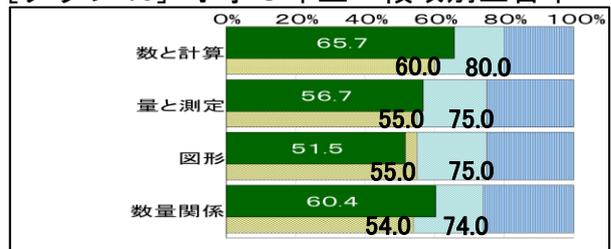
[グラフ 13] H27 小・中算数・数学「数量や図形(など)についての知識・理解」観点の正答率



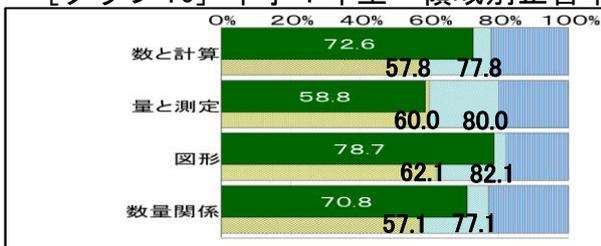
[グラフ 14] 小学5年生 領域別正答率



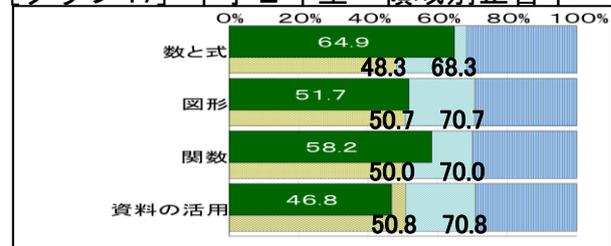
[グラフ 15] 小学6年生 領域別正答率



[グラフ 16] 中学1年生 領域別正答率



[グラフ 17] 中学2年生 領域別正答率



[グラフ 18] 中学3年生 領域別正答率



(2) 地域別の状況

- 県内5地域の算数・数学の学年別平均正答率の対県比は[表8]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中4学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ19]

[表8] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校5年生	算数	H27	1.00	1.02	0.96	1.01	1.05	拡 0.09
		H26	1.00	1.01	0.97	1.02	0.98	0.05
小学校6年生	算数	H27	0.99	1.01	0.98	1.01	1.00	縮 0.03
		H26	1.01	1.02	0.97	0.99	1.00	0.05
中学校1年生	数学	H27	1.00	1.03	0.99	0.99	0.98	拡 0.05
		H26	1.00	1.02	0.98	1.01	1.00	0.04
中学校2年生	数学	H27	1.02	1.03	0.91	1.02	0.98	▲拡 0.12
		H26	1.02	1.01	0.94	1.04	0.94	▲ 0.10
中学校3年生	数学	H27	1.03	1.01	0.96	1.02	0.92	▲拡 0.11
		H26	1.01	1.02	0.96	1.01	0.95	0.07

※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出

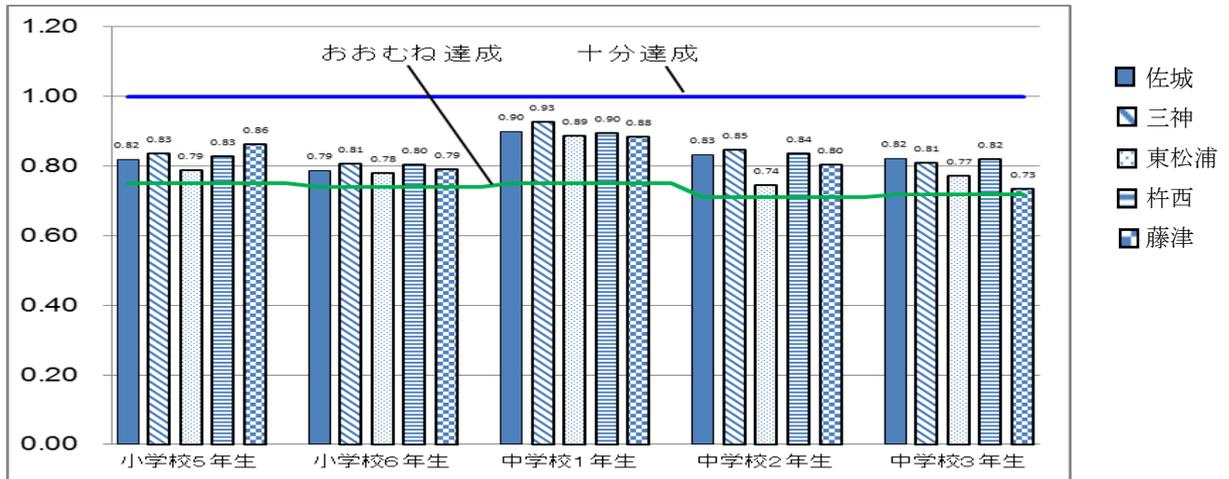
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度調査より地域差が拡大した教科を、「縮」は縮小した教科を示す

[グラフ19] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題

① 小学5年生 算数

[表9] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点				問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	知識・技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式					
1	(1) 1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○					○			○		85	65	92.7	0.0	◎
1	(2) 除数が2位数、被除数が3位数の除法の計算をすることができる	○					○			○		85	65	83.5	1.3	
1	(3) 乗数が2位数、被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算をすることができる	○					○			○		80	60	61.6	0.9	
1	(4) 同分母の分数の減法の計算をすることができる	○					○			○		85	65	87.4	0.7	◎
2	(1) 億と兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○							○	○		80	60	86.8	0.3	◎
2	(2) 小数の意味と表し方について理解している	○							○	○		85	65	31.2	0.6	▼
2	(3) 正方形の面積を求めることができる	○	○				○			○		85	65	62.7	1.1	▼
2	(4) m ² で表された面積を、cm ² で表すことができる(※)	○	○				○			○		80	60	37.5	0.7	▼
3	(1) 除法に関して成り立つ性質について理解している	○							○	○		75	55	59.2	0.5	
3	(2) 身の回りにあるもののおよその面積を理解している	○	○						○	○		80	60	35.0	0.7	▼
3	(3) 整数、小数の大小を比較することができる	○					○			○		80	60	58.9	0.3	▼
4	(1) 複合図形の面積の求め方を考えることができる	○	○				○			○		80	60	61.7	1.4	
4	(2) 分度器を用いて角の大きさを求めることができる	○	○				○			○		85	65	88.0	0.2	◎
4	(3) 平行四辺形の特徴を理解している		○						○	○		75	55	68.2	1.3	
5	(1)① 分配法則について理解している			○					○	○		80	60	61.9	3.3	
5	(1)② 結合法則を使って、計算の仕方を工夫することができる			○			○			○		80	60	48.0	3.1	▼
5	(2) 四則が混合し、()を用いた式の計算をすることができる			○			○			○		75	55	76.2	1.2	◎
6	(1) 展開図を組み立ててできる立体の頂点の位置関係を理解している		○						○	○		85	65	88.4	0.6	◎
6	(2) 展開図を組み立ててできる立体の辺の位置関係を理解している		○						○	○		80	60	81.3	0.6	◎
6	(3) 展開図を組み立ててできる立体の面と辺の垂直の関係を理解している		○						○	○		75	55	60.3	1.5	
7	ものの位置の表し方を理解している		○						○	○		85	65	81.4	1.5	
8	示された表を基に、パンと飲み物の数を求め、代金を求めることができる			○			○			○	○	70	50	35.4	5.3	▼
9	(1) 折れ線グラフで表されていることを読み取ることができる			○			○			○		85	65	92.2	1.1	◎
9	(2) 折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる			○			○			○		85	65	92.2	1.0	◎
10	示された条件を基に、代金が安くなる買い方を選び、その理由を説明することができる	○					○			○	○	70	50	51.5	3.0	
11	図や表を基に、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、□や○を用いて式に表すことができる			○			○			○		75	55	61.9	3.5	
12	示された条件を基に、条件に合ったさいころの展開図を考えることができる		○				○			○		70	50	45.1	4.2	▼
13	示された情報を基に、もちつき会で使ったもち米の重さが何kgになるのかを考え、説明することができる	○					○			○	○	65	45	35.2	14.1	▼

(※)平成26年度[12月調査]小学校第5学年調査と同一問題

○ 成果と課題

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する設問については、21 設問中 9 問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 小数の位に関する知識や、計算の決まりに関する技能などに課題が見られる。
- 「活用」に関する問題については、4 設問中 3 問が「おおむね達成」を下回っており、示された条件や表から読み取ったことを基に、問題解決をする力や、考えたことを記述する力に課題が見られる。

② 小学6年生 算数

[表 10] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「○」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点				問題形式	「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方の技能	数量や図形についての知識・理解	数量や図形についての技能							
A1 (1)	小数の減法について、計算の結果のおよその大きさを捉えることができる	○							○	○		80	60	68.8	0.2	
A1 (2)	単位となる小数の幾つ分で、小数の大きさを表すことができる	○						○		○		80	60	74.4	0.4	
A1 (3)	加法における計算の確かめの方法を理解している	○						○	○	○		80	60	77.0	1.0	
A2 (1)	繰り上がりのある2位数の加法の計算をすることができる	○						○		○		85	65	98.0	0.1	◎
A2 (2)	末尾の位のそろっていない小数の減法の計算をすることができる	○						○		○		85	65	67.4	0.5	
A2 (3)	異分母の分数の減法の計算をすることができる	○						○		○		85	65	81.9	1.0	
A2 (4)	除数が整数である場合の分数の除法の計算をすることができる	○						○		○		85	65	87.5	1.1	◎
A3	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる		○					○		○		80	60	73.3	0.5	
A4 (1)	180° よりも大きい角のおよその大きさを、2直角、3直角を基に捉えることができる		○						○	○		80	60	83.7	0.2	◎
A4 (2)	180° や360° を基に分度器を用いて、180° よりも大きい角の大きさを求めることができる		○					○		○		80	60	59.1	0.2	▼
A5 (1)	示された三角形が二等辺三角形になる根拠となる円の性質を、選択することができる			○					○	○		85	65	48.6	0.6	▼
A5 (2)	円の性質から三角形の等辺を捉え、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることができる			○					○	○		80	60	61.5	1.2	
A6 (1)	示された見取図の情報を基に、展開図に必要な面の大きさを読み取ることができる			○					○	○		80	60	73.7	1.2	
A6 (2)	見取図と展開図を関連付けて、立体図形の辺や面の位置関係を理解している			○					○	○		75	55	67.8	1.8	
A7	グラフに表されている事柄を読み取ることができる				○				○	○		75	55	82.5	1.6	◎
A8	式で表現された数量の関係を図と関連付けて理解することができる				○				○	○		80	60	89.6	2.4	◎
B1 (1)	平行四辺形の性質を基に、平行四辺形を構成することができる辺の組み合わせを理解している			○					○	○		80	60	95.2	0.0	◎
B1 (2)	平行四辺形の作図の方法に用いられる図形の約束や性質を理解している			○					○	○		75	55	56.2	0.6	
B1 (3)	示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見だし、その図形の性質を記述できる			○			○			○		70	50	36.6	10.3	▼
B2 (1)	単位量当たりの大きさを基に、目的に応じた買物の仕方を選択し、代金を求めることができる		○	○				○		○		75	55	63.6	0.2	
B2 (2)	示された情報から基準量を求める場面と捉え、比較量と割合から基準量を求めることができる			○					○	○		70	50	12.9	3.1	▼
B2 (3)	示された割り引き後の値段の求め方の中から誤りを指摘し、正しい求め方と答えを記述できる				○			○		○		70	50	53.5	11.1	
B3 (1)	正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることができる	○	○				○			○		75	55	29.7	5.7	▼
B3 (2)	正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、∠Aの角が30° になる理由を記述できる			○			○			○		70	50	36.3	16.1	▼
B4 (1)	四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することができる	○						○		○		80	60	50.6	2.2	▼
B4 (2)	切り上げた場合の見積りの結果を基に、目標に達しているかについて判断できる	○						○		○		75	55	58.8	3.5	
B4 (3)	概数を用いた見積りの結果とそれに基づく判断を理解し、3000個集めればよい理由を記述できる	○						○		○		70	50	28.5	13.4	▼
B5 (1)	長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述できる		○	○			○			○		65	45	14.1	19.0	▼
B5 (2)	条件を変更した場合に面積を2等分する考えを適用して、示された部分の面積を求めることができる		○	○			○			○		70	50	46.0	16.3	▼

○ 成果と課題

- 主として「知識」に関する設問は、16 設問中 5 問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 作図の技能や図形の性質に関する知識には課題が見られる。基礎的な知識・技能の確実な定着が必要である。
- 「活用」に関する設問は、13 設問中 8 問が「おおむね達成」の基準を下回っており、知識・技能等を様々な場面で活用する力に課題が見られる。
- 考えたことを記述する設問は、5 設問中 4 問が「おおむね達成」を下回っており、事象が成り立つ根拠や、判断の理由などを記述することに課題が見られる。

③ 中学1年生 数学

[表 11] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式		活用に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	算数・態度	数学的考え方	の技能	の知識・理解						
1 (1)	被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○					○		○			85.65	94.4	0.3	◎
1 (2)	被乗数が真分数、乗数が帯分数の乗法の計算ができる	○					○		○			85.65	88.7	0.6	◎
1 (3)	被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算ができる	○					○		○			85.65	92.6	0.6	◎
1 (4)	整数、小数及び分数を含んだ乗法、除法の混合計算ができる	○					○		○			80.60	79.8	1.4	
2 (1)	除数が分数や小数である除法において、被除数と商の大きさとの関係について考えることができる	○				○			○			80.60	62.9	0.5	
2 (2)	x や y を用いて、数量の関係を式に表すことができる			○			○		○			75.55	81.0	0.8	◎
3 (1)	数量の関係を数直線に表すことができる	○					○		○			75.55	66.6	3.0	
3 (2)	数量の関係を捉え、基準にする大きさを求める式を考えることができる	○				○			○			75.55	44.0	7.3	▼
4 (1)	分速を基にして、時速を求めることができる		○				○		○			80.60	48.4	2.3	▼
4 (2)	円の面積を求めることができる		○				○		○			85.65	70.4	1.0	
4 (3)	実際の長さから地図上の長さを求めることができる		○				○		○			75.55	51.0	2.7	▼
4 (4)	三角柱の体積を求めることができる		○				○		○			85.65	54.6	2.8	▼
5	起こり得る場合を順序よく整理して調べることができる			○			○		○			80.60	87.8	0.4	◎
6 (1)	線対称な図形の対称の軸について理解している			○				○	○			85.65	89.3	0.5	◎
6 (2)	線対称の意味について理解している			○				○	○			85.65	77.9	1.8	
7 (1)	点対称な図形について理解している			○					○	○		85.65	83.1	0.4	
7 (2) ①	点対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○					○	○		85.65	96.3	0.5	◎
7 (2) ②	点対称の意味について理解している			○					○	○		85.65	84.7	0.8	
8	池の概形を捉え、およその面積を求める式を考えることができる		○				○		○			80.60	89.0	0.5	◎
9	示された情報を基に、被除数、除数、商及び余りの関係を捉え、作ることができる指輪の最大数を考えることができる	○					○		○	○		70.50	78.1	1.6	◎
10 (1)	比例の関係を式に表すことができる			○			○		○			80.60	85.7	1.5	◎
10 (2)	比例のグラフの特徴を理解している			○				○	○			80.60	79.8	1.2	
11	四角形の4つの角の和は360度であることを利用し、拡大図の対応する角の大きさを考えることができる			○			○		○			75.55	68.5	2.4	
12 (1)	柱状グラフにおける資料の分布の様子を理解している			○				○	○			80.60	74.0	0.9	
12 (2)	柱状グラフから読み取ったことを基に、割合を百分率で表すことができる			○			○		○			75.55	49.3	3.7	▼
13	示された考えが正しいかどうかを、単位量当たりの大きさを用いて判断し、その理由を説明することができる		○				○		○	○		70.50	31.5	6.0	▼
14	示された条件を基に、額縁と額縁の間の長さを求め、その方法を説明することができる	○					○		○	○		65.45	46.7	11.3	
15	示された条件を基に、2人がそれぞれ出すべき金額を、比を用いて考えることができる			○			○		○	○		70.50	38.3	6.6	▼

○ 成果と課題

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する設問は、20 設問中 8 問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 「割合」「百分率」「速さ」などに関する設問については、これまでと同様に課題が見られる。
- 「活用」に関する設問は、4 設問中 2 問が「おおむね達成」の基準を下回っており、日常の場面での問題を、比や単位量の考え方をを用いて解決したり、考えたことを記述したりすることに課題が見られる。

④ 中学2年生 数学

〔表12〕 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点				問題形式			十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え	数学的な技能	数学的知識・理解	数量や図形などについて	選択式	短答式	記述式					
1	(1) 正の数・負の数の加減の計算をすることができる	○					○				○			75	55	94.0	0.6	◎
1	(2) 指数を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○					○				○			70	50	65.1	1.3	
1	(3) 分配法則を用いた文字の式の計算をすることができる	○					○				○			70	50	59.3	5.3	
2	(1) 絶対値の意味を理解している	○							○		○			75	55	86.7	4.8	◎
2	(2) 文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○							○		○			70	50	62.3	6.0	
2	(3)① 一元一次方程式を解くことができる	○							○		○			75	55	74.1	5.4	
2	(3)② 分数の一元一次方程式を解くことができる	○							○		○			70	50	36.4	16.2	▼
2	(3)③ 比例式を解くことができる	○							○		○			70	50	62.6	12.2	
3	文字を用いた不等式から、数量の大小関係を読み取り、説明することができる	○					○				○	○		60	40	48.7	10.5	
4	具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる	○					○				○	○		60	40	77.7	9.1	◎
5	(1) 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○							○		○			70	50	63.9	3.8	
5	(2) 事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○					○				○	○		55	35	47.7	23.0	
6	(1) 角の二等分線の作図方法を、図形の対称性に着目して見直すことができる		○							○	○			70	50	50.3	2.7	
6	(2) 図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる		○						○		○			75	55	39.5	2.0	▼
6	(3) 扇形の面積を求めることができる		○						○		○			70	50	36.7	17.2	▼
7	垂直二等分線の作図方法を理解し、具体的な場面で活用することができる		○					○			○	○		65	45	44.5	14.0	▼
8	(1) 底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している		○							○	○			70	50	53.4	1.7	
8	(2) 展開図で示された空間図形について、2つの面の位置関係を捉えることができる		○							○	○			75	55	90.3	1.5	◎
8	(3) 球の表面積の求め方を理解している		○							○	○			70	50	46.8	2.4	▼
9	(1) 比例の関係を式に表すことができる			○					○		○			75	55	59.5	11.2	
9	(2) 比例の関係をグラフに表すことができる			○					○		○			75	55	61.2	10.3	
9	(3) 比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が、その式を満たしていることを理解している			○						○	○			75	55	34.6	3.2	▼
9	(4) 反比例について、グラフと表を関連付けて理解している			○						○	○			70	50	62.3	3.1	
9	(5) 関数の意味を理解している			○						○	○			70	50	58.9	3.9	
10	(1) 与えられた情報から、xとyの関係を表に表すことができる			○					○		○			70	50	83.8	5.1	◎
10	(2) 与えられた情報を基に、xとyの関係が反比例であることを説明することができる			○				○			○	○		55	35	47.4	14.2	
11	(1) 範囲について理解している			○						○	○			75	55	30.9	14.4	▼
11	(2) 最頻値について理解している			○						○	○			75	55	41.3	12.5	▼
11	(3) 与えられた資料を度数分布表に整理することができる			○					○		○			75	55	79.7	7.0	◎
12	(1) 度数分布表から相対度数を求めることができる			○					○		○			70	50	34.6	17.8	▼
12	(2) 度数分布表を利用した平均値の求め方について理解している			○					○		○			70	50	55.7	6.5	
13	資料の傾向を捉えることができる			○			○				○	○		60	40	38.8	5.5	▼

○ 成果と課題

- 基礎的・基本的な知識・技能に関する設問については、26 設問中 5 問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 「数と式」の領域では、分数の一元一次方程式を解くこと、「図形」の領域では、図形の回転移動に関することや扇形の面積を求めること、「関数」の領域では、比例のグラフ上にある点の座標に関することに課題が見られる。
- 「資料の活用」の領域では、6 設問中 4 問が「おおむね達成」の基準を下回っており、度数分布表から相対度数を求めることや資料の傾向を捉えることに課題が見られる。

⑤ 中学3年生 数学

[表 13] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点				問題形式		「活用」に関する問題	十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え	数学的な技能	数量や図形などについて	選択式	短答式	記述式						
A1 (1)	比の意味を理解している	○						○	○				75	55	93.5	0.1	◎
A1 (2)	加減乗除を含む正の数と負の数の計算において、計算のきまりにしたがって計算できる	○						○		○			75	55	82.0	1.1	◎
A1 (3)	正の数と負の数の乗法について理解している	○						○	○				70	50	74.0	0.2	◎
A1 (4)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	○						○		○			75	55	74.1	1.3	
A2 (1)	一次式の減法の計算ができる	○						○		○			75	55	84.7	1.6	◎
A2 (2)	数量の関係を文字式に表すことができる	○						○		○			70	50	19.7	8.1	▼
A2 (3)	等式を目的に応じて変形することができる	○						○		○			70	50	62.4	6.2	
A2 (4)	文字を用いた式で数量の関係を説明するための構想を理解している	○						○		○			70	50	53.4	8.1	
A3 (1)	方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	○						○	○				75	55	76.7	0.6	◎
A3 (2)	小数を含む一元一次方程式を解くことができる	○						○		○			70	50	70.3	7.3	◎
A3 (3)	具体的な事象における数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくることができる	○						○		○			70	50	47.7	0.9	▼
A3 (4)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○						○		○			70	50	52.1	10.8	
A4 (1)	垂線の作図が図形の対称性を基に行われていることを理解している	○						○	○				65	45	53.2	1.0	
A4 (2)	平行移動した図形をかくことができる	○						○		○			75	55	47.5	2.9	▼
A4 (1)	空間における直線と平面の垂直について理解している	○						○		○			75	55	40.3	1.9	▼
A5 (2)	直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形を理解している	○						○	○				75	55	81.7	0.3	◎
A5 (3)	与えられた投影図から空間図形を読み取ることができる	○						○		○			75	55	79.9	0.4	◎
A5 (4)	与えられた式を用いて体積を求めることができる立体を理解している	○						○	○				70	50	55.0	1.5	
A6 (1)	同位角の意味を理解している	○						○	○				75	55	78.5	0.4	◎
A6 (2)	多角形の内角の和の性質を理解している	○						○	○				70	50	67.1	0.9	
A7 (1)	ひし形の「対角線は垂直に交わる」という性質を、記号を用いた表現から読み取ることができる	○						○		○			75	55	73.9	0.5	
A7 (2)	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	○						○		○			70	50	66.6	7.5	
A7 (3)	作図の根拠として用いられている平行四辺形になるための条件を理解している	○						○	○				70	50	43.4	0.9	▼
A8	証明の必要性と意味を理解している	○						○	○				70	50	24.9	1.4	▼
A9	関数の意味を理解している		○					○	○				75	55	82.3	1.0	◎
A10 (1)	反比例のグラフがx軸、y軸に限りなく近づく2つのなめらかな曲線であることを理解している		○					○	○				75	55	58.9	1.5	
A10 (2)	与えられた比例の式について、そのグラフ上の点のx座標を基にy座標を求めることができる		○					○		○			75	55	62.4	10.5	
A10 (3)	与えられた比例のグラフから、xの変域に対応するyの変域を求めることができる		○					○		○			70	50	42.1	17.2	▼
A11	一次関数の表から、xとyの関係を式で表すことができる		○					○		○			70	50	62.8	1.5	
A12 (1)	時間と道のりの関係を表すグラフについて、グラフの傾きが速さを表すことを理解している		○					○		○			70	50	45.9	1.5	▼
A12 (2)	時間と道のりの関係を表すグラフから、与えられた時間における道のりを読み取ることができる		○					○		○			70	50	81.6	8.7	◎
A13	二元一次方程式の解を座標とする点の集合は、直線として表されることを理解している		○					○	○				70	50	35.8	2.7	▼
A14 (1)	与えられた資料から中央値を求めることができる		○					○		○			75	55	49.3	9.2	▼
A14 (2)	与えられた資料の度数分布表について、ある階級の度数を求めることができる		○					○		○			75	55	74.4	8.8	
A15 (1)	起こり得る場合を順序よく整理し、場合の数を求めることができる		○					○		○			70	50	72.0	5.7	◎
A15 (2)	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している		○					○	○				70	50	53.9	2.7	
B1 (1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる		○					○		○	○		65	45	26.2	22.8	▼
B1 (2)	必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈することができる		○					○		○	○		65	45	35.6	0.8	▼
B1 (3)	事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明することができる		○					○		○	○		60	40	25.9	13.4	▼
B2 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○						○		○			70	50	78.1	6.5	◎
B2 (2)	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	○						○		○			60	40	28.9	28.7	▼
B2 (3)	発展的に考え、予想した事柄を説明することができる	○						○		○			60	40	65.6	19.6	◎
B3 (1)	平面図形と空間図形を関連付けて事象を考察し、その特徴を的確に捉えることができる	○						○		○	○		60	40	40.5	9.8	
B3 (2)	図形に着目して考察した結果を基に、問題解決の方法を図形の性質を用いて説明することができる	○						○		○	○		55	35	21.0	48.3	▼
B4 (1)	証明を振り返り、新たな性質を見出すことができる	○						○		○	○		65	45	35.2	1.3	▼
B4 (2)	発展的に考え、条件を変えた場合について証明することができる	○						○		○	○		60	40	46.7	21.1	
B5 (1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる		○					○		○	○		70	50	31.7	27.7	▼
B5 (2)	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		○					○		○	○		60	40	36.1	31.4	▼
B5 (3)	振り返って立てられた構想に沿って、事象を数学的に表現し、その意味を解釈することができる	○						○		○	○		65	45	64.8	1.9	
B6 (1)	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断できる		○					○		○	○		70	50	43.3	1.7	▼
B6 (2)	与えられた表や式を用いて、問題を解決する方法を数学的に説明することができる		○					○		○	○		60	40	37.6	27.0	▼

○ 成果と課題

- 「知識」に関する設問については、36 設問中 12 問が「十分達成」の基準を上回っている。
- 「活用」に関する問題については、15 設問中 10 問が「おおむね達成」の基準を下回っており、事柄が成り立つ理由、判断の理由、問題解決の方法などを数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。
- 「数と式」の領域では、数量の関係を文字式に表すこと、「図形」の領域では、証明の必要性と意味の理解に関すること、「関数」の領域では、表、式、グラフを関連付けた理解に関することに課題が見られる。

(4) 改善のポイント（校種ごと）

小学校

- 知識・技能を身に付けさせる際には、その意味の理解をさせながら指導することが大切である。学習用語や計算などの意味を児童に問いながら学習を行うことで、確実に知識・技能を身に付けさせるようにする。
- 算数で学習したことが日常生活や他の教科の学習の様々な場面で活用されていることに気付かせ、算数のよさを実感を伴って味わうことができるようにする。そのために、児童にとって身近で、解決の必要性を感じる場面を基に問題を設定し、算数のよさを実感させ、学んだことを進んで活用する態度を育てるようにする。
- どのような力を身に付けさせたいかを意図して言語活動を仕組む必要がある。問題の解き方を説明させるだけでなく、判断の理由を説明する活動や、他者の考えを修正する活動など様々な言語活動を通して授業のねらいに迫り、思考力・表現力の育成を図るようにする。

中学校

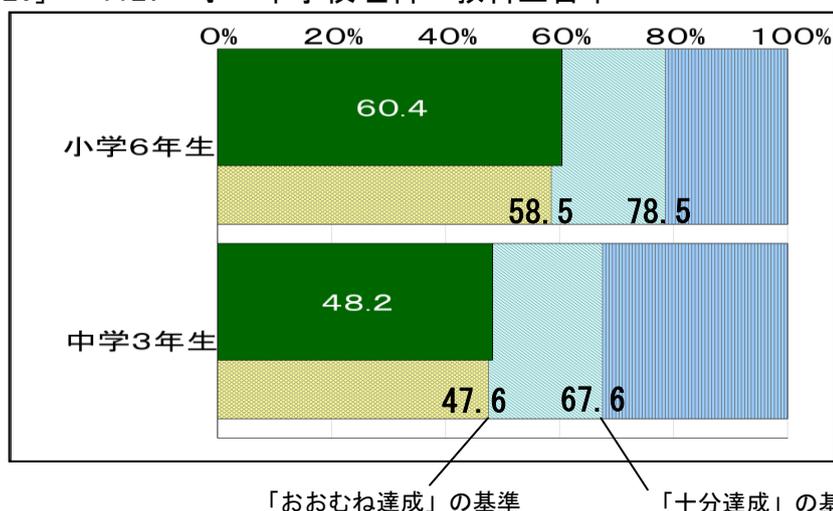
- 調査問題を活用し、特に知識の習得や数学的な見方や考え方を育成する授業づくりや評価問題作成に取り組む。
- 数量や図形に関する基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるために、数学の内容の系統性を重視しつつ、発達や学年の段階に応じた学び直しの機会を設定する。
- 数学的な表現を用いて的確に説明する言語活動を充実させる。
 - ・ 数学的な表現を用いて説明させるために、判断した根拠を言葉で説明する、書いて説明するなどの学習活動を取り入れる。説明させる際には、その根拠となる事柄と結論の両方を示すように指導する。
 - ・ 図や表で与えられた情報から、目的に応じて必要な情報を適切に選択し、事象に即して数学を活用できるようにさせるために、実生活の場面での問題を解決する活動を取り入れる。その際、考えたことや工夫したことなどを数学的な表現を用いて伝え合う機会を設け、数学的に表現することのよさを実感できるような場面を設定する。

3 教科ごとの調査結果 ◎ 理科（小学6年生・中学3年生）

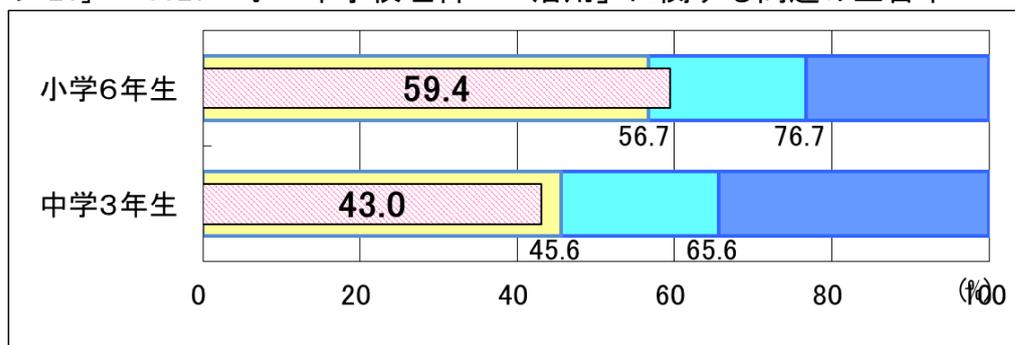
(1) 結果の概要

- 教科正答率では、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 20]
- 「活用」に関する問題の正答率は、小学6年生では「おおむね達成」の基準を上回っているが、中学3年生では「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 21]
- 「科学的な思考・表現」について、小学6年生では「おおむね達成」の基準を上回っているが、「十分達成」の基準を下回っている。中学3年生では「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 22]
- 「観察・実験の技能」については、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を下回っている [グラフ 23]
- 「自然事象についての知識・理解」については、小学6年生・中学3年生共に「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ 24]
- 小学6年生では、全ての領域において「おおむね達成」の基準を上回っている。中学3年生では、化学的領域・生物的領域は「おおむね達成」の基準を上回っているが、物理的領域・地学的領域は「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ 25、26]
- 小学6年生・中学3年生共に、実際に体験をして、実感を伴った理解を図れる内容の方が、体験できない内容や目に見えないものを考える内容よりも正答率が高いという傾向が見られる。

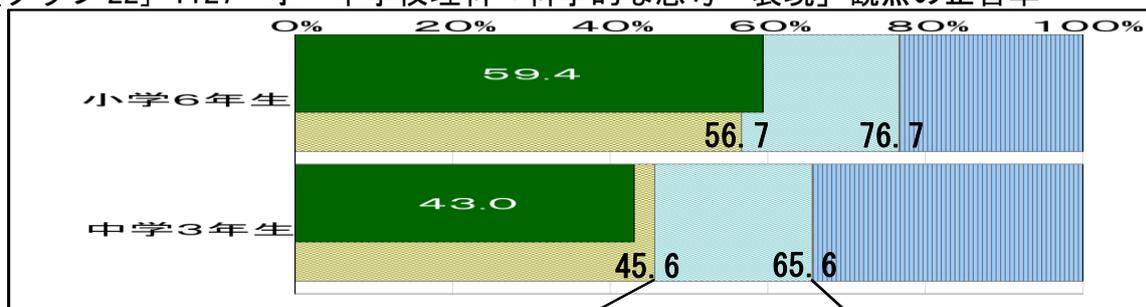
[グラフ 20] H27 小・中学校理科 教科正答率



[グラフ 21] H27 小・中学校理科 「活用」に関する問題の正答率



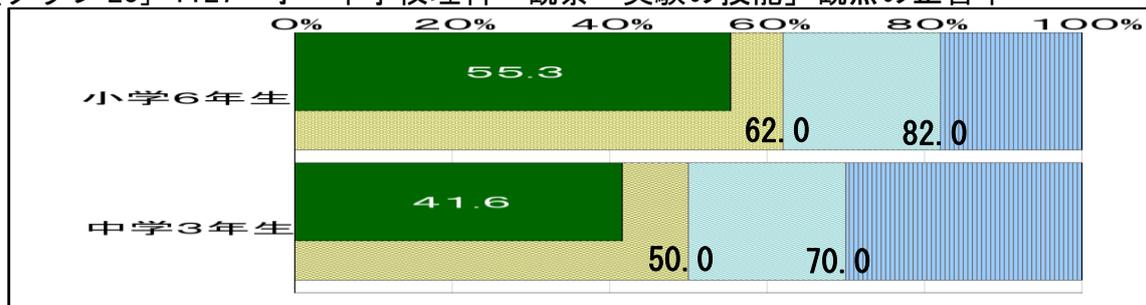
[グラフ 22] H27 小・中学校理科「科学的な思考・表現」観点の正答率



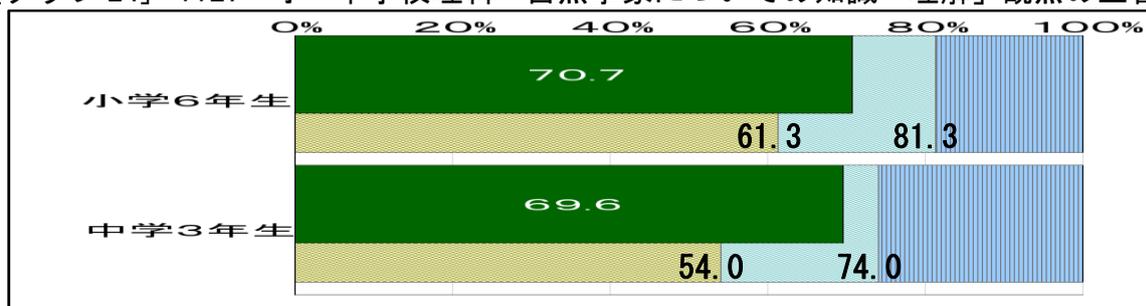
「おおむね達成」の基準

「十分達成」の基準

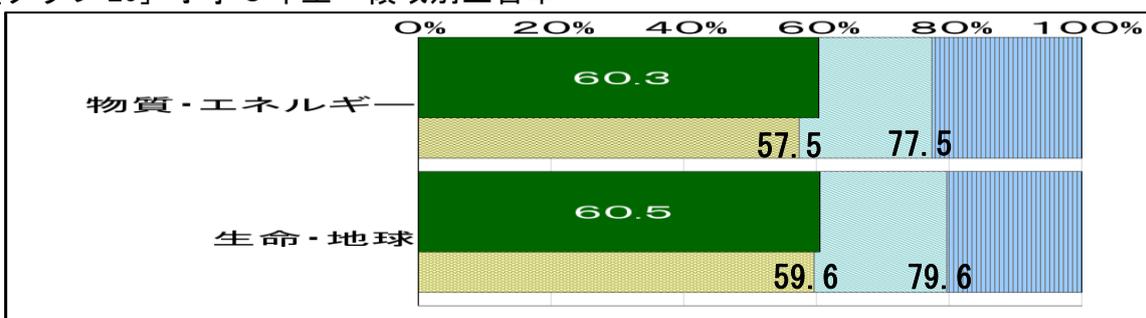
[グラフ 23] H27 小・中学校理科「観察・実験の技能」観点の正答率



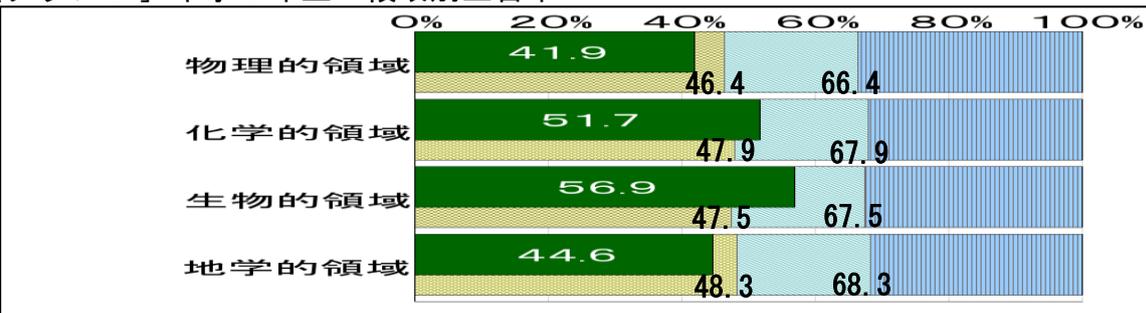
[グラフ 24] H27 小・中学校理科「自然事象についての知識・理解」観点の正答率



[グラフ 25] 小学6年生 領域別正答率



[グラフ 26] 中学3年生 領域別正答率



(2) 地域別の状況

- 県内5地域の理科の学年別平均正答率の対県比は[表14]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、中学校3年生で、平成24年度と比べて地域差が拡大している。
- 学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、小学校6年生では5地域とも、中学校3年生では4地域が「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ27]

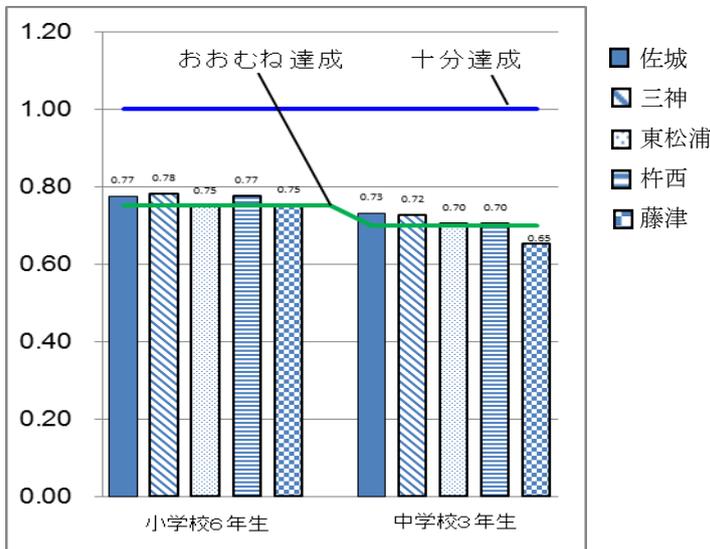
[表14] 県内5地域における学年別平均正答率の対県比

学年・教科	実施年度	対県比(地域平均正答率/県平均正答率)					地域差	
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学校6年生	理科	H27	1.01	1.01	0.97	1.01	0.97	0.04
		H26	-	-	-	-	-	-
中学校3年生	理科	H27	1.02	1.02	0.99	0.99	0.91	▲ 0.11
		H26	-	-	-	-	-	-

- ※ 「対県比」は、県平均正答率を1.00として算出
- ※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す
- ※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

[グラフ27] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※ 各学年における「十分達成」の正答率を1.00として算出



※ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 各学年の設問ごとの正答率及び成果と課題

① 小学6年生 理科

[表 15] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等 物質・エネルギー 生命・地球	評価の観点				問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
			科学的な思考・表現 自然現象への関心・意欲・態度	観察・実験の技能	知識・理解 自然現象についての	選択式	短答式	記述式					
1 (1)	振り子時計の調整の仕方を調べるための実験について、条件を制御しながら構想できる	○	○			○		○	80	60	78.4	0.1	
1 (2)	振り子の運動の規則性を振り子時計の調整の仕方に適用できる	○	○			○		○	80	60	61.2	0.5	
1 (3)	熱膨張が小さい金属について、グラフを基に考察して分析した内容を記述できる	○	○				○	○	70	50	53.4	1.8	
1 (4)	電磁石と磁石の同極が退け合う性質を振り子が左右に等しく振れる仕組みに適用できる	○	○			○		○	75	55	51.6	0.5	▼
1 (5)ア	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	○	○			○		○	80	60	71.5	0.5	
1 (5)イ	電磁石の働きを利用した振り子について、試行した結果を基に自分の考えを改善できる	○	○			○		○	80	60	67.5	0.5	
2 (1)	メダカの雌雄を見分ける方法を理解している	○				○			85	65	86.6	0.2	◎
2 (2)よし子	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	○	○			○		○	80	60	78.6	0.3	
2 (2)ひろし	生物の成長に必要な養分のとり方について、調べた結果を視点をもって考察して分析できる	○	○			○		○	80	60	68.7	0.4	
2 (3)	顕微鏡の名称を理解している	○		○			○		85	65	61.9	9.4	▼
2 (4)	顕微鏡の適切な操作方法を身に付けている	○		○			○		80	60	31.3	0.6	▼
2 (5)	植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光の当たり方を適用して、その内容を記述できる	○	○				○	○	70	50	38.6	3.6	▼
3 (1)	水蒸気は水が気体になったものであることを理解している	○				○			80	60	79.9	0.3	
3 (2)	予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想できる	○	○			○		○	75	55	55.2	0.4	
3 (3)	水の温まり方を考察するために、実験結果を基に自分の考えを改善できる	○	○			○		○	75	55	52.1	0.6	▼
3 (4)	メスシリンダーの名称を理解している	○		○			○		85	65	73.9	6.6	
3 (5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を身に付けている	○		○			○		80	60	52.8	1.8	▼
3 (6)	析出する砂糖の量について分析するために、グラフを基に考察し、その内容を記述できる	○	○				○	○	70	50	26.7	7.5	▼
4 (1)	方位を判断するために、観察した事実と関係付けながら情報を考察して分析できる	○	○			○		○	80	60	41.7	1.3	▼
4 (2)	月は1日のうち時刻によって形は変わらないが、位置が変わることを理解している	○				○			80	60	53.8	1.5	▼
4 (3)	星座の動きを捉えるための適切な記録方法を身に付けている	○		○			○		80	60	56.5	1.6	▼
4 (4)	星座や雲の動きについて、観察記録を基に考察して分析できる	○	○			○		○	80	60	63.5	2.1	
4 (5)	水が水蒸気になる現象について、科学的な言葉や概念を理解している	○		○			○		80	60	62.5	9.1	
4 (6)	打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析できる	○	○			○		○	75	55	82.7	3.0	◎

○ 成果と課題

- メダカの雌雄の見分け方を問う設問と打ち水の効果について問う設問において、「十分達成」の基準を上回っている。
- 水の三態変化を問う設問や振り子の性質を調べる実験について構想することを問う設問、生物の養分の取り方について問う設問において、「おおむね達成」の基準を 18.0 ポイント以上上回っている。
- 顕微鏡の使い方を問う設問やメスシリンダーの使い方を問う設問において、「おおむね達成」の基準を下回っている。
- 物の溶け方の規則性について、グラフを基に考察する設問において、正答率 26.7 で「おおむね達成」の基準 50.0 を 23.3 ポイント下回っている。
- 方位を判断するために、複数の情報を関連付けて考察し、分析できるかを問う設問において、正答率 41.7 で「おおむね達成」の基準 60.0 を 18.3 ポイント下回っている。

② 中学3年生 理科

[表 16] 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧 ※「◎」は「十分達成」、▼は「要努力」を示す

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式		十分達成	おおむね達成	正答率(%)	無解答率(%)	到達状況
		物理的領域	化学的領域	生物的領域	地学的領域	意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	自然現象についての選択式					
1	(1) 化学式 塩化ナトリウムを化学式で表すことができる	○						○	○		75	55	75.4	0.2	◎
1	(1) 濃度 特定の質量パーセント濃度の水溶液の溶質と水のそれぞれの質量を求めることができる	○						○		○	70	50	37.6	15.9	▼
1	(2) 実験の結果を分析して解釈し、炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘することができる	○					○			○	65	45	29.8	0.3	▼
1	(3) 二酸化炭素の体積を量る場面において、水上置換法では正確に量れない理由を説明することができる	○					○			○	70	50	47.1	19.4	▼
1	(4) グラフを分析して解釈し、化学変化について正しく読み取ることができる	○					○			○	70	50	70.6	0.3	◎
1	(5) 炭酸水素ナトリウムが二酸化炭素の発生に関係することを特定する対照実験を計画することができる	○					○			○	65	45	46.0	0.6	
1	(6) 他者の考えを検討して改善し、混合物を加熱したときの化学変化を説明することができる	○					○			○	60	40	55.1	0.8	
2	(1) 天気の記事から風力を読み取ることができる			○				○	○		75	55	77.9	8.6	◎
2	(2) 天気の記事から風向を読み取り、風向計を使って風向を観測することができる			○				○	○		70	50	45.6	0.4	▼
2	(3) 他者の考察を検討して改善し、水の状態変化と関連付けて雲の成因を正しく説明することができる			○			○			○	70	50	13.1	10.7	▼
2	(4) 気圧の変化で菓子袋が膨らむことについてモデルを使った実験を計画することができる	○		○			○			○	65	45	59.6	0.4	
3	(1) 露点を測定する場面において、最も高い湿度の時刻を指摘することができる			○			○			○	65	45	33.6	0.4	▼
3	(2) 一定の時間に多くの雨が降る原因を探る実験を計画することができる			○			○			○	65	45	37.9	0.6	▼
4	(1) 凸レンズによってできる像を調べる実験の結果を分析して解釈し、規則性を指摘することができる	○					○			○	70	50	39.9	0.6	▼
4	(2) 他者の考えた実験の方法を検討して改善し、適切な方法を説明することができる	○					○			○	65	45	48.4	1.0	
5	(1) オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○						○	○		70	50	58.5	16.0	
5	(2) 技術の仕組みを示す場面において、スイッチの入り切りによる磁界の変化を説明することができる	○					○			○	60	40	21.8	28.4	▼
6	(1) 日常生活の場面において、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することができる	○					○			○	70	50	38.1	0.8	▼
6	(2) 音の高さは、「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画することができる	○					○			○	65	45	26.8	1.0	▼
7	(1) デンプンが消化酵素によって分解されて、最終的にできる物質の名称を表すことができる			○				○	○		75	55	67.6	1.1	
7	(2) 実験の結果を分析して解釈し、キウイフルーツはゼラチンを分解することを指摘することができる			○			○			○	70	50	71.4	1.3	◎
7	(3) 見出した問題を基に、適切な課題を設定することができる			○			○			○	60	40	36.6	27.9	▼
8	(1) 背骨のある動物を、セキツイ動物と表すことができる			○				○	○		75	55	68.5	9.8	
8	(2) 平均値を求める場面において、平均値を求める理由を説明することができる			○			○			○	65	45	50.7	1.7	
8	(3) 他者の考察を検討して改善し、課題に対して適切な(課題に正対した)考察を記述することができる			○			○			○	60	40	46.6	26.5	

○ 成果と課題

- 化学式や天気の記事から風力を読み取る設問は「十分達成」の基準を上回っている。
- 水の状態変化と関連付けて雲の成因を説明する考察の中から、誤っている説明文を指摘する設問において、「おおむね達成」の基準を下回っており、他者の考察を検討して改善することに課題が見られる。
- 実験の結果から炭酸水素ナトリウムを溶かした方の試験管を指摘する設問において、「おおむね達成」の基準を下回っており、実験結果を分析し、解釈することに課題が見られる。
- 音の高さは「空気の部分の長さ」に関係していることを確かめる実験を計画する設問において、「おおむね達成」の基準を下回っており、仮説を基に実験方法を構想することに課題が見られる。

(4) 改善のポイント（校種ごと）

小学校

- 児童が主体的に観察・実験に取り組むことができるようにする。
 - ・ 児童が立てた計画を生かしたり、児童とやりとりをしながら観察・実験の計画を立てたりする。
 - ・ 児童全員が道具に触れることができ、実際に調べる体験ができるような授業を心掛ける。
- 観察・実験の結果を踏まえた考察を行わせる。
 - ・ 実験結果を表やグラフにまとめさせる。
 - ・ 観察・実験の結果と考察を区別して指導し、結果から言えることを自分の言葉で記述させる指導を繰り返して行うようにする。
- 日常生活との関連を図った問題解決に取り組ませる。
 - ・ 自然の事物・現象から見出した疑問や気付きから学習問題づくりを行うようにする。
 - ・ 学習内容と日常生活における自然の事物・現象とを関連付けて考えさせる学習活動をより多く設定する。

中学校

- 日常生活や社会と関連した学習で、理科を学ぶ意義や有用性を実感できるようにする。
 - ・ 日常生活や社会で興味・関心をもったことや疑問に思ったことを、授業で学習した内容に関連付けて捉えさせる。
 - ・ 学習したことが、様々な職業と関係し、役に立つことを気付かせる活動を取り入れる。
- 目的意識をもって観察・実験を行うことができるようにする。
 - ・ 自然の事物・現象の観察などを通して疑問をもち、見いだした問題を基に課題づくりを行い、その課題を解決するための計画を立てた上で観察・実験に取り組ませる。
- 観察・実験の結果から、課題に対して適切に考察できるようにする。
 - ・ 観察・実験の結果と、そのことから分かることを明確に区別し、考察を自分の言葉で記述することができるように指導を行う。
 - ・ 自分の考えを深めたり、広めたりするために、意見交換の場面をより多く設定する。

4 児童生徒意識調査（小学5年、中学1、2年）、児童生徒質問紙（小学6年、中学3年）及び教師意識調査の概要

※意識調査は県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙・学校質問紙の回答を分析したもの。（共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。）

※平均正答率とのクロス集計は、国語、算数・数学の平均正答率を示す。

※教師意識調査の対象者は、平成27年2月時点での各学校在籍職員。（当該学年担任及び当該教科担当者）

(1) 授業への関心・理解度・有用性について

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」、以下同じ）をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、次の教科、学年において、前年度を上回っている。
 - ◇国語－小学5、6年、中学2年
 - ◇社会－小学5年、中学1年
 - ◇算数・数学－小学5、6年、中学1、2年
 - ◇理科－中学1、2年
 - ◇英語－中学2年

また、「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は、各教科とも、6割前後であるが、小学校理科では8割を超えている。 [グラフ 1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5]

- 「各教科の勉強が好き」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一児童生徒）を見ると、中学校では、学年進行に伴い、減少する傾向にあるが、一部、増加している教科がある。
[グラフ 1-2, 2-2, 3-2, 4-2]

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）を見ると、小学5年理科、中学2年社会、中学3年国語、中学3年数学を除く全ての教科、学年において前年度を上回っている。
小学6年理科、中学3年理科は平成24年度を上回っている。中学2年社会は前年度と同値である。 [グラフ 6-1, 7-1, 8-1, 9-1, 10]

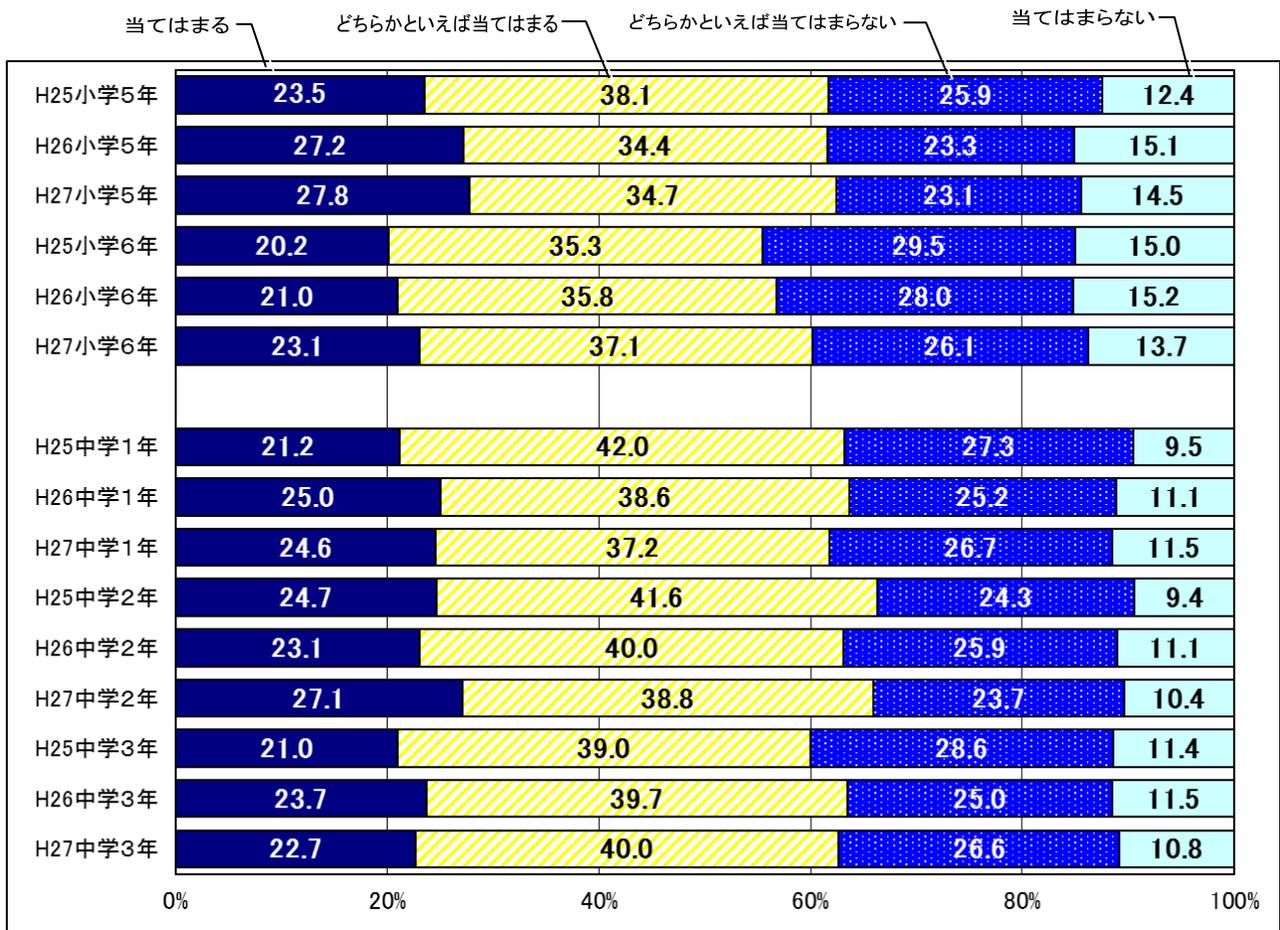
- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一児童生徒）を見ると、学年進行に伴い、減少する傾向にある。 [グラフ 6-2, 7-2, 8-2, 9-2]

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合は概ね7割から9割である。理科では、校種間での開き大きい。 [グラフ 6-1, 7-1, 8-1, 9-1, 10]

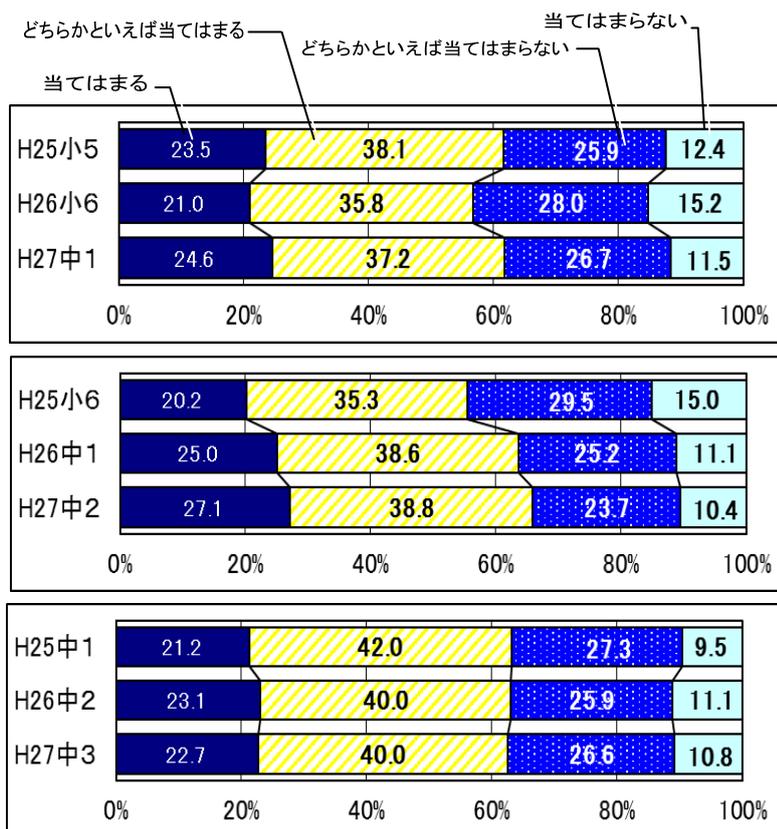
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一学年）は、経年で大きな変化はなく、概ね7割から9割である。理科では、学年間での開き大きい。 [グラフ 11-1, 12-1, 13-1, 14-1, 15]

- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒の割合（同一児童生徒）は、学年進行に伴い、減少する傾向にある。 [グラフ 11-2, 12-2, 13-2, 14-2]

[グラフ 1-1] 国語の勉強は好きだ 平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較



[グラフ 1-2] 国語の勉強は好きだ 平成 25～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較

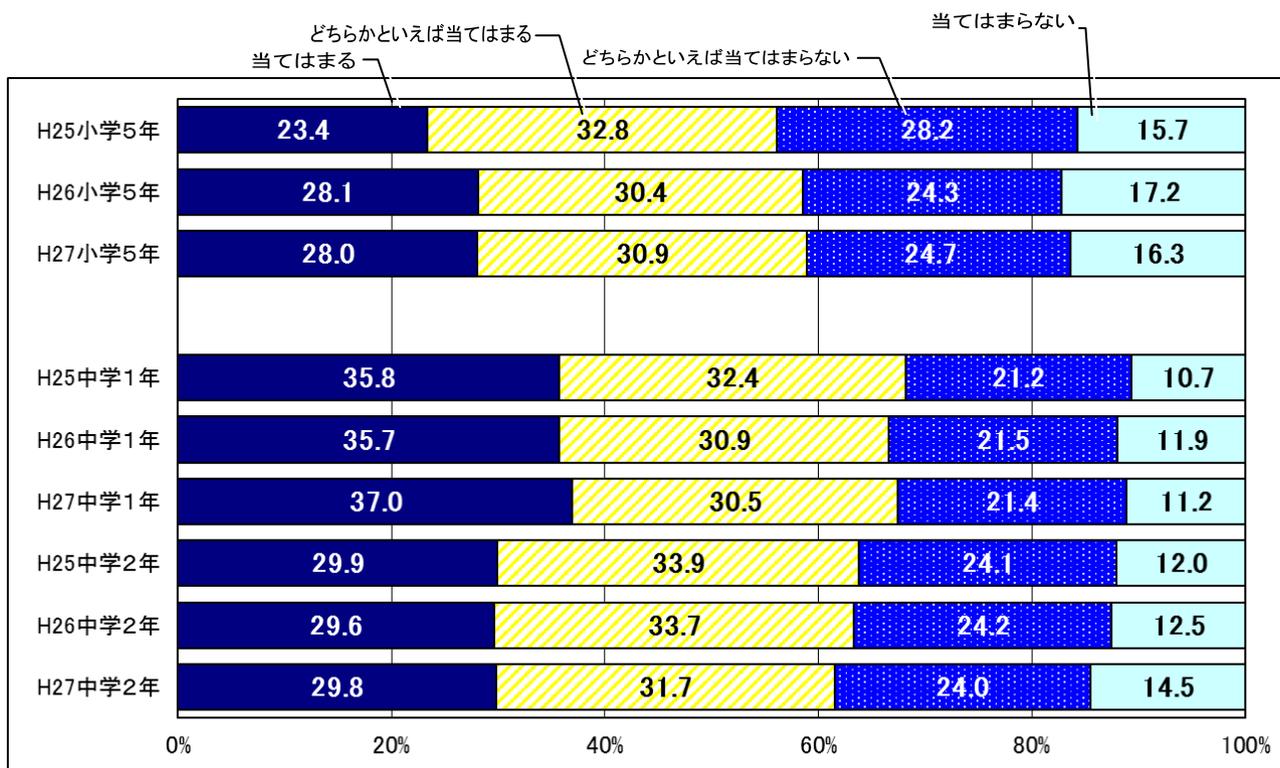


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学6年で増えている。小学5年、中学2年では前年度を上回っている。校種間、学年間で大きな差は見られない。 [グラフ 1-1]

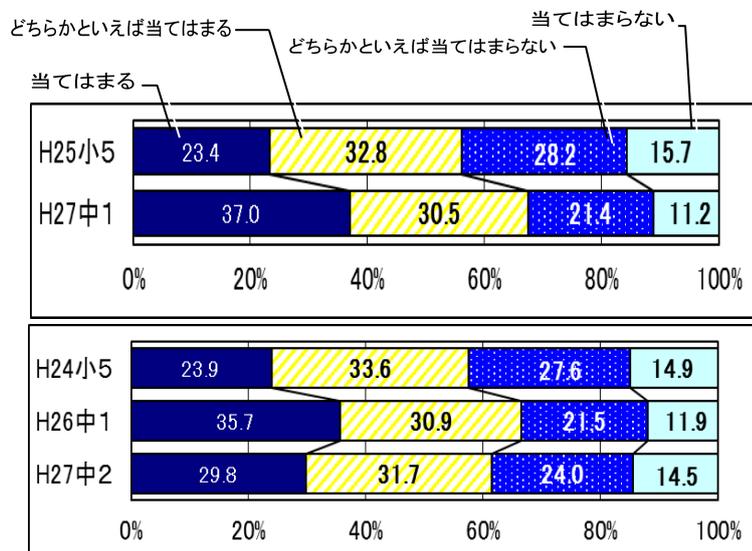
・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は平成25年度小学6年～平成27年度中学2年で増えている。校種間、学年間で大きな差はみられない。 [グラフ 1-2]

[グラフ 2-1] 社会の勉強は好きだ 平成 25~27 年度 「同一学年」の経年比較

※小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を活用しているため、データはない。



[グラフ 2-2] 社会の勉強は好きだ 平成 24~27 年度 「同一児童生徒」の経年比較



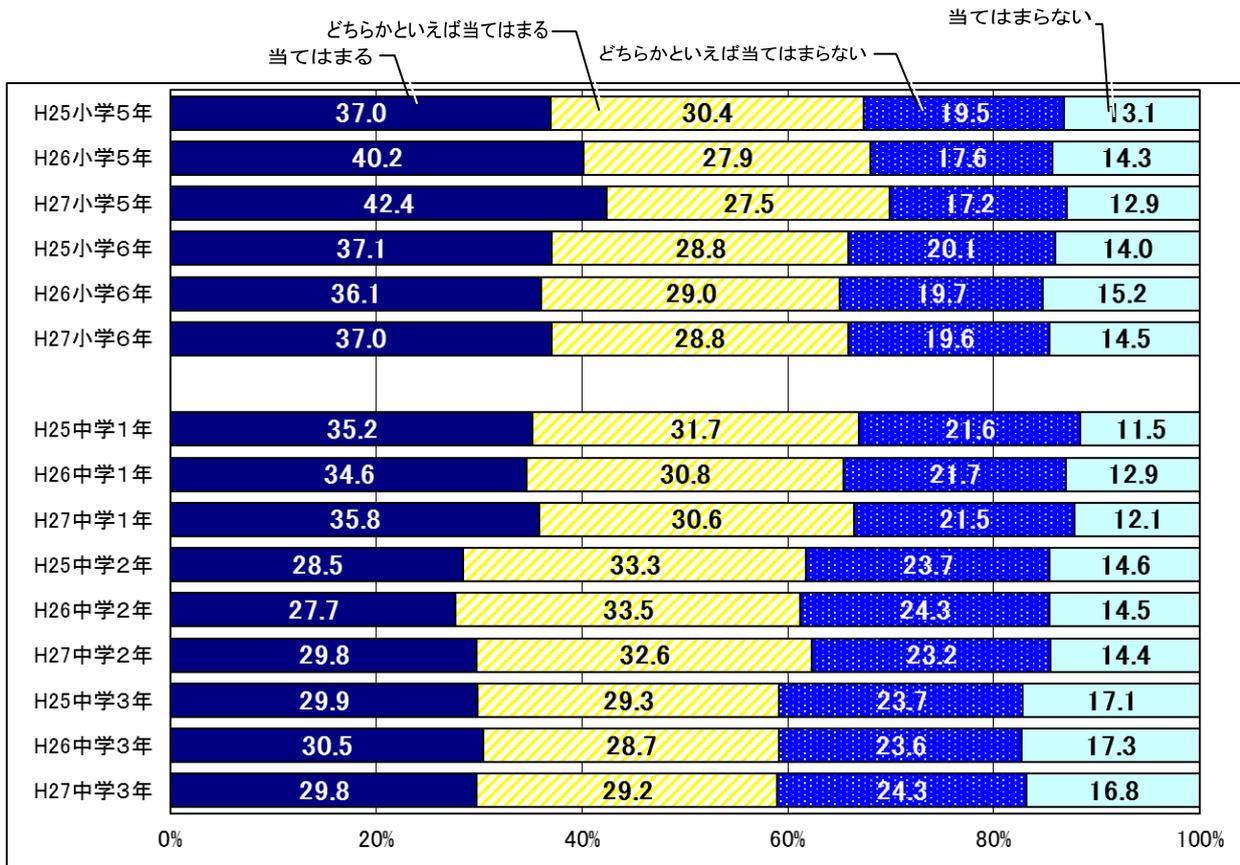
- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年でわずかに増えている。中学2年では減っている。中学1年では前年度をわずかに上回っている。

[グラフ 2-1]

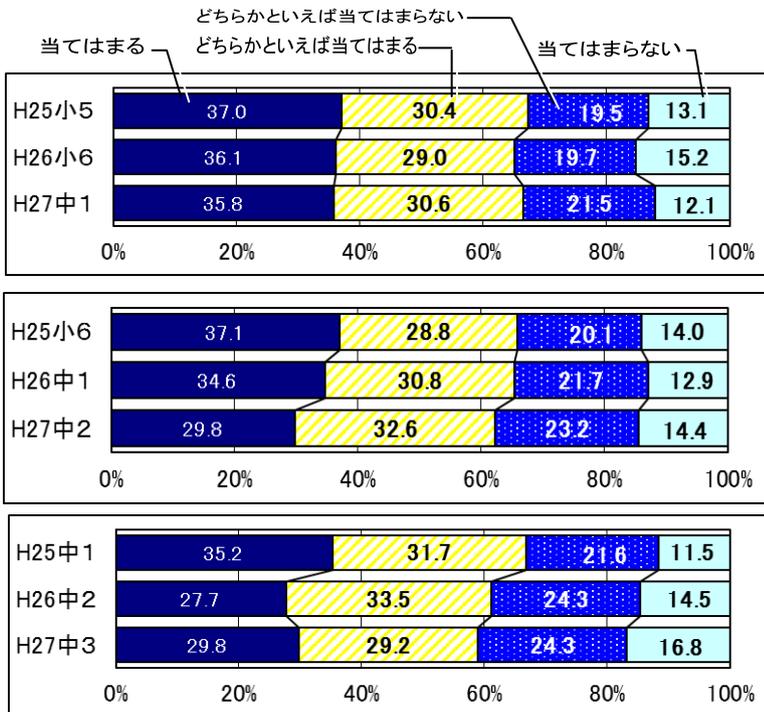
- 「同一児童生徒」の経年比較において、小学校から中学1年までは肯定的な回答をした児童生徒は増えているが、中学2年にかけては減っている。

[グラフ 2-2]

[グラフ 3-1] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 25~27 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 3-2] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 25~27 年度「同一児童生徒」の経年比較

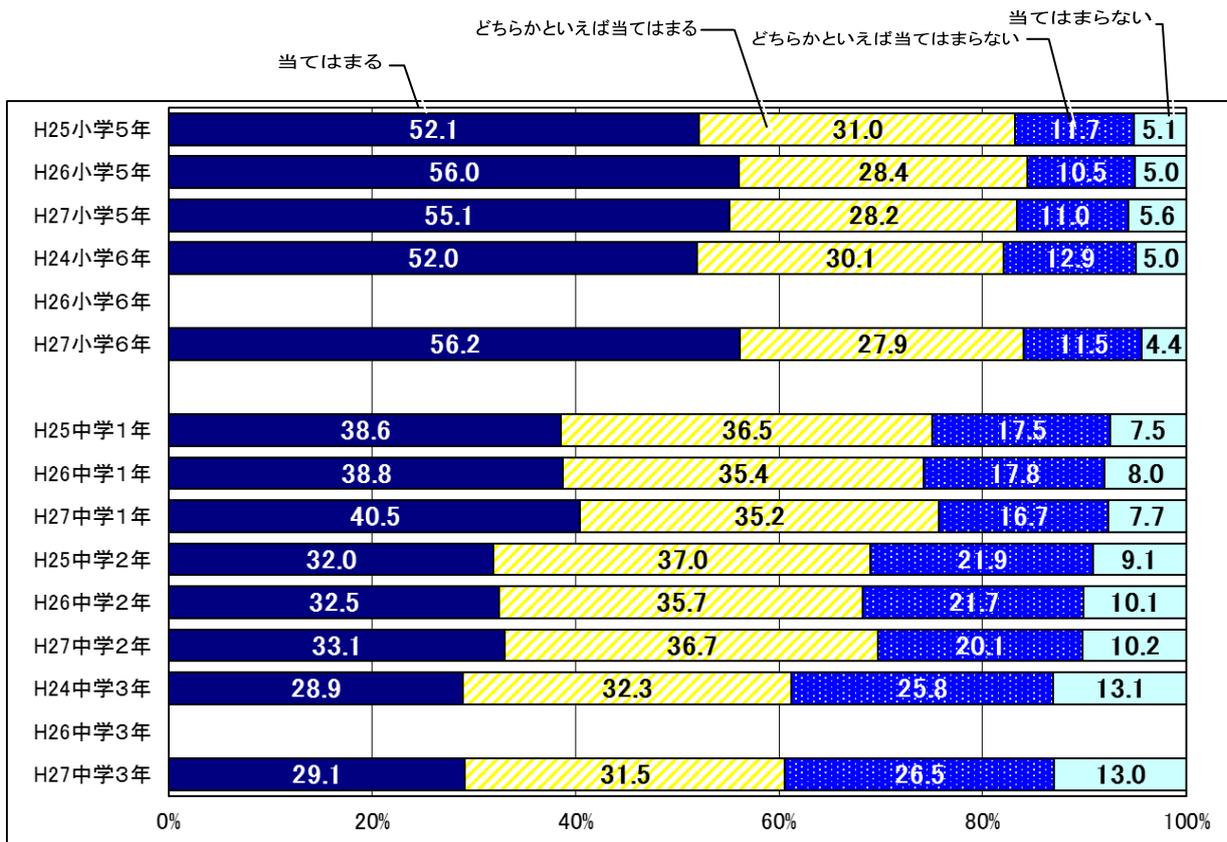


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年で増えている。小学6年、中学1年、中学2年では前年度をわずかに上回っている。 [グラフ 3-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は平成 25 年度小学6年～平成 27 年度中学2年、平成 25 年度中学1年～平成 27 年度中学3年で減っている。

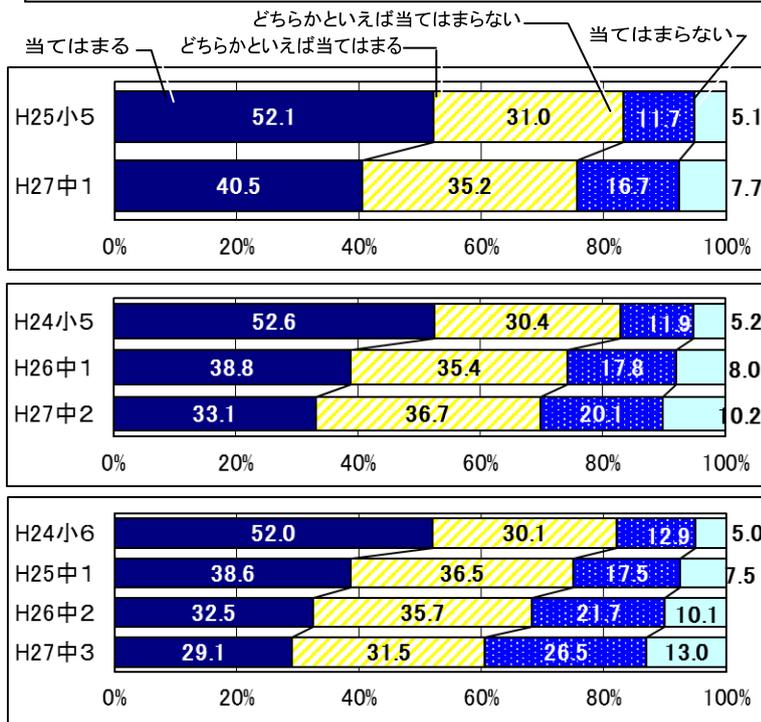
[グラフ 3-2]

[グラフ 4-1] 理科の勉強は好きだ 平成 24～27 年度 「同一学年」の経年比較



※平成 24 年度小学 6 年、中学 3 年は、全国調査の質問紙のデータ。平成 25 年度、26 年度は、全国調査で理科が実施されていないため、質問項目から除外されている。

[グラフ 4-2] 理科の勉強は好きだ 平成 24～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較

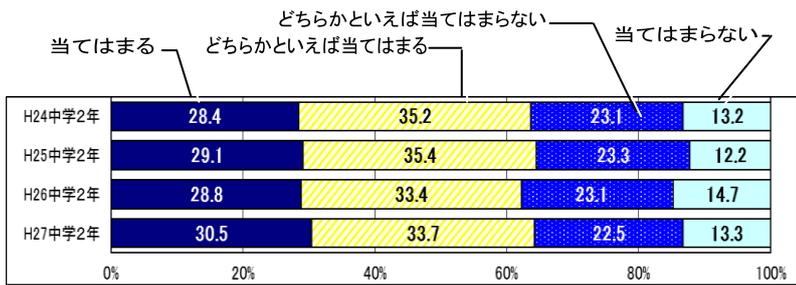


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、中学 1 年、中学 2 年では、前年度を上回っている。小学校 5 年、小学校 6 年では、8 割以上が肯定的な回答をしている。

[グラフ 4-1]

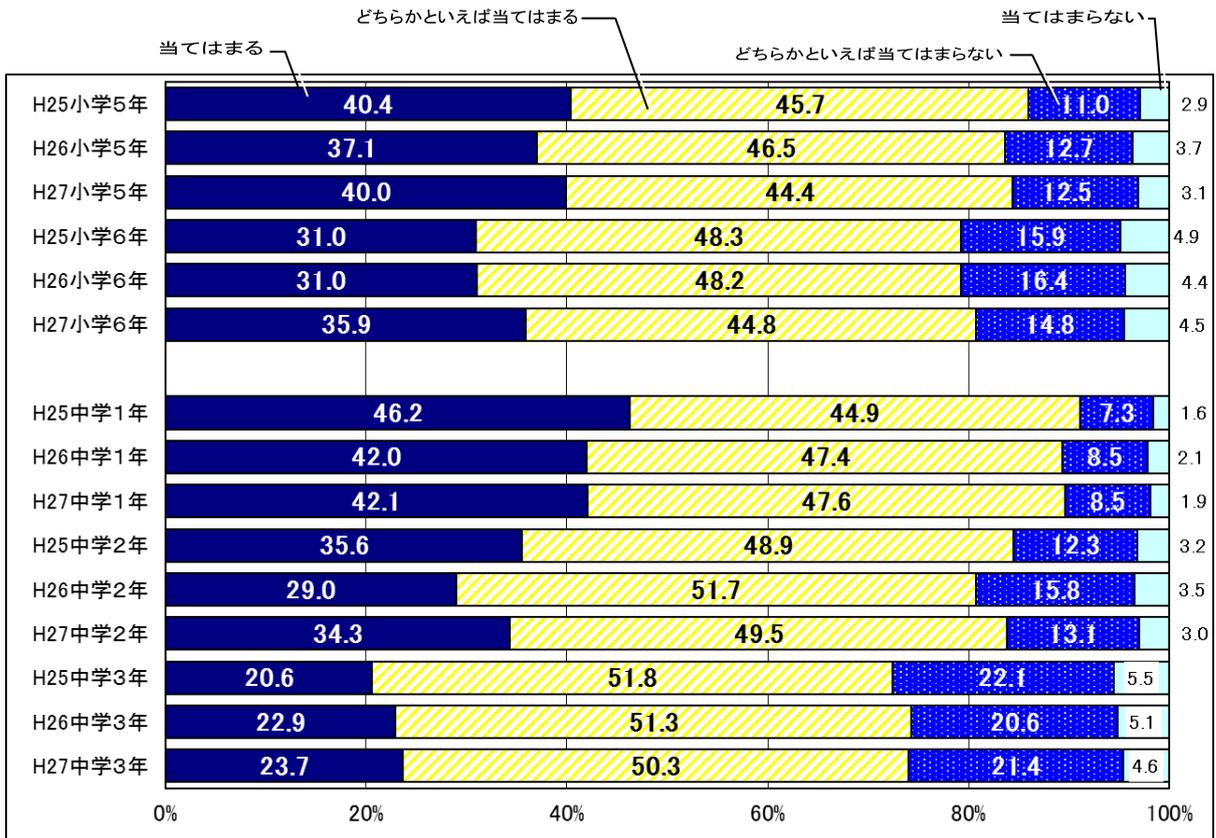
・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、学年進行に伴い減少している。 [グラフ 4-2]

[グラフ 5] 英語の勉強は好きだ(中学2年) 平成 24～27 年度 「同一学年」の経年比較

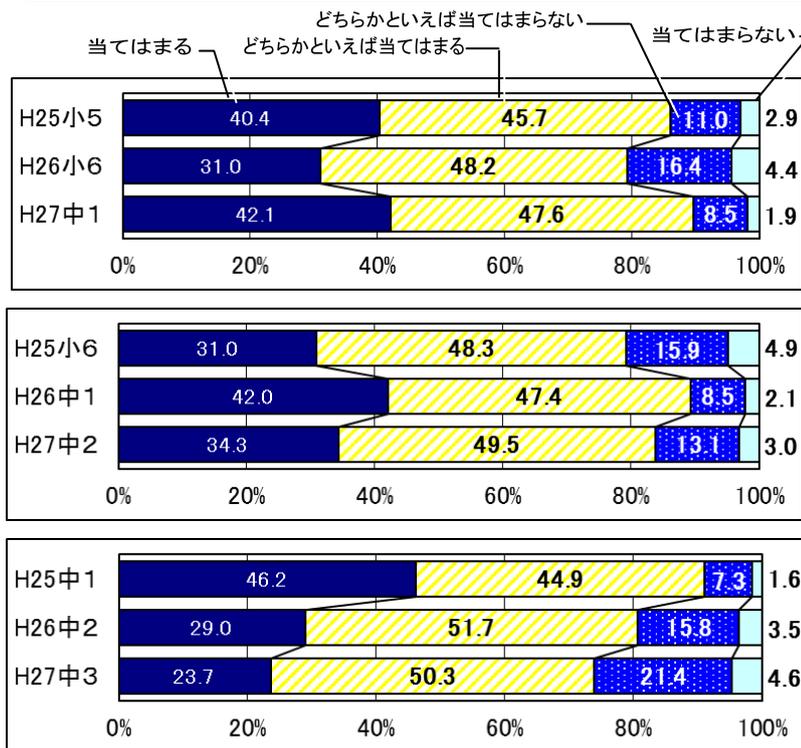


・ 「同一学年」の経年比較において、目立った傾向は見られないが、肯定的な回答をした生徒は前年度を上回っている。
[グラフ 5]

[グラフ 6-1] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較



[グラフ 6-2] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 25～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較



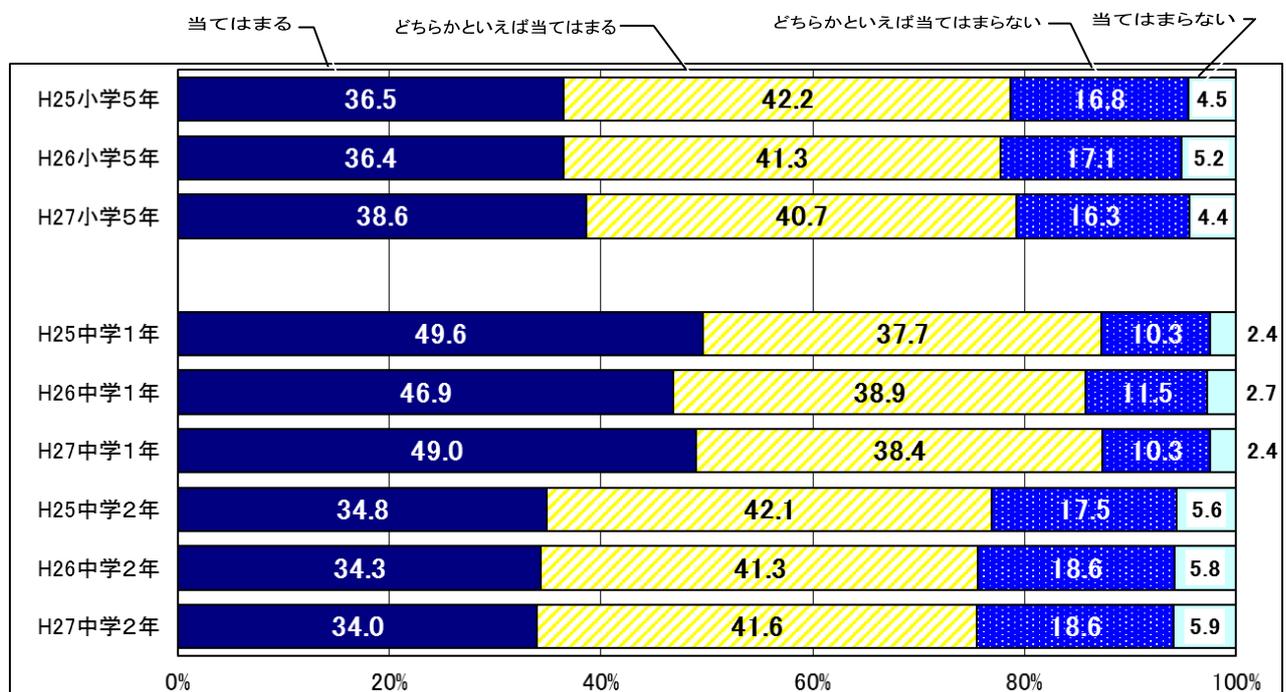
・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、中学3年を除く全ての学年で、前年度を上回っている。

[グラフ 6-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年から小学6年にかけては減少しているが、小学6年から中学1年にかけては増加している。中学校では、学年進行に伴い減少している。

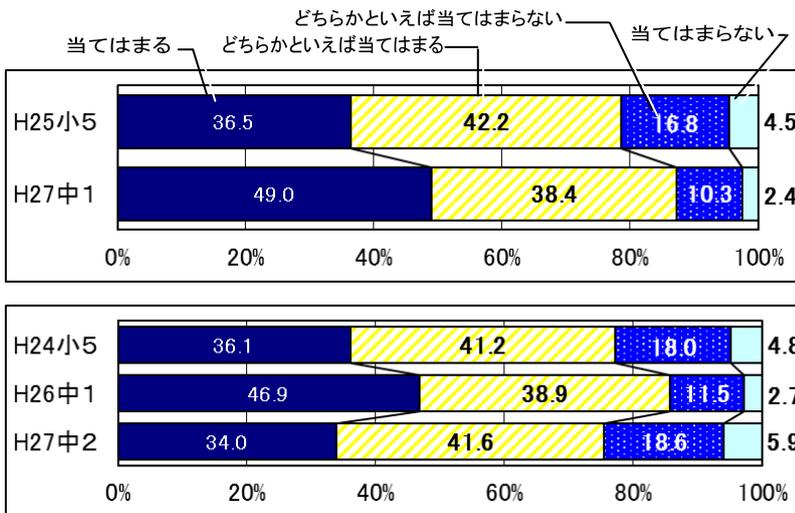
[グラフ 6-2]

[グラフ 7-1] 社会の授業の内容はよく分かる 平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

[グラフ 7-2] 社会の授業の内容はよく分かる 平成 24～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較



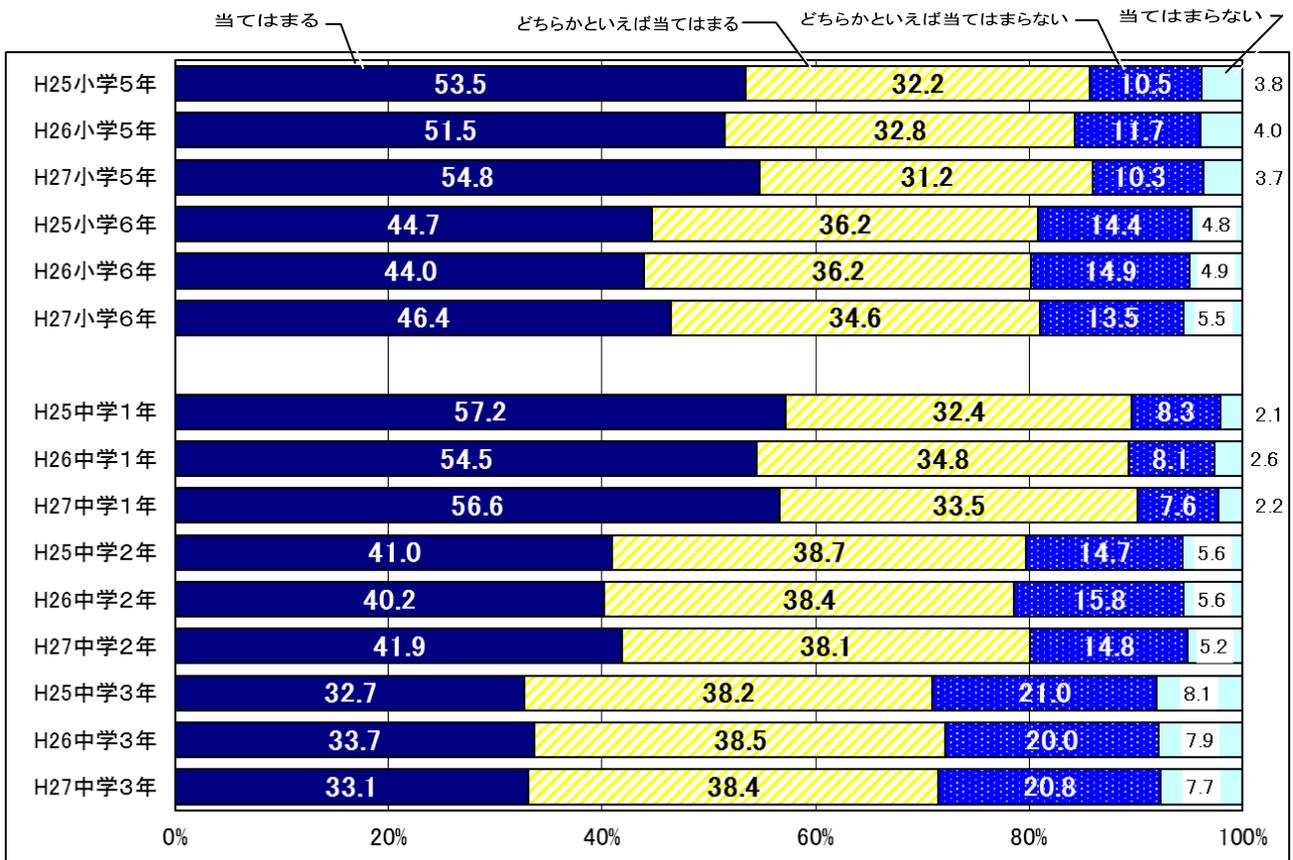
・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、小学5年、中学1年で前年度を上回っている。

[グラフ 7-1]

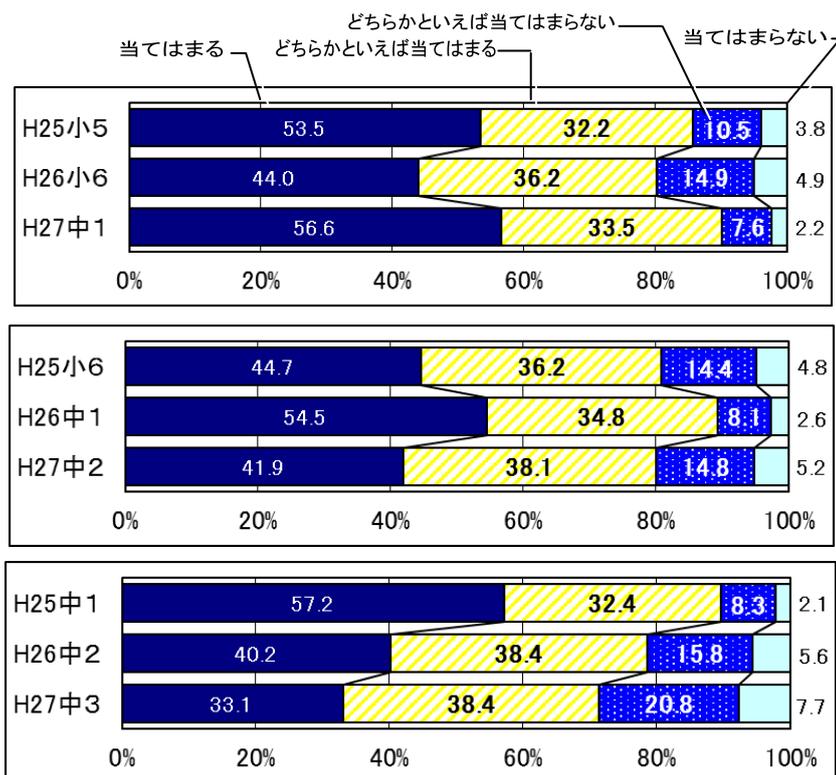
・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年から中学1年生にかけては増加しているが、中学1年から中学2年にかけては減少している。

[グラフ 7-2]

[グラフ 8-1] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較

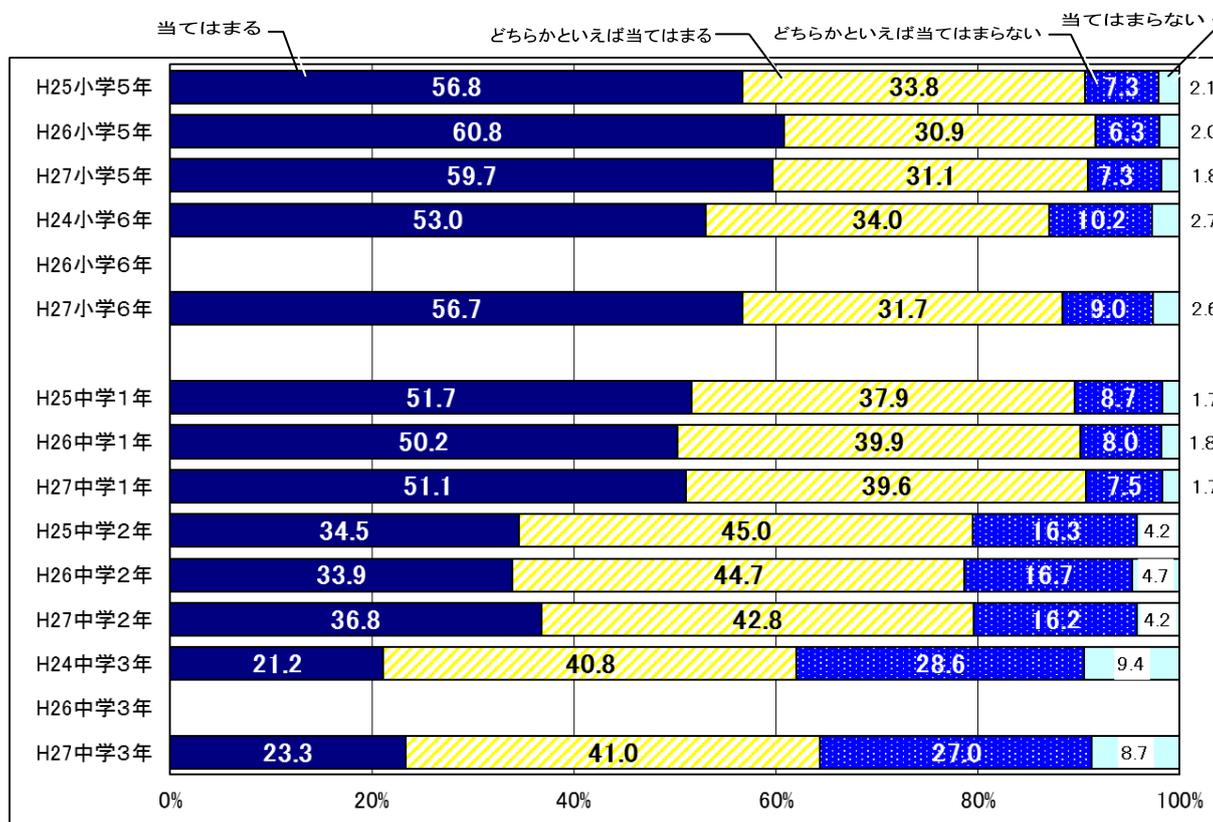


[グラフ 8-2] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成 25~27 年度「同一児童生徒」の経年比較

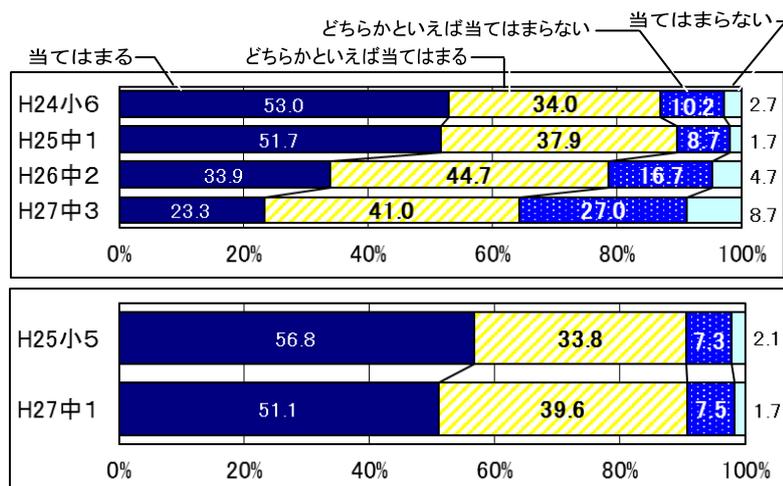


- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、小学5年、小学6年、中学1年、中学2年で前年度を上回っている。 [グラフ 8-1]
- 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年から小学6年にかけては減少しているが、小学6年から中学1年にかけては増加している。中学校では、学年進行に伴い減少している。 [グラフ 8-2]

[グラフ 9-1] 理科の授業の内容はよく分かる 平成 24~27 年度「同一学年」の経年比較



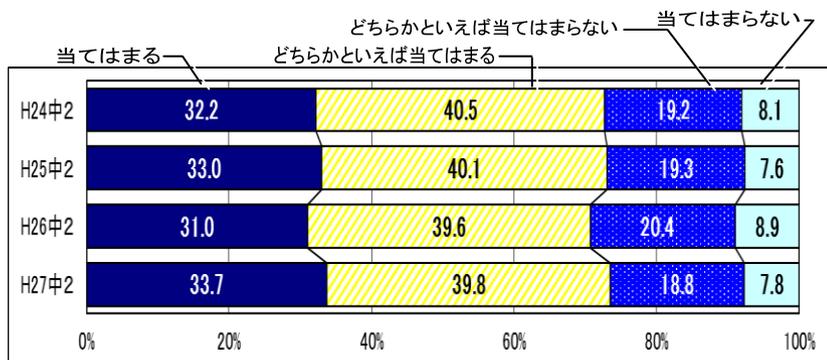
[グラフ 9-2] 理科の授業の内容はよく分かる 平成 24～27 年度「同一児童生徒」の経年比較



- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学1年で増えている。中学2年は前年度、小学6年、中学3年は平成24年度を上回っている。[グラフ 9-1]
- 肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年から中学1年で約9割、中学2年で約8割、中学3年で6割である。[グラフ 9-1]
- 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学6年から中学1年にかけては増加しているが、中学校では、学年進行に伴い、減少している。[グラフ 9-2]

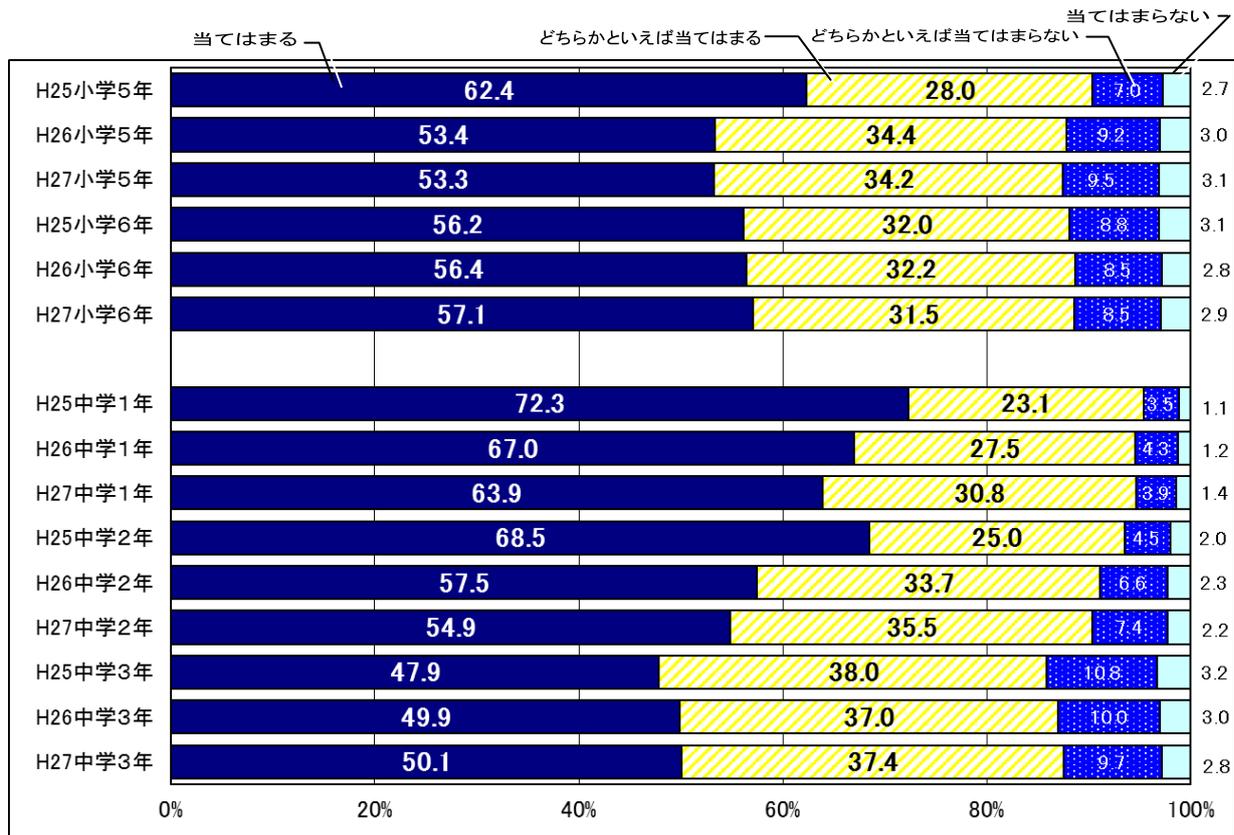
※ 平成24年度小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙のデータ。平成25年度、26年度は、理科が実施されていないため質問項目から除外されている。

[グラフ 10] 英語の勉強はよく分かる(中学2年) 平成 24～27 年度「同一学年」の経年比較

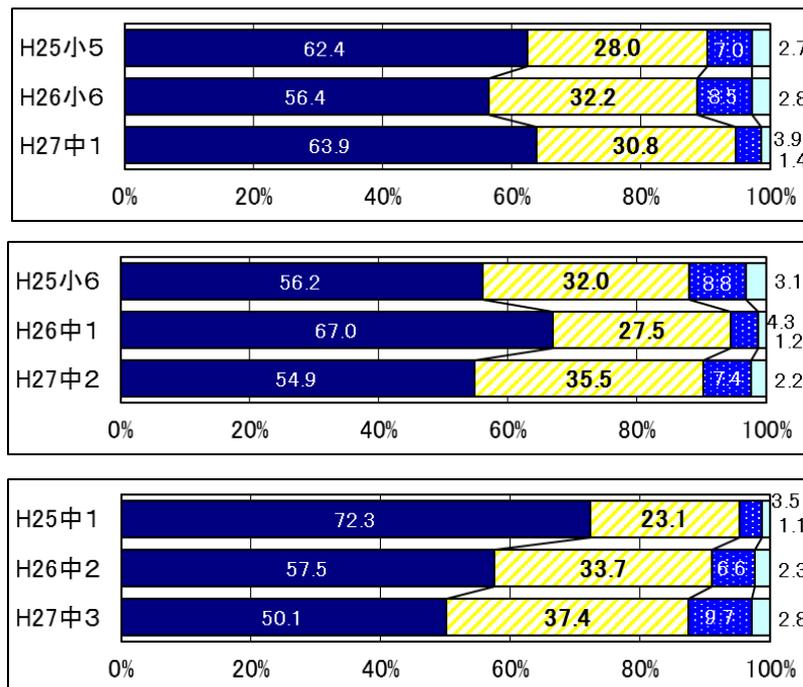


- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした生徒の目立った傾向は見られないが、肯定的な回答をした生徒は前年度を上回っている。
- 肯定的な回答をした生徒の割合は約7割である。[グラフ 10]

[グラフ 11-1] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較

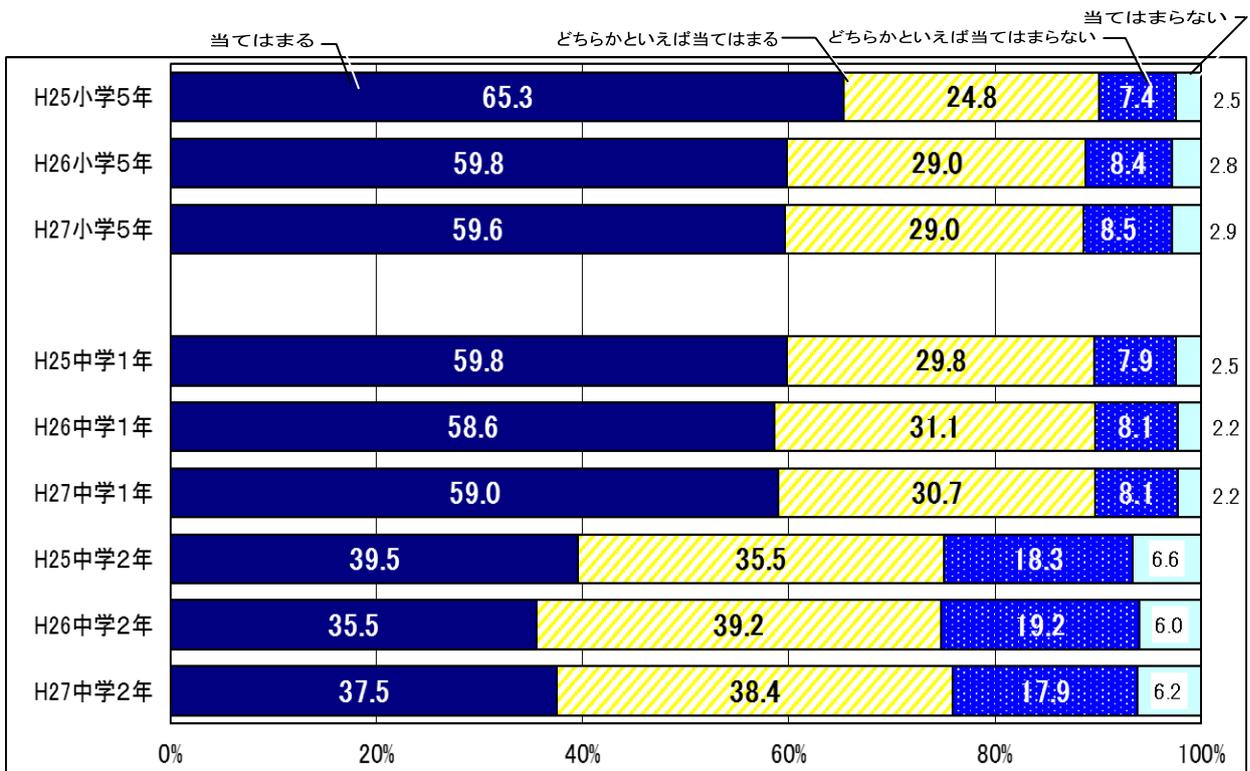


[グラフ 11-2] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度「同一児童生徒」の経年比較

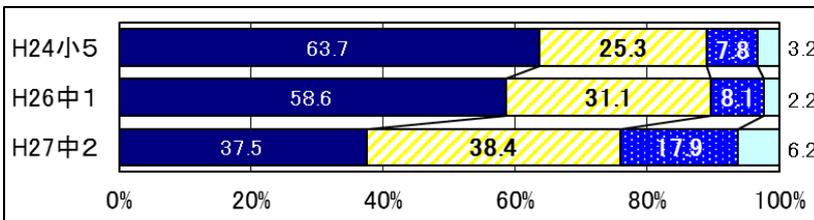
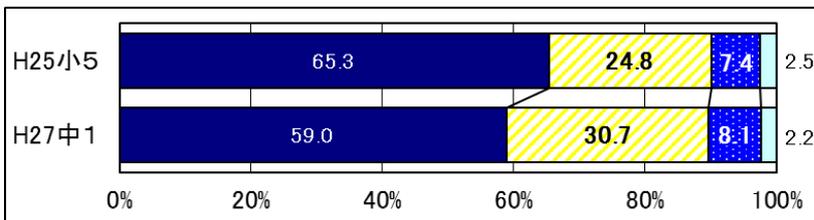


- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年、中学2年で減少しており、中学3年で増加している。中学1年では前年度をわずかに上回っている。【グラフ 11-1】
- 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学6年から中学1年にかけては増加しているが、小学5年から6年にかけては、減少している。また、中学校では、学年進行に伴い、減少している。【グラフ 11-2】

[グラフ 12-1] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較



[グラフ 12-2] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較

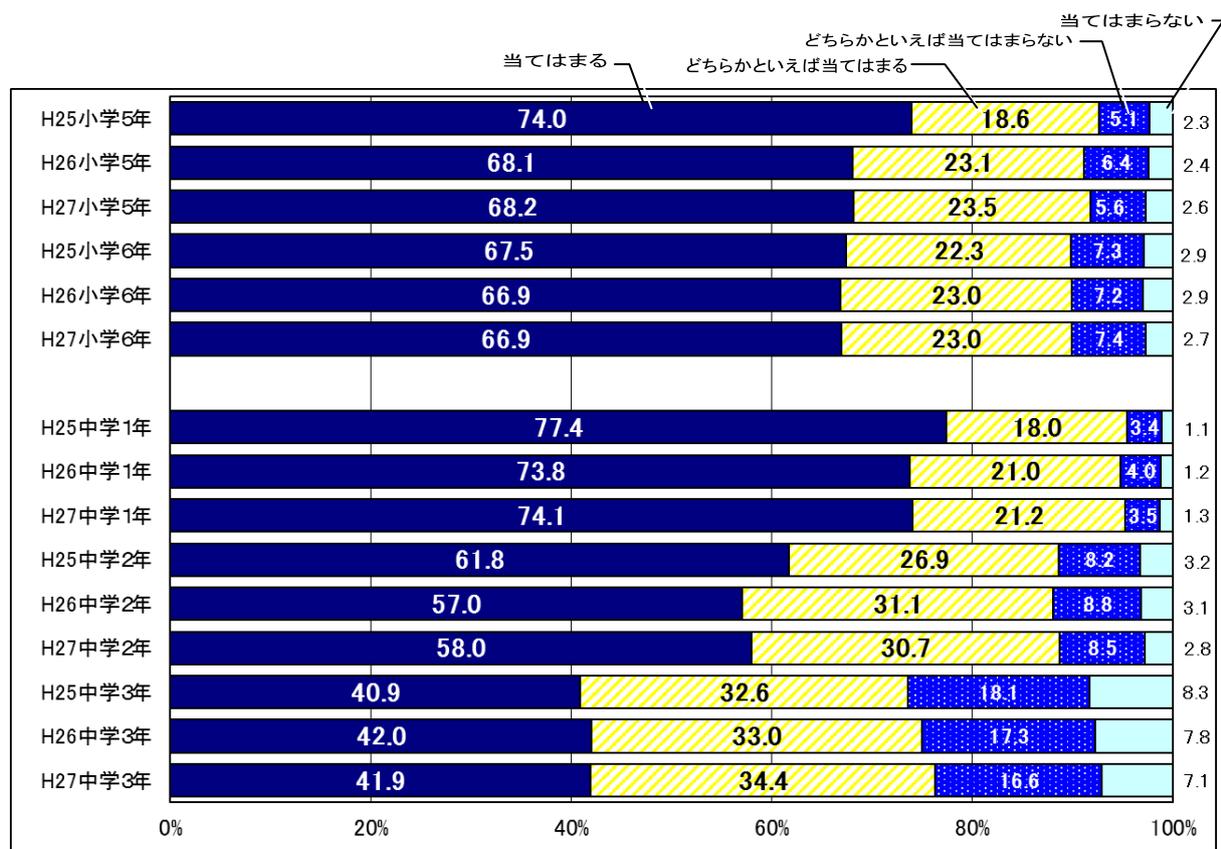


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、中学2年では、肯定的な回答をした生徒は前年度を上回っている。 [グラフ 12-1]

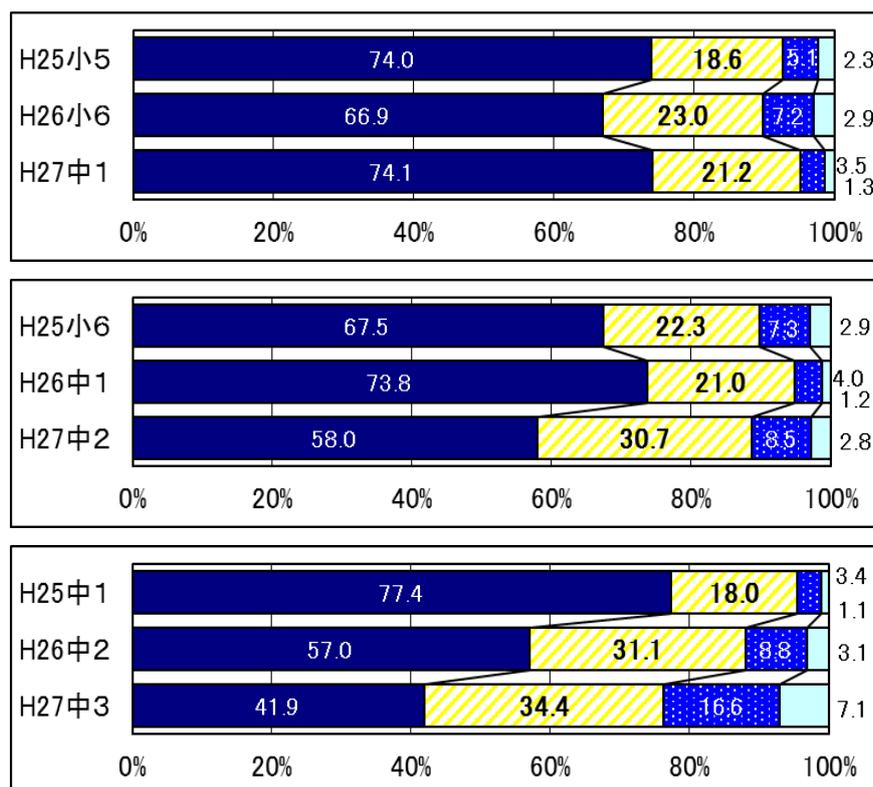
・ 肯定的な回答をした児童生徒は小学5年、中学1年で約9割、中学2年で約7割である。 [グラフ 12-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、中学1年から中学2年にかけては減少している。 [グラフ 12-2]

[グラフ 13-1] 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度 「同一学年」の経年比較



[グラフ 13-2] 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 25～27 年度 「同一児童生徒」の経年比較



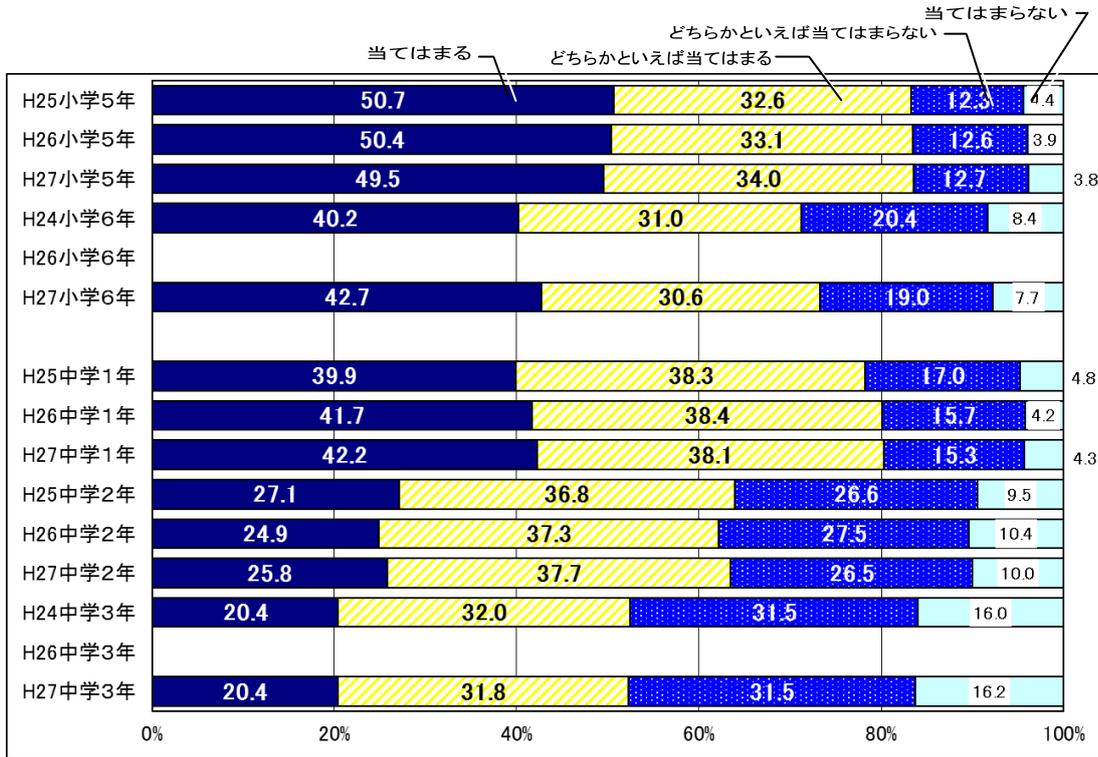
・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学3年で増加しており、小学6年ではほぼ同値である。その他の学年では前年度をわずかに上回っている。

[グラフ 13-1]

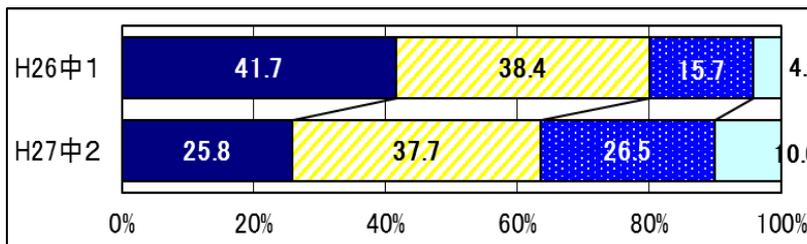
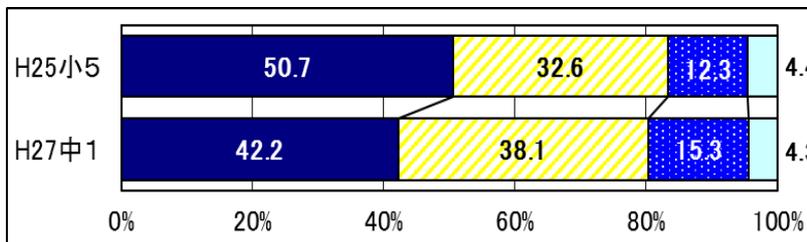
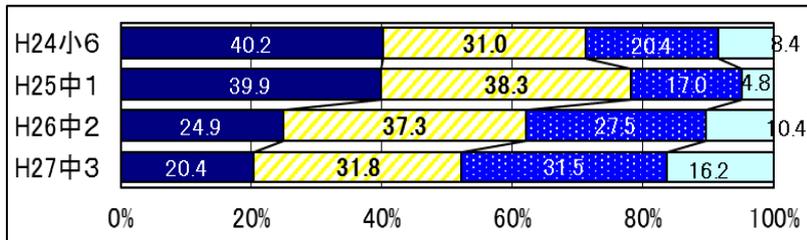
・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年から小学6年にかけては減少しているが、小学6年から中学1年にかけては、増加している。また、中学校では、学年進行に伴い減少している。

[グラフ 13-2]

[グラフ 14-1] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～27 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 14-2] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～27 年度「同一児童生徒」の経年比較



- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の目立った傾向は見られないが、中学2年では、肯定的な回答をした生徒は前年度を上回っている。小学6年では、平成24年度を上回っている。

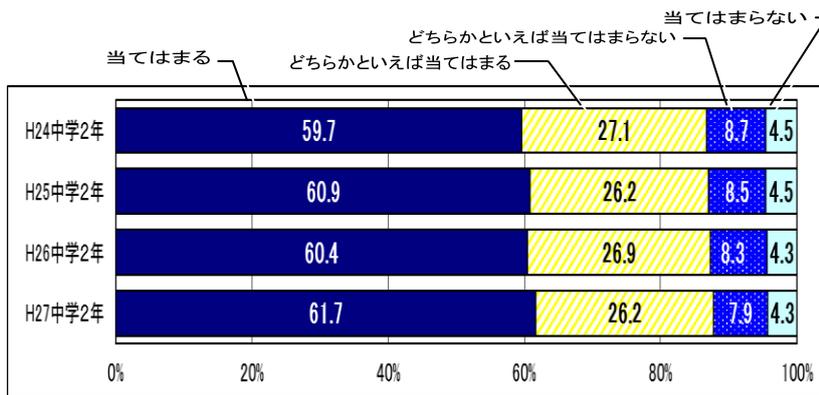
[グラフ 14-1]

- 肯定的な回答をした児童生徒は、小学5年、中学1年では約8割であるが、中学3年では約5割である。 [グラフ 14-1]

- 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学校では目立った傾向は見られないが、中学校では、学年進行に伴い減少している。

[グラフ 14-2]

[グラフ 15] 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～27 年度「同一学年」の経年比較

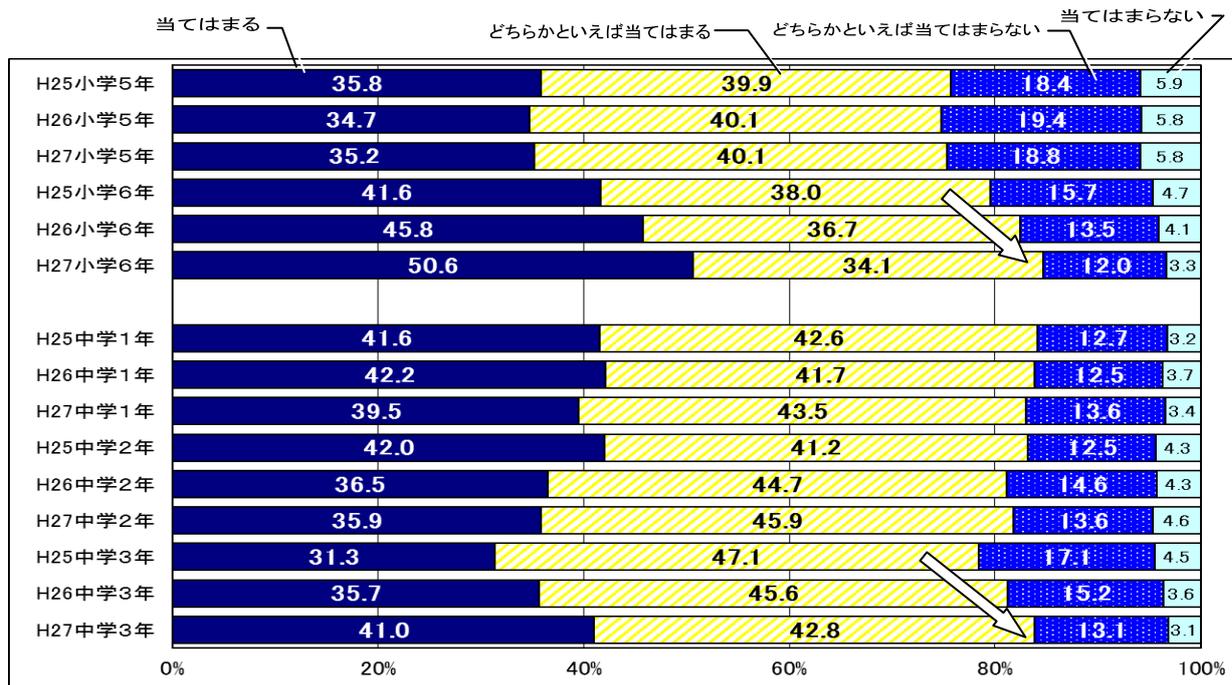


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした生徒が目立った傾向は見られないが、肯定的な回答をした生徒は前年度をわずかに上回っている。 [グラフ 15]

(2) 学習活動に関する意識について

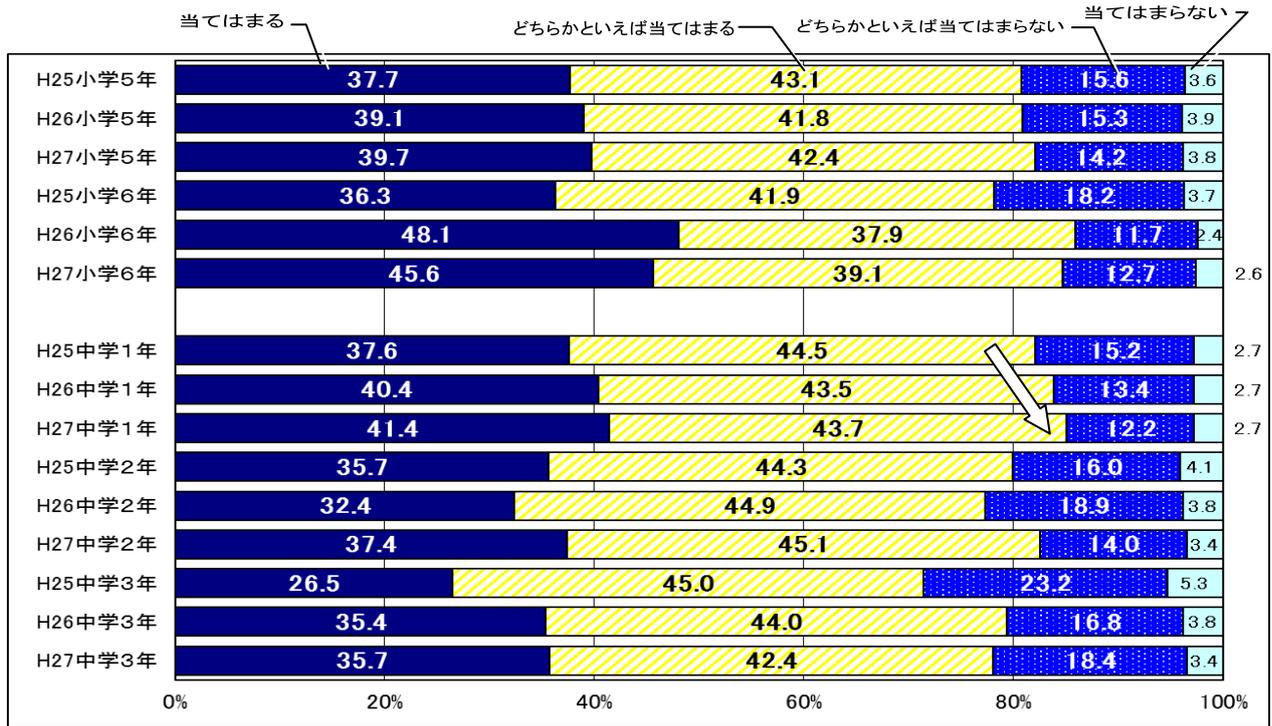
- 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」という問いについては、小学6年、中学3年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問については、中学1年で肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。[グラフ 16, 17-1]
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」という問いについては、否定的な回答が減少する傾向にあり、前年度より全ての学年で下回っている。[グラフ 18-1]
- 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」という問いについては、調査対象の全学年で肯定的な回答をした児童生徒が増加している。また、「そうした授業を受けたことがない」と回答した児童生徒は1%前後まで減少している。[グラフ 22-1]

[グラフ 16] 普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。
平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較

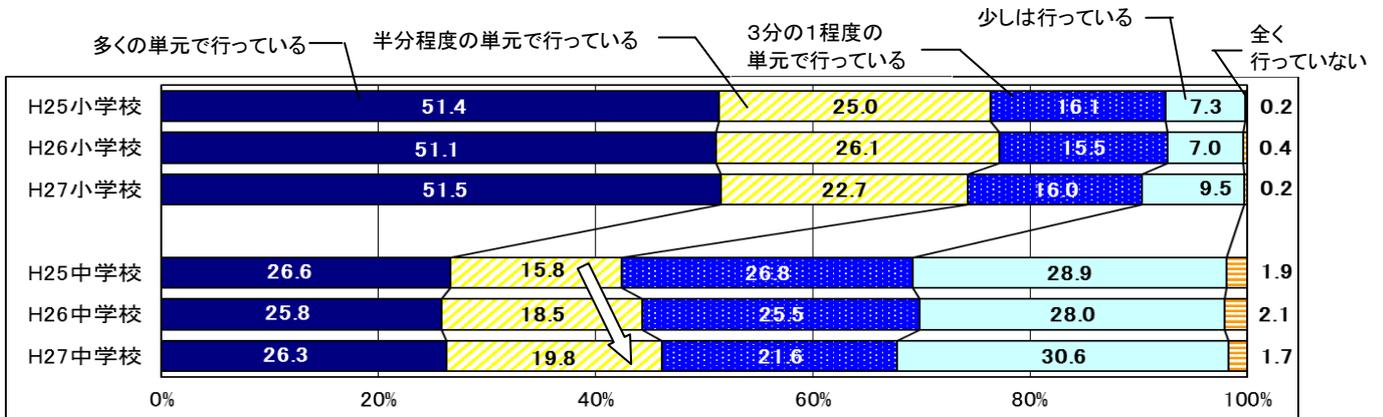


- ・ 「同一学年」の経年比較において、小学6年、中学3年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。その他の学年では、前年度とほぼ同程度である。[グラフ 12]

[グラフ 17-1] 普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



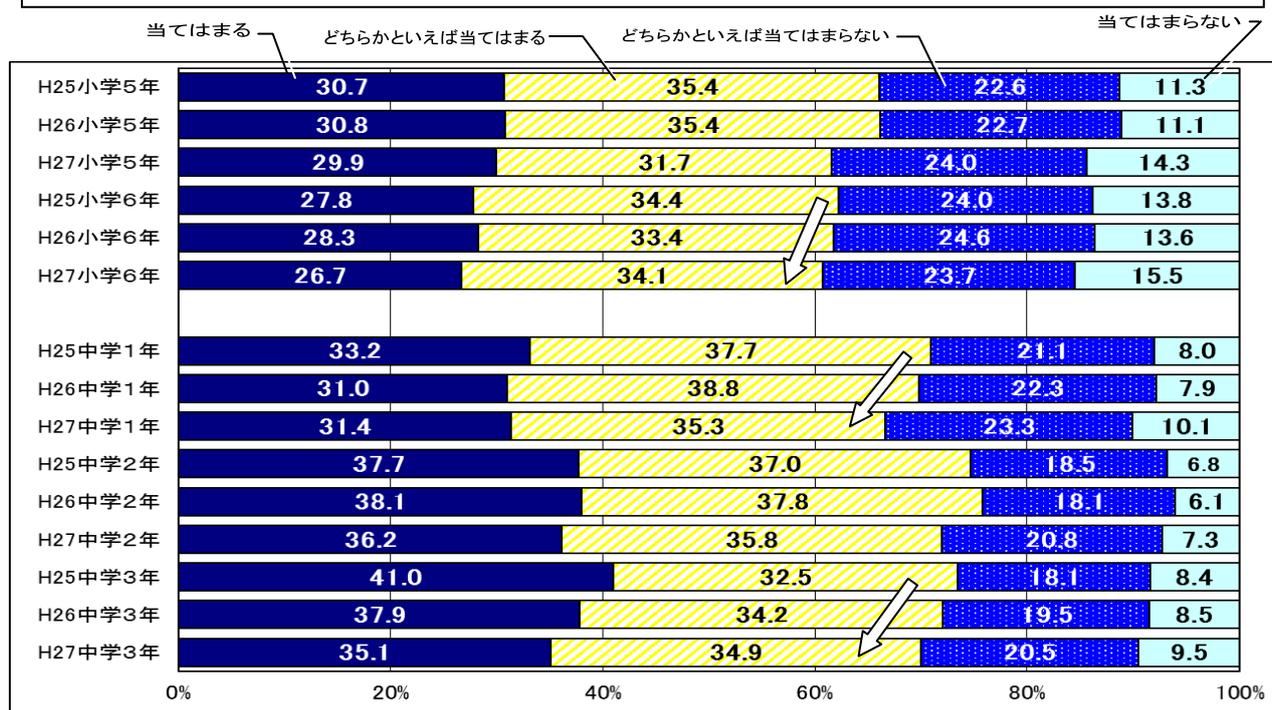
[グラフ 17-2] 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較



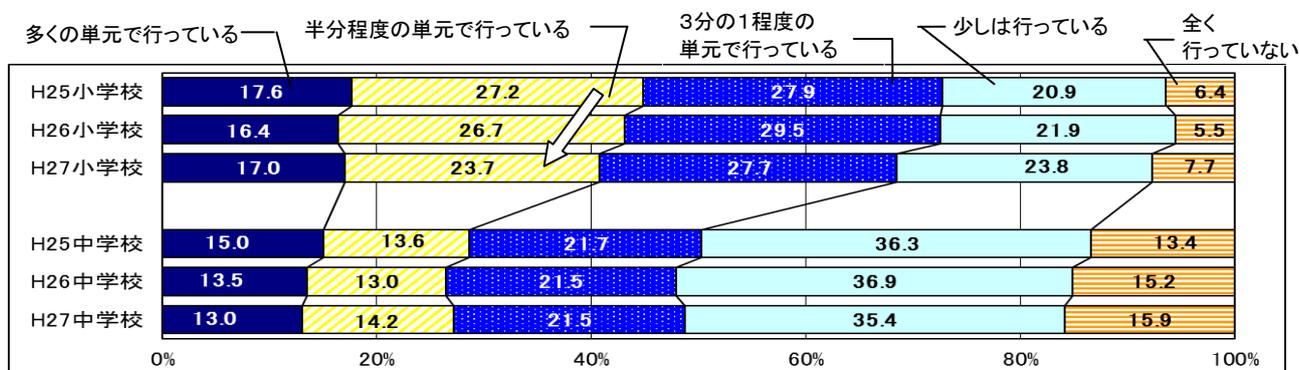
- ・「同一学年」の経年比較において、中学1年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。その他の学年では、明らかな傾向は見られない。[グラフ 17-1]
- ・教師意識調査では、表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」と回答した教師は、小学校で約 50%、中学校で約 25%であり、大きな変化はない。「半分程度の単元で行っている」と回答した教師は、中学校で増加している。

[グラフ 17-2]

[グラフ 18-1] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 18-2] レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。 ※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較

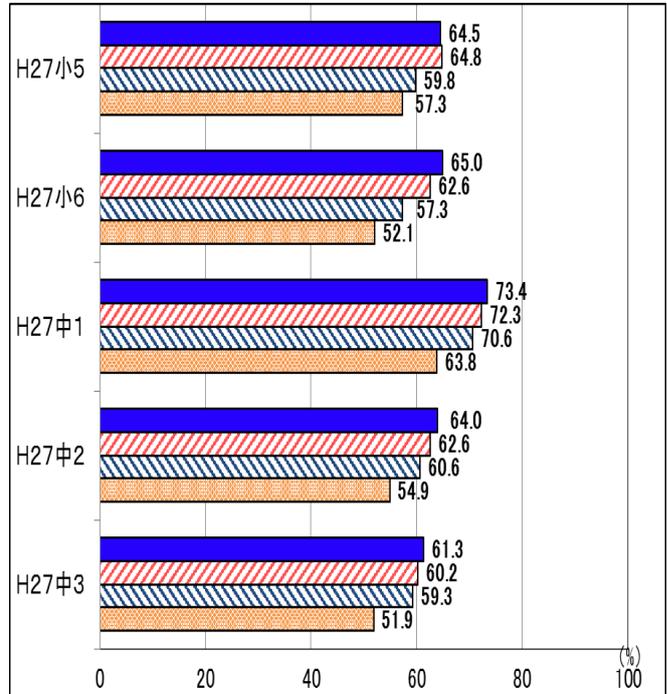
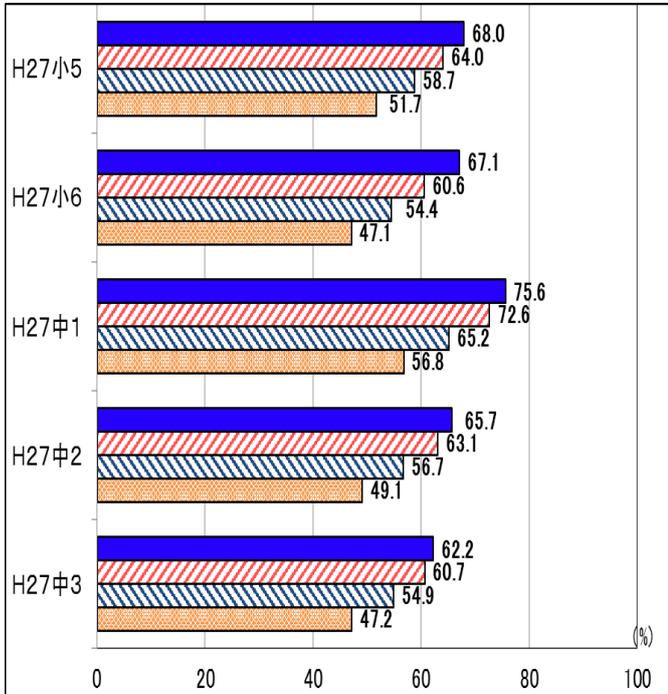


- ・「同一学年」の経年比較において、小学6年、中学1年、中学3年では、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることに難しさを感じている児童生徒の割合が、減少している。小学5年、中学2年においても、前年度と比べると今年度は下回っている。[グラフ 18-1]
- ・ 教師意識調査では、レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を「多くの単元で行っている」「半分程度の単元で行っている」と回答した教師は、小学校で約40%、中学校で約30%であり、小学校では、「半分程度の単元で行っている」と回答した教師の割合が減少している。[グラフ 18-2]

[グラフ 19] 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

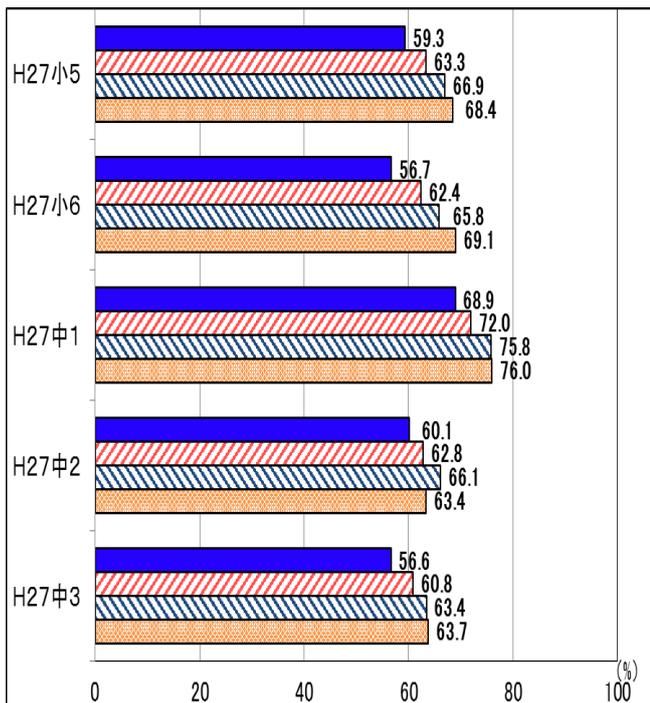
[グラフ 20] 「普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

※児童生徒の回答は、上から「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の順

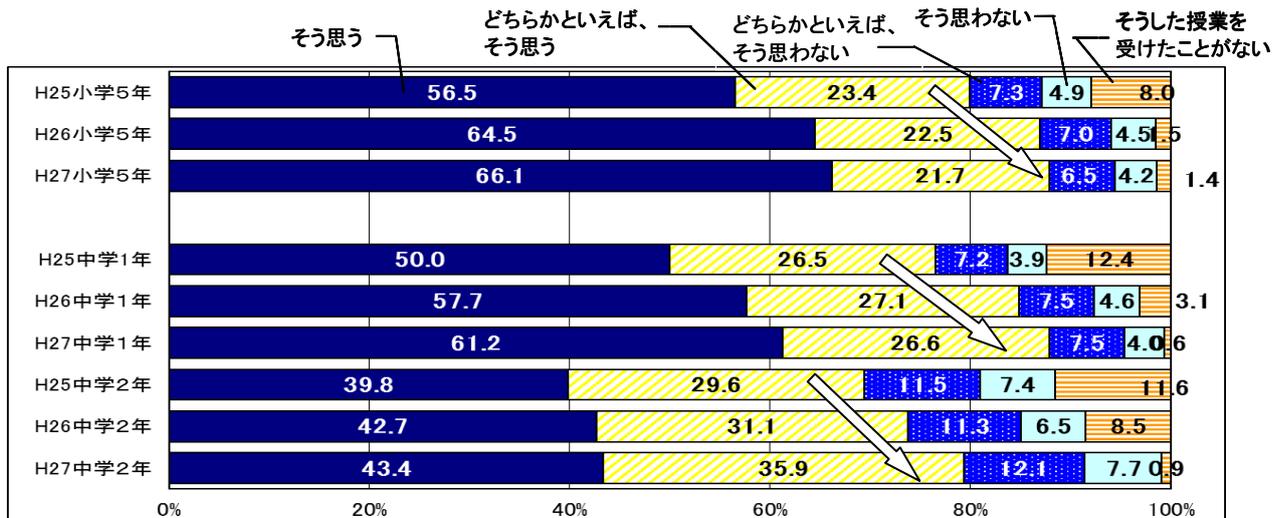


[グラフ 21] 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

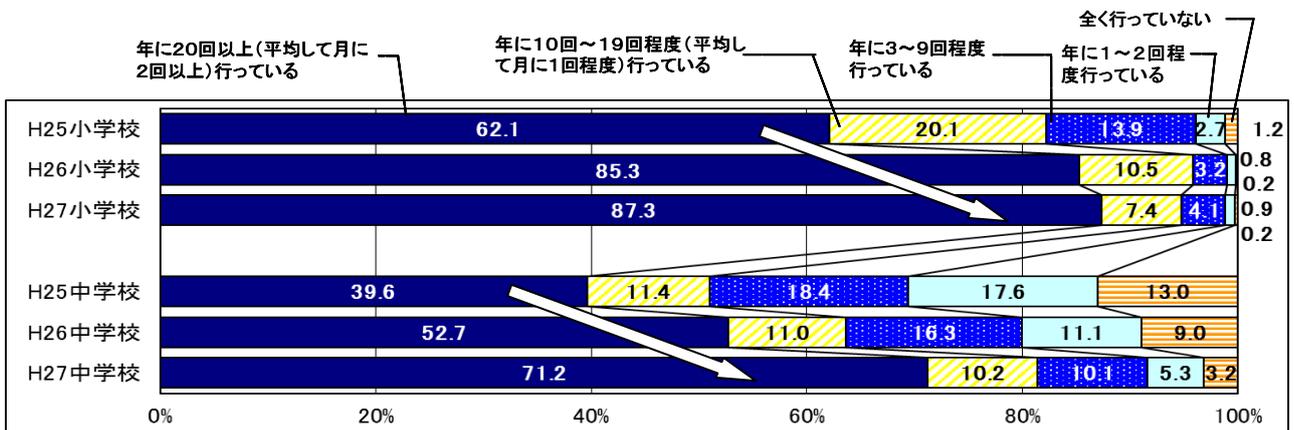
- ・ 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」という問いについて、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 19]
- ・ 「普段の授業では、話し合う活動をよく行っていると思う」という問いについても、同様の傾向がみられる。[グラフ 20]
- ・ 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して低い傾向にある。[グラフ 21]



[グラフ 22-1] 授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較

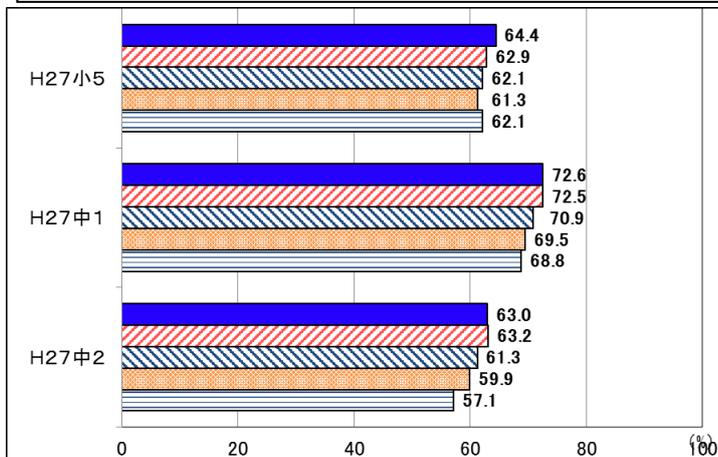


[グラフ 22-2] ICT 機器を活用した授業を行っていますか。
※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較



※本調査における ICT 機器とは、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、児童用学習用 P C、デジタルビデオカメラなどを指す。

[グラフ 22-3] 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒の回答は、上から「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」「そういう授業を受けたことがない」の順

- 「同一学年」の経年比較において、調査対象の全ての学年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が増加している。また、「そうした授業を受けたことがない」と回答した児童生徒はいずれも学年においても、1%前後まで減少している。[グラフ 22-1]

- 教師意識調査では、小学校、中学校ともに、「年に20回以上行っている」と回答した教師の割合が増加しており、今年度は、小学校で約9割、中学校で約7割となっている。

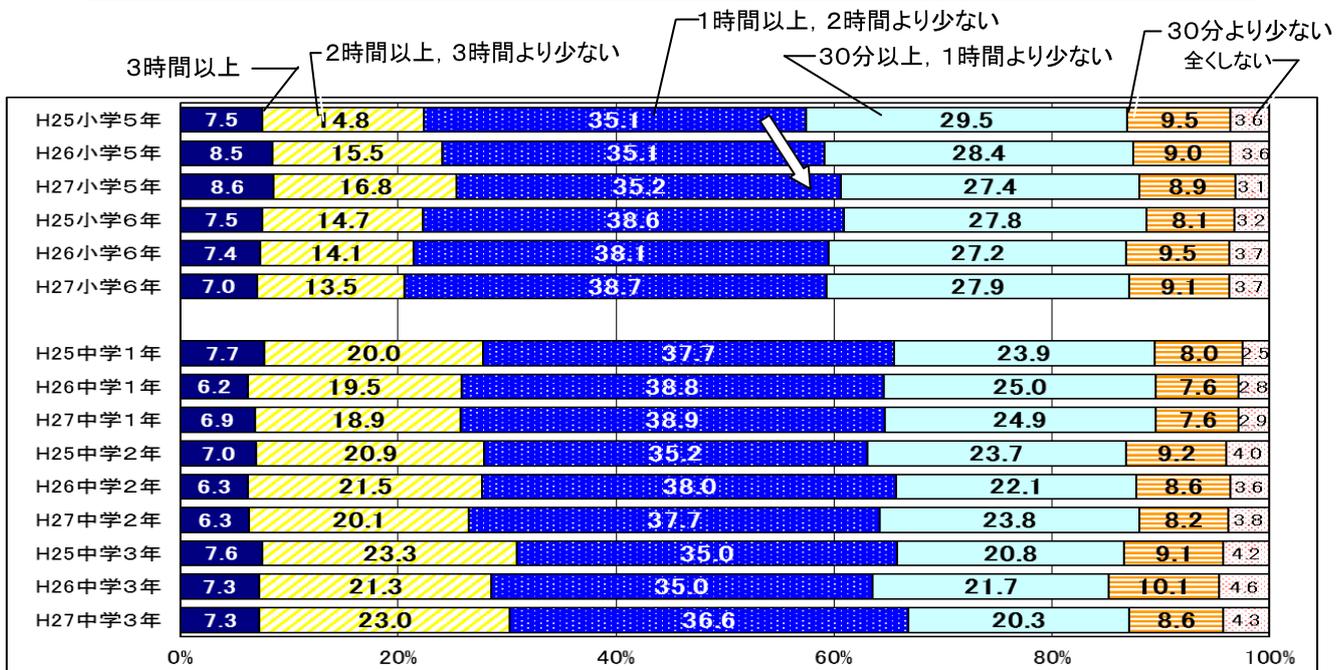
[グラフ 22-2]

- 「授業で、電子黒板などが使われるようになって分かりやすくなった」と回答した児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較してやや高い傾向にある。[グラフ 22-3]

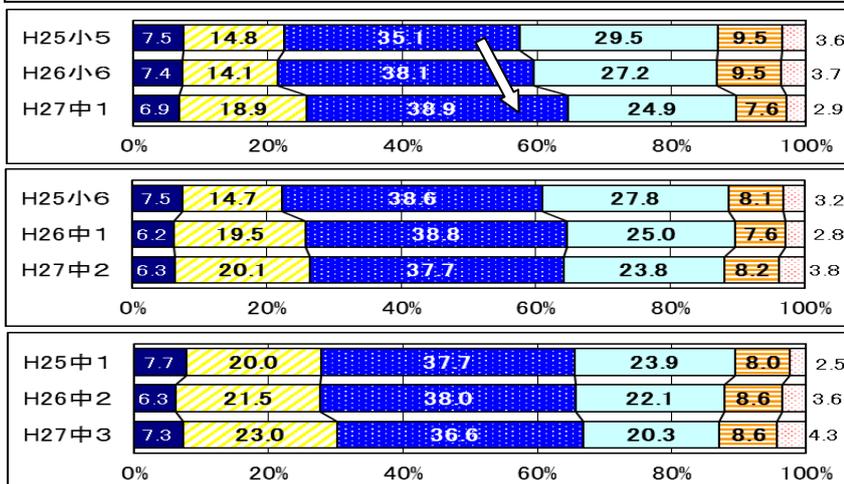
(3) 家庭での学習について

- 家庭での勉強時間は、平日に1時間以上、土・日や休みの日に2時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、小学5年で増加している。中学3年ではいずれも前年度を上回っている。[グラフ 23-1、24-1]
- 家庭学習の取り組みにおいて、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」という問いに対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学6年、中学3年で増加している。[グラフ 25、26]
- 「学校の宿題をしている」の問いに対しては、小学6年以外の全ての学年で、前年度を上回っている。小学6年は前年度と同程度である。[グラフ 27-1]
- 教科平均正答率との相関を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。[グラフ 29、30]

[グラフ 23-1] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 25~27 年度「同一学年」の経年比較



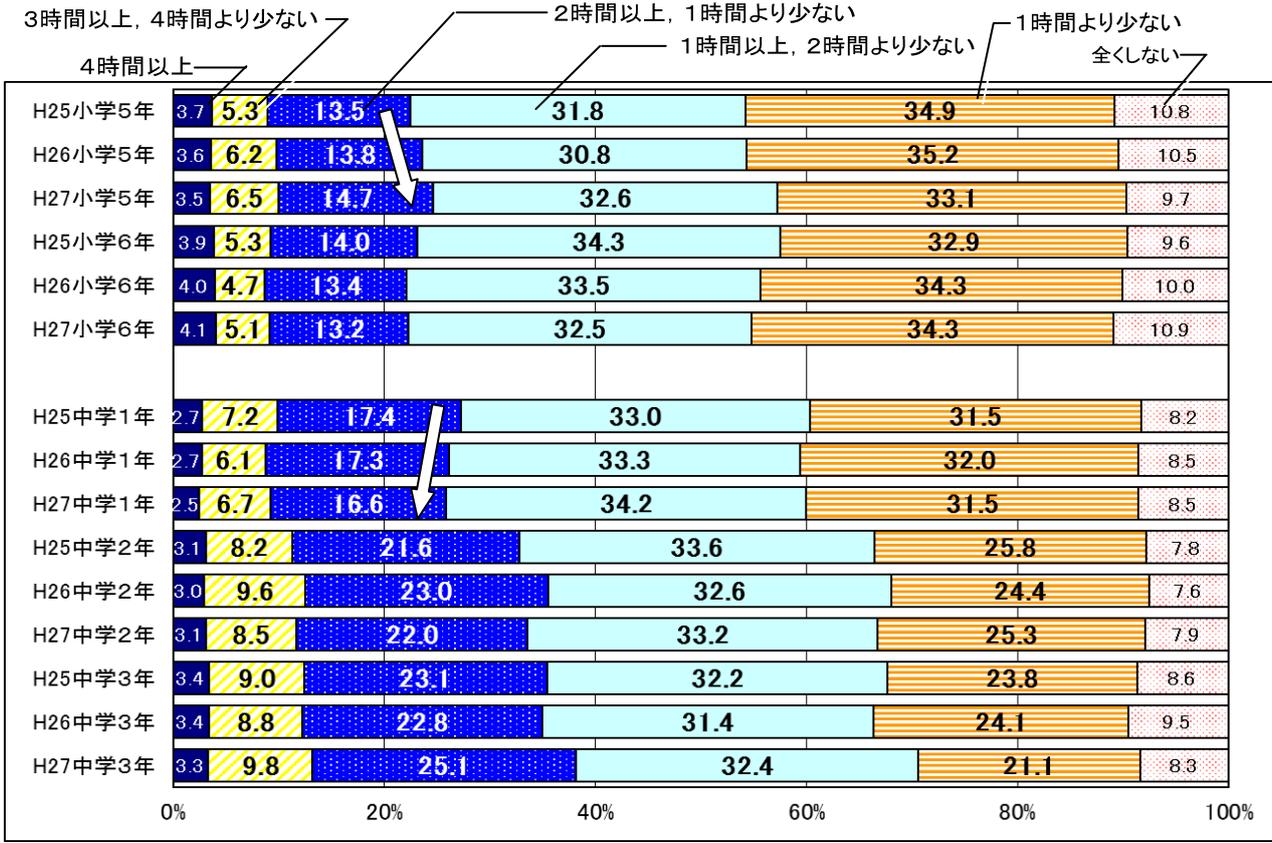
[グラフ 23-2] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 25~27 年度「同一児童生徒」の経年比較



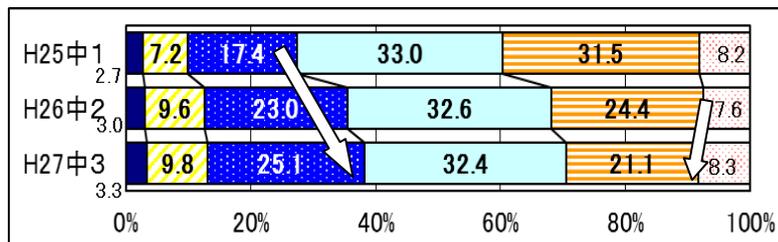
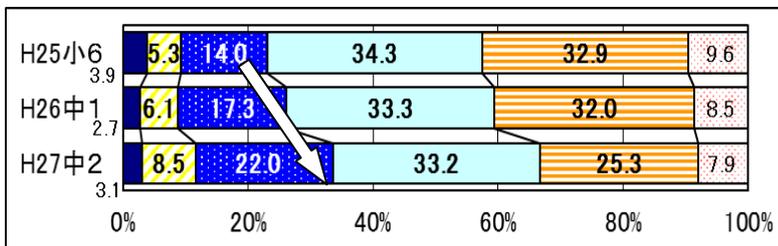
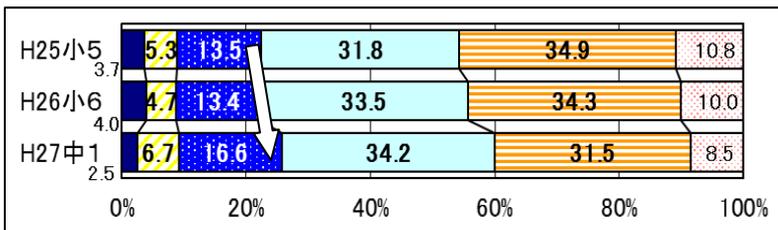
- 「同一学年」の経年比較において、1時間以上、勉強している児童生徒の割合は小学5年で増加している。中学3年では前年度を上回っている。[グラフ 23-1]
- 「同一児童生徒」の経年比較において、小学5年から中学1年にかけては、学年進行に伴い、学習時間は増加している。中学校では、3年で増加しているが、「30分より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合も、わずかに増加している。

[グラフ 23-2]

[グラフ 24-1] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 25~27 年度「同一学年」の経年比較



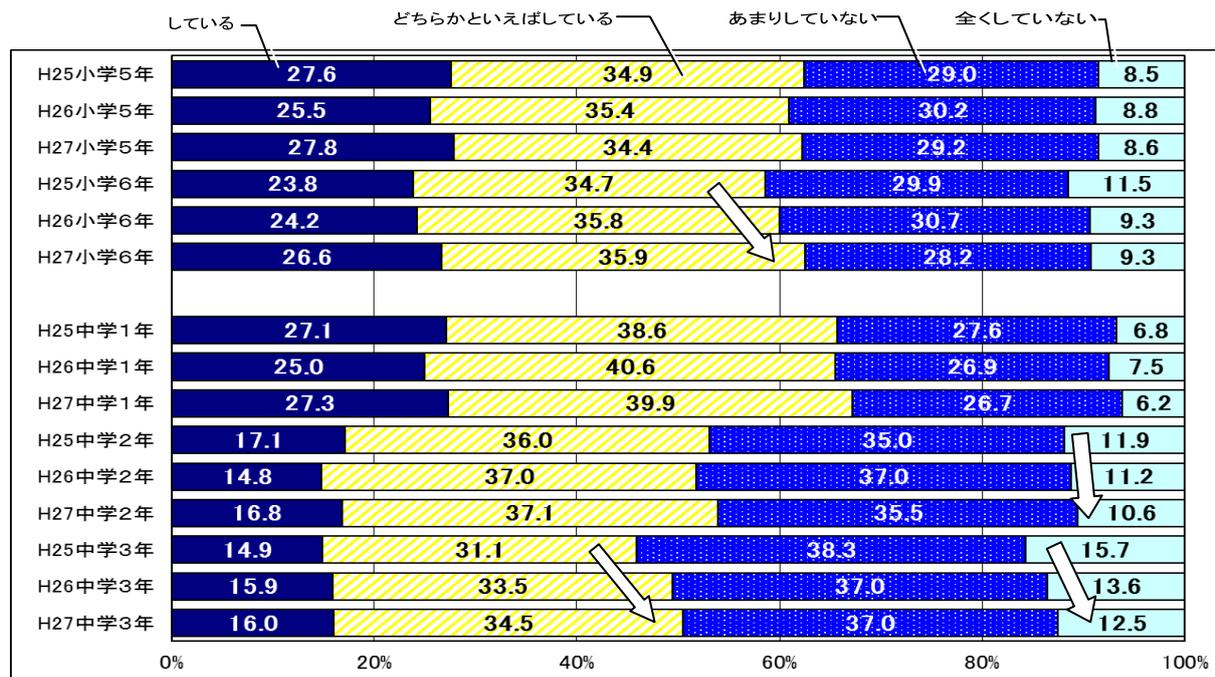
[グラフ 24-2] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 25~27 年度「同一児童生徒」の経年比較



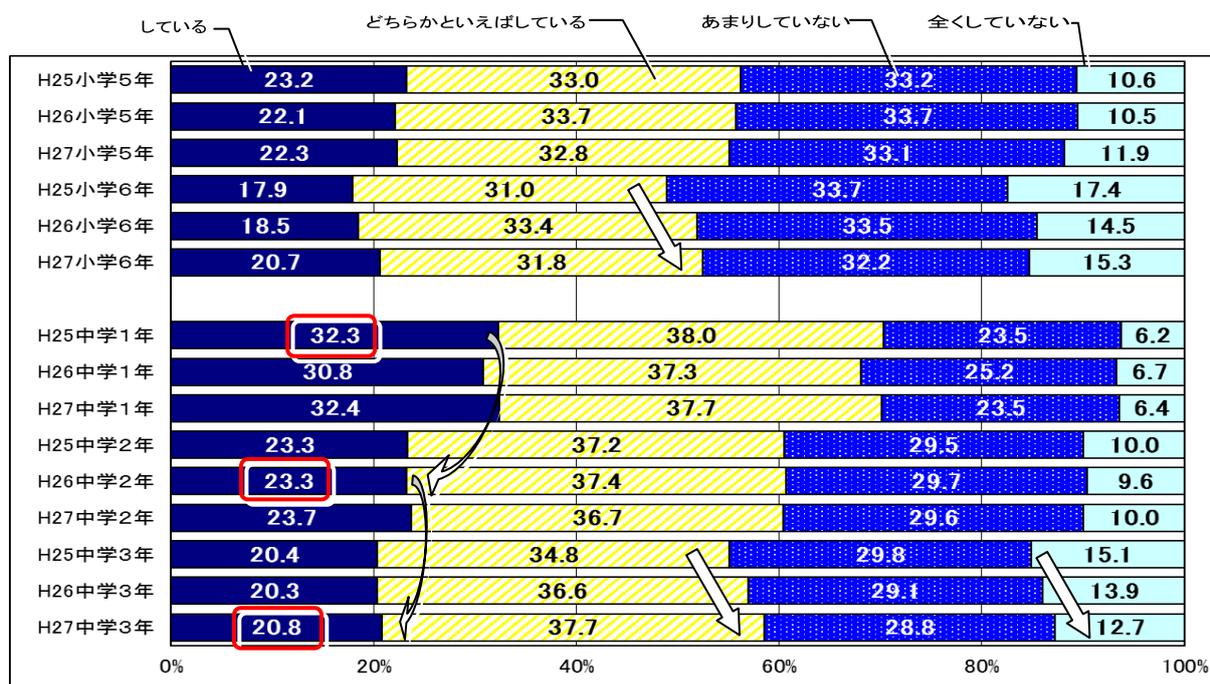
- 「同一学年」の経年比較において、2時間以上、勉強している児童生徒の割合は小学5年で増加しており、中学1年で減少している。中学3年では前年度を上回っている。 [グラフ 24-1]

- 「同一児童生徒」の経年比較において、小学校、中学校ともに、学年進行に伴い、学習時間は増加している。しかし、中学2年から中学3年にかけては、「全くしない」と回答した生徒の割合が、わずかに増加している。 [グラフ 24-2]

[グラフ 25] 自分で計画を立てて勉強している。平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



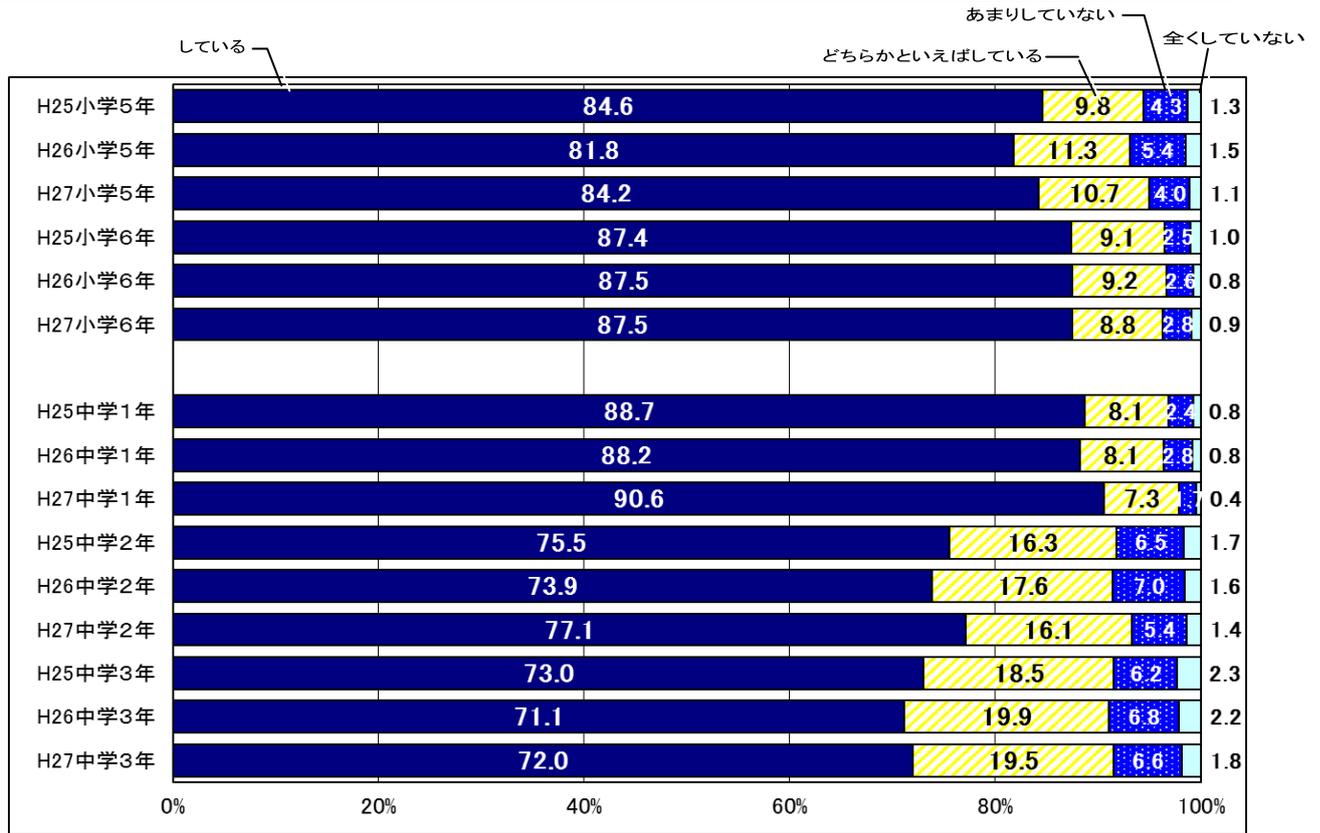
[グラフ 26] 学校の授業の復習をしている。平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



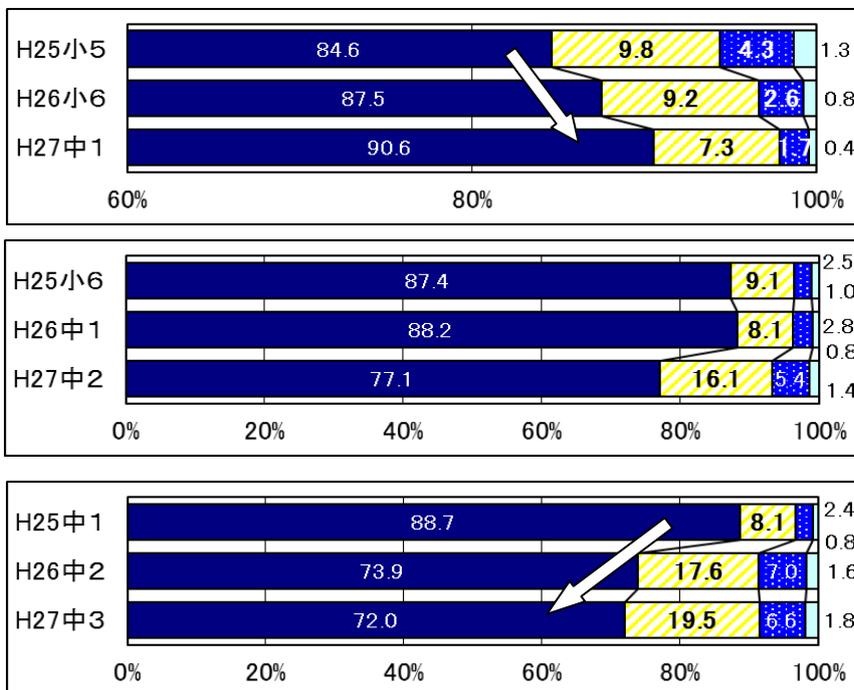
・ 「自分で計画を立てて勉強している」という問いの「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学6年、中学3年で増加している。また、その他の全ての学年で、前年度を上回っている。「全くしていない」と回答した児童生徒は中学2年、中学3年で減少している。 [グラフ 25]

・ 「学校の授業の復習をしている」という問いの「同一学年」の経年比較においても、肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、小学6年、中学3年で増加している。また、中学1年で、前年度を上回っている。「全くしていない」と回答した児童生徒は、中学3年で減少している。しかし、「同一児童生徒」の経年比較においては、「している」と回答した生徒 20.8 が、中学校では学年進行に伴い、減少している。 [グラフ 26]

[グラフ 27-1] 学校の宿題をしている。平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較

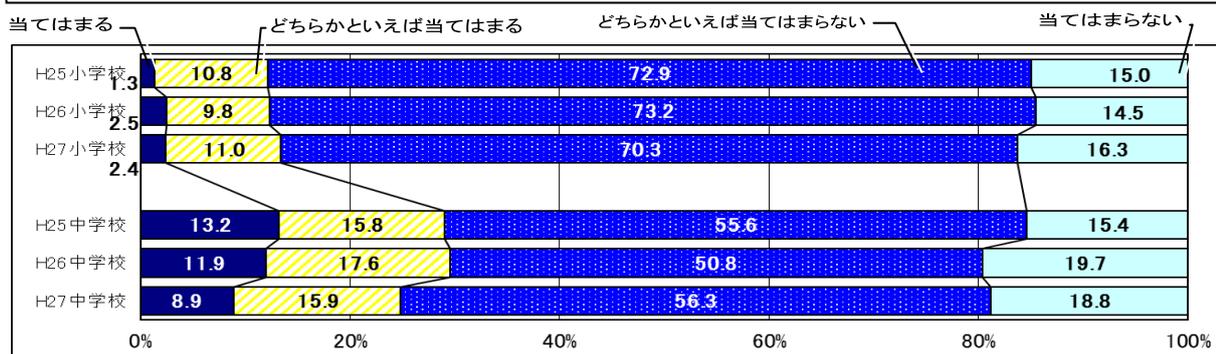


[グラフ 27-2] 学校の宿題をしている。平成 25～27 年度「同一児童生徒」の経年比較

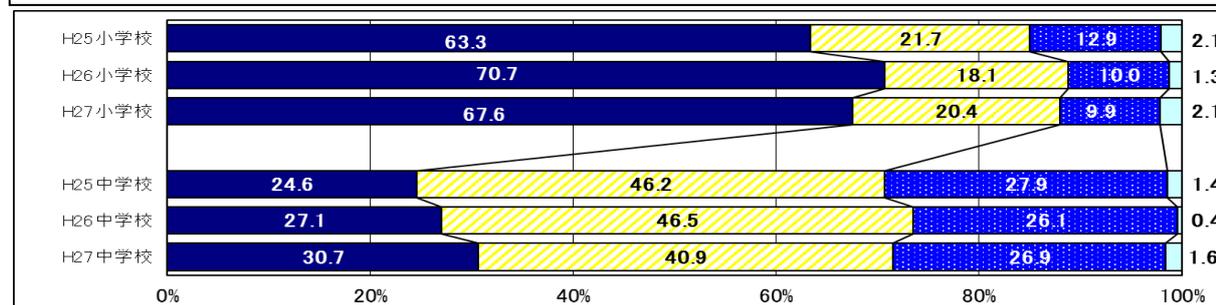


- 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の明らかな傾向は見られないが、小学6年を除く全ての学年で、前年度を上回っている。 [グラフ 27-1]
- 小・中学校ともに、肯定的な回答をした児童生徒の割合は9割を超えており、小学校で特に高い。 [グラフ 27-1]
- 「同一児童生徒」の経年比較において、小学5年から中学1年にかけては、学年進行に伴い、「している」と回答した児童の割合が増加しているが、中学校では、学年進行に伴い減少している。 [グラフ 27-2]

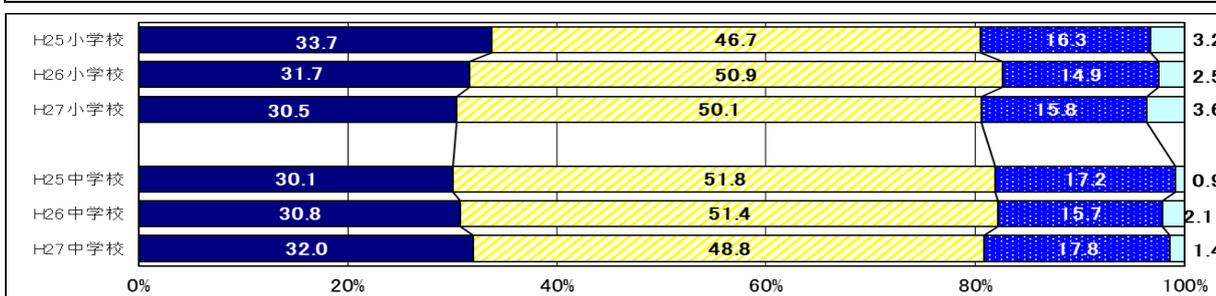
[グラフ 28-1] 予習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較



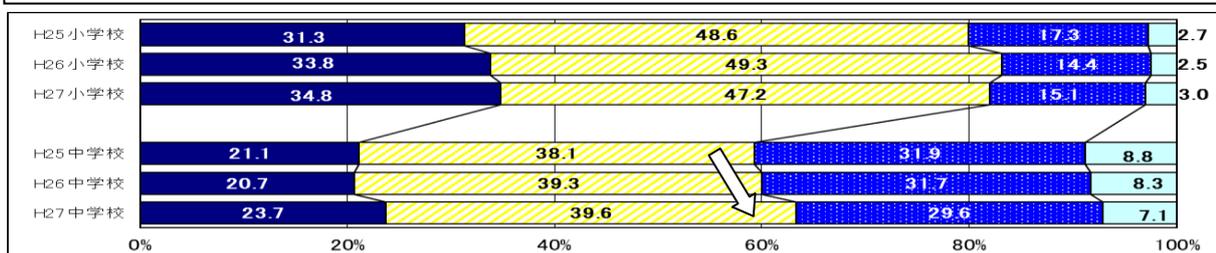
[グラフ 28-2] 復習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較



[グラフ 28-3] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較

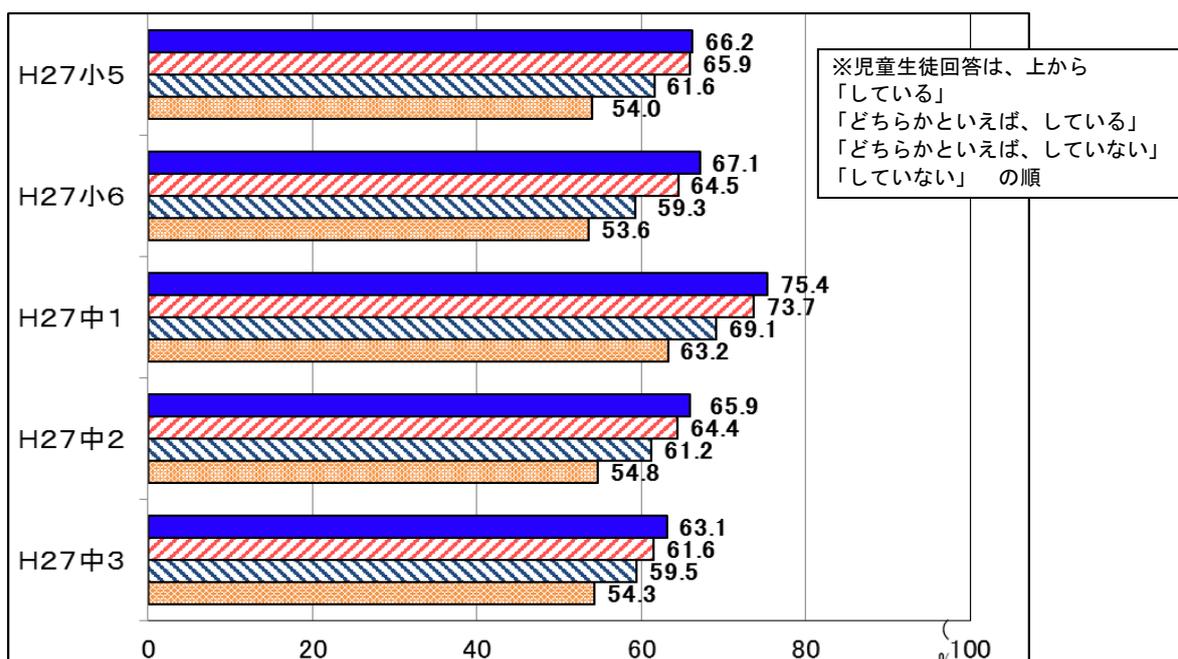


[グラフ 28-4] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。
※教師意識調査より 平成 25～27 年度の経年比較

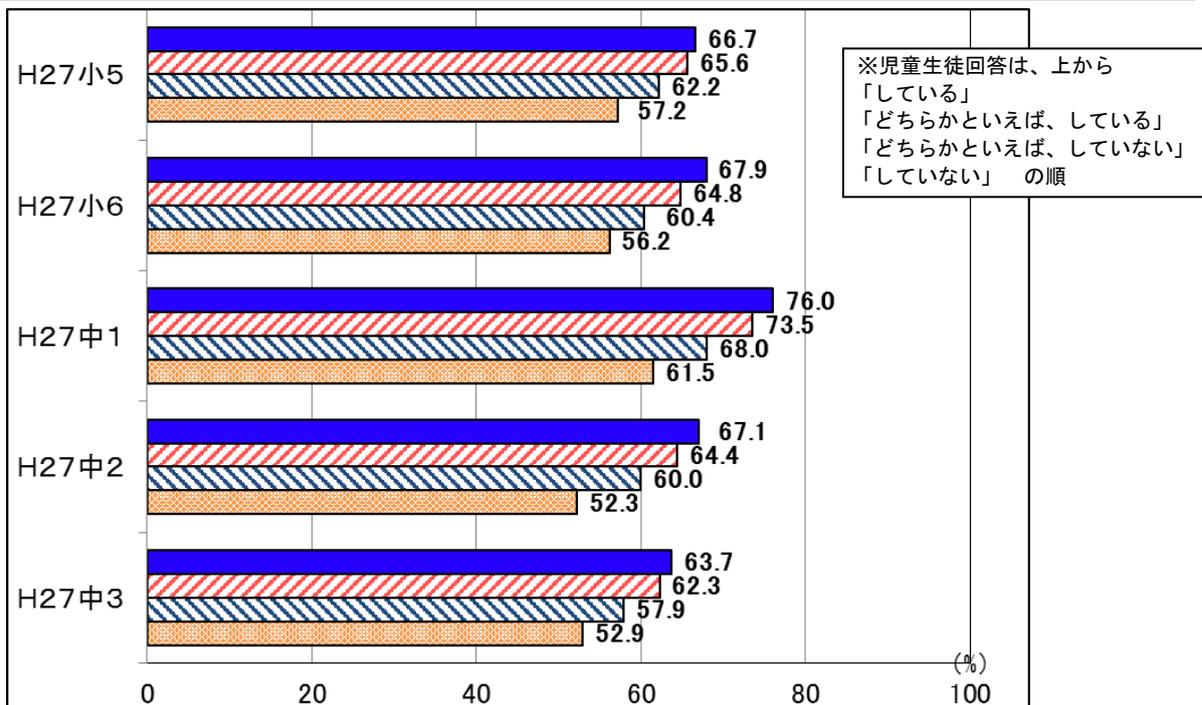


- 予習的な内容の宿題を出題することに肯定的な回答をした教師は、小学校で約 1 割、中学校で約 3 割である。中学校では前年度を下回っている。[グラフ 28-1]
- 復習的な内容の宿題を出題することに肯定的な回答をした教師は、小学校で約 9 割、中学校で約 7 割である。小学校、中学校ともに前年度を下回っている。[グラフ 28-2]
- 家庭での学習方法の指導について、肯定的な回答をした教師は、小学校、中学校ともに約 8 割である。[グラフ 28-3]
- 宿題の出し方について職員間で共通理解を図ることについて肯定的な回答をした教師は、小学校で約 8 割、中学校で約 6 割である。中学校では増加している。[グラフ 28-4]

[グラフ 29] 「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 30] 「学校の授業の復習をしている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

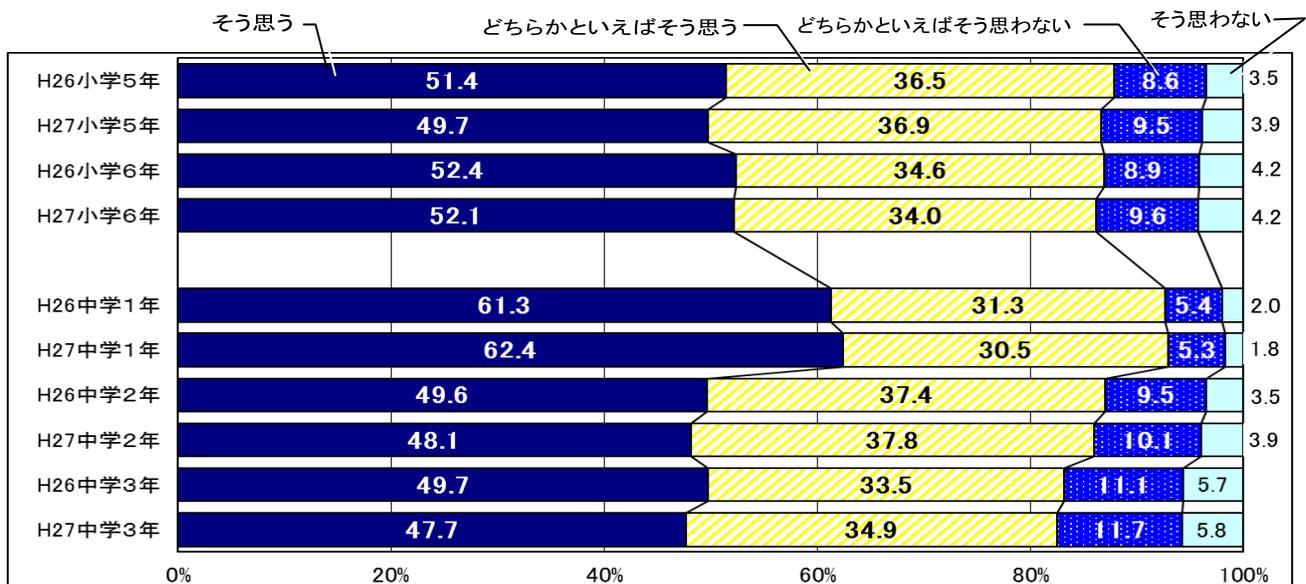


- ・ 「自分で計画を立てて勉強している」という問いに対して、肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒に対して高い。[グラフ 29]
- ・ 「学校の授業の復習をしている」という問いに対して、肯定的な回答をした児童生徒の正答率も、そうでない児童生徒に対して高い。[グラフ 30]
- ・ 「苦手な教科の勉強をしている」「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」の問いに対しても同様の傾向が見られた。(グラフなし)

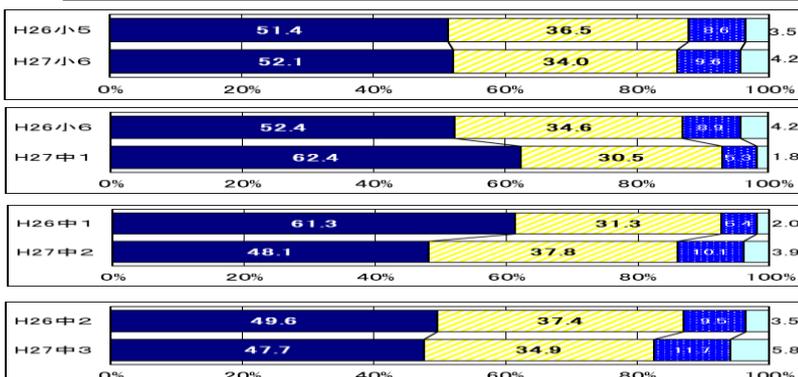
(4) 学校生活、家庭生活についての児童生徒の意識・実態について

- 「学校に行くのは楽しいと思う」という問いについては、中学1年を除く全ての学年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が前年度を下回っている。 [グラフ 31-1]
- 「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いについては、小学5年で、肯定的な回答をした児童の割合が減少している。 [グラフ 32-1]
- 平日2時間以上テレビやビデオ・DVDを視聴する児童生徒の割合が、小学6年と中学2年で減少している。 [グラフ 33-1]
- 平日2時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、小学6年と中学3年で増加している。その他の学年では全て、前年度を下回っている。 [グラフ 34-1]
- 平日に、携帯電話やスマートフォンを使用していると回答した児童生徒の割合は、小学6年、中学3年ともに、前年度を上回っている。 [グラフ 35-1]
- テレビ等の視聴時間、ゲームをする時間、携帯電話やスマートフォンを使用する時間が長いほど、教科平均正答率が低くなっている。 [グラフ 33-3, 34-3, 35-2]
- 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合は、中学3年を除く全ての学年で減少している。 [グラフ 37-1]
- 「新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりする」という問いについては、全ての学年で、肯定的な回答をした児童生徒の割合が前年度を上回っている。 [グラフ 38-1]
- 「将来の夢や目標をもっている」という問いについては、肯定的な回答をした児童生徒の割合が、学年進行に伴い、減少している。 [グラフ 39-1]

[グラフ 31-1]学校に行くのは楽しいと思う 平成 26～27 年度「同一学年」の経年比較

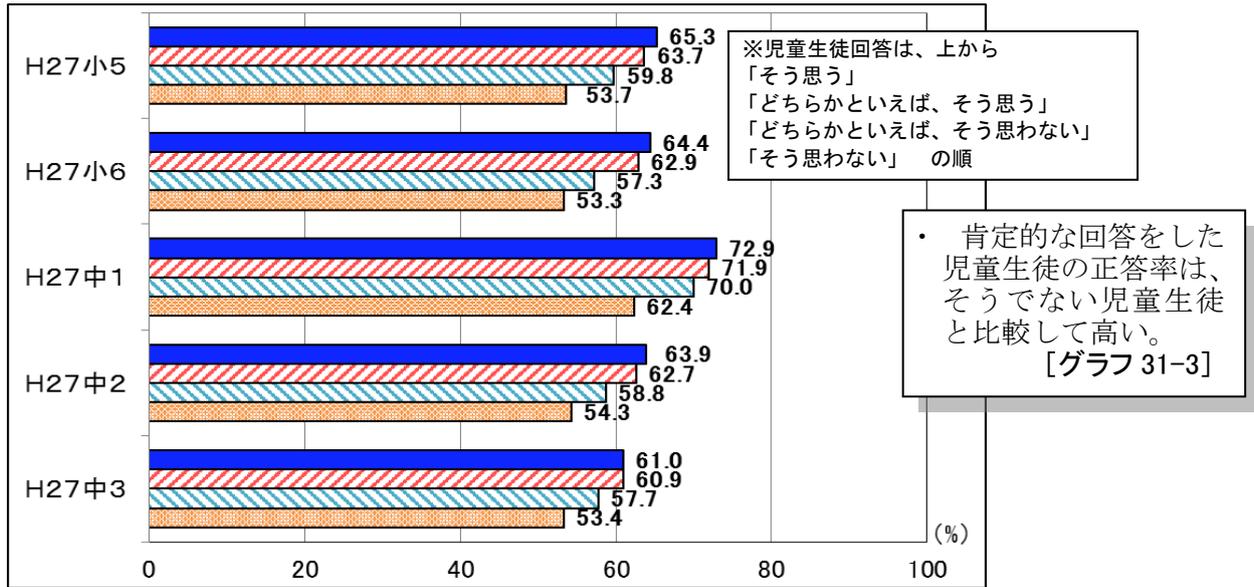


[グラフ 31-2]学校に行くのは楽しいと思う 平成 26～27 年度「同一児童生徒」の経年比較

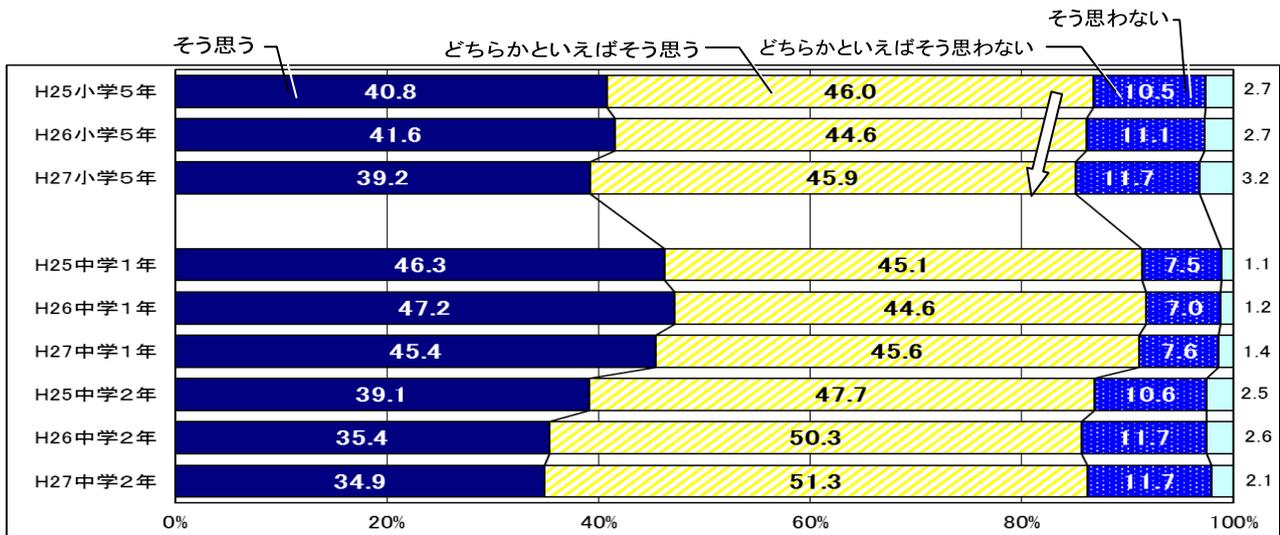


- ・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、中学1年を除く全ての学年で、前年度を下回っている。 [グラフ 31-1]
- ・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、小中学校ともに、学年進行に伴い、肯定的な回答をした児童生徒の割合は減少している。 [グラフ 31-2]

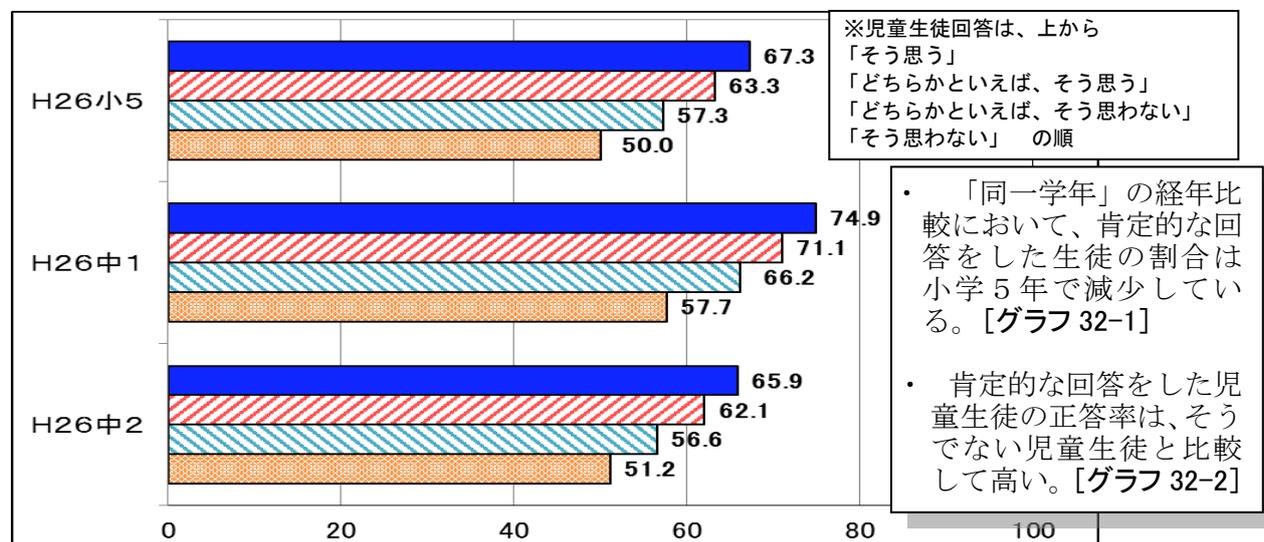
[グラフ 31-3] 「学校に行くのは楽しいと思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



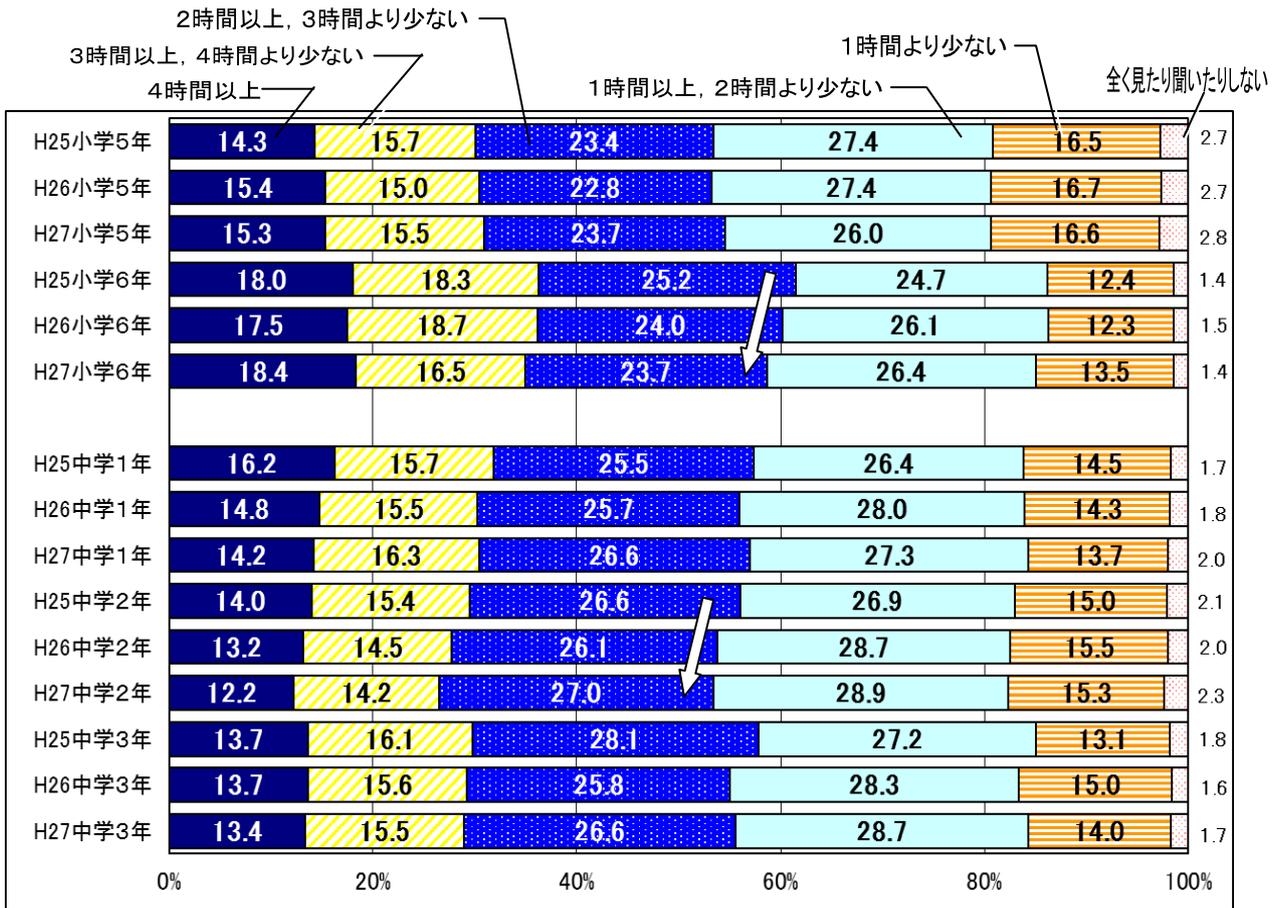
[グラフ 32-1] 学校では落ち着いて勉強することができる 平成 25~27 年度「同一学年」の経年比較



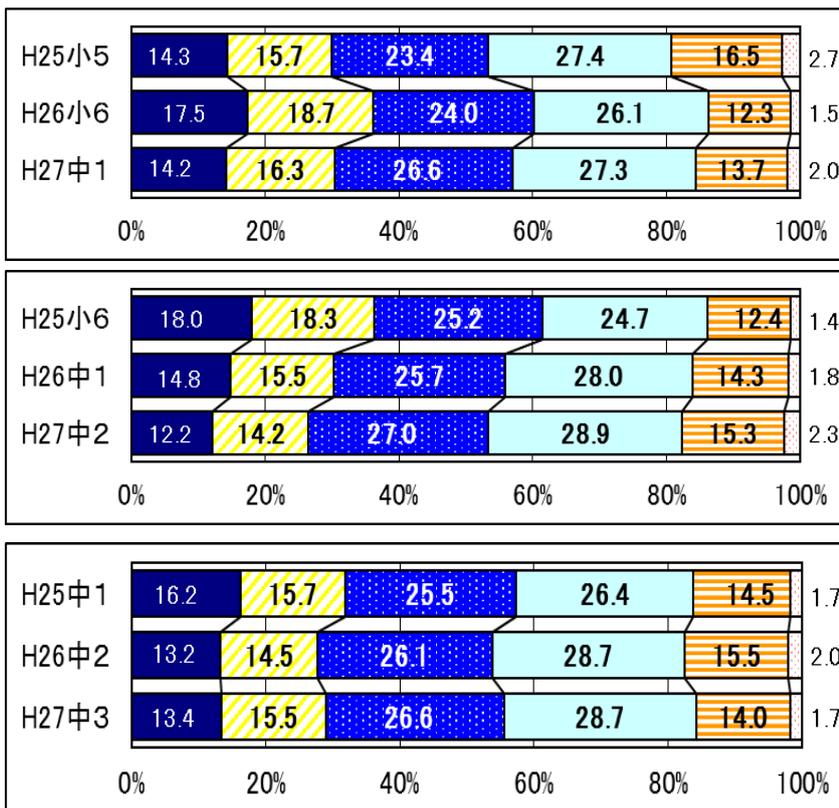
[グラフ 32-2] 「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 33-1] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)



[グラフ 33-2] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 25～27 年度「同一児童生徒」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)



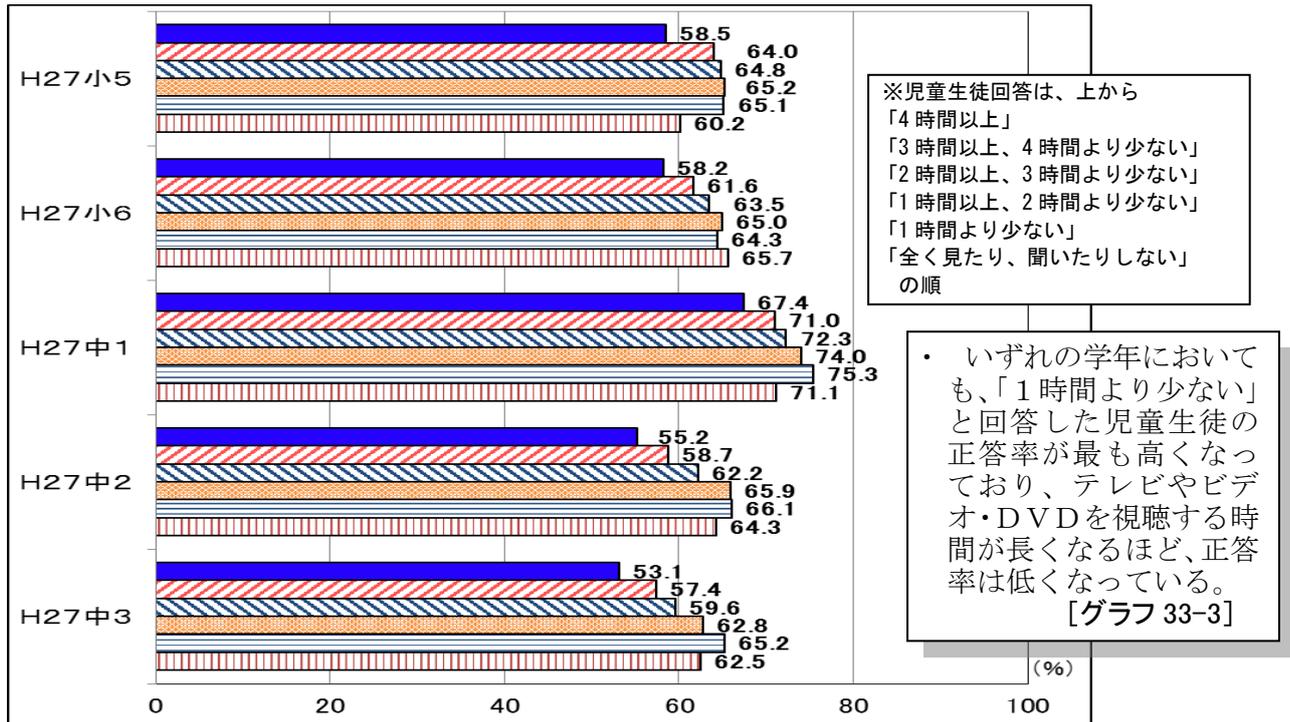
・ 「同一学年」の経年比較において、2時間以上視聴している児童生徒の割合は、小学6年と中学2年で減少している。その他の学年では、目立った傾向は見られないが、いずれも前年度を上回っている。

[グラフ 33-1]

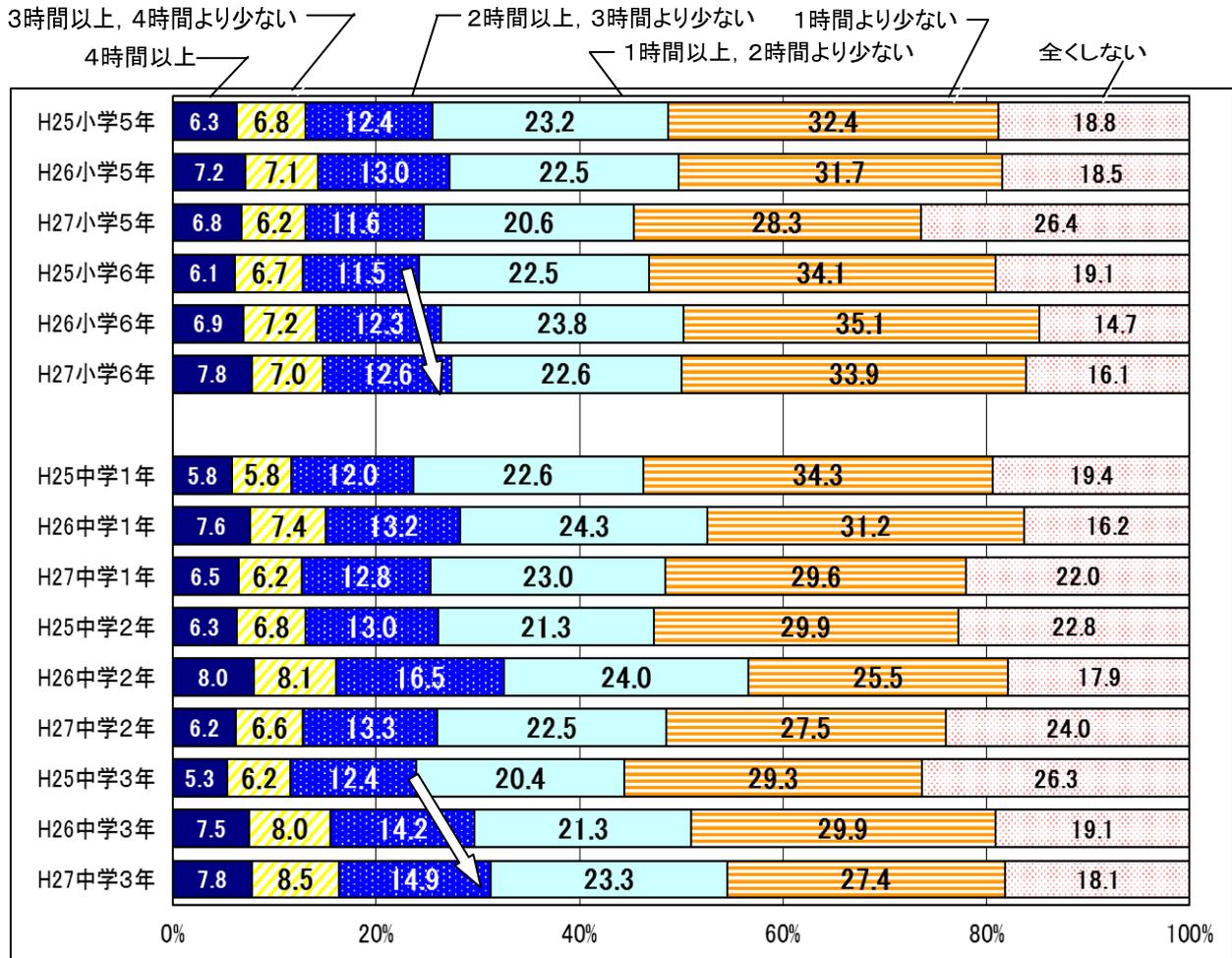
・ 「同一児童生徒」の経年比較において、2時間以上視聴している児童生徒の割合は、小学5年から6年にかけて増加している。また、中学1年から2年にかけては減少しているが、2年から3年にかけては増加している。

[グラフ 33-2]

[グラフ 33-3] 「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日 テレビゲームをする時間は除く)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

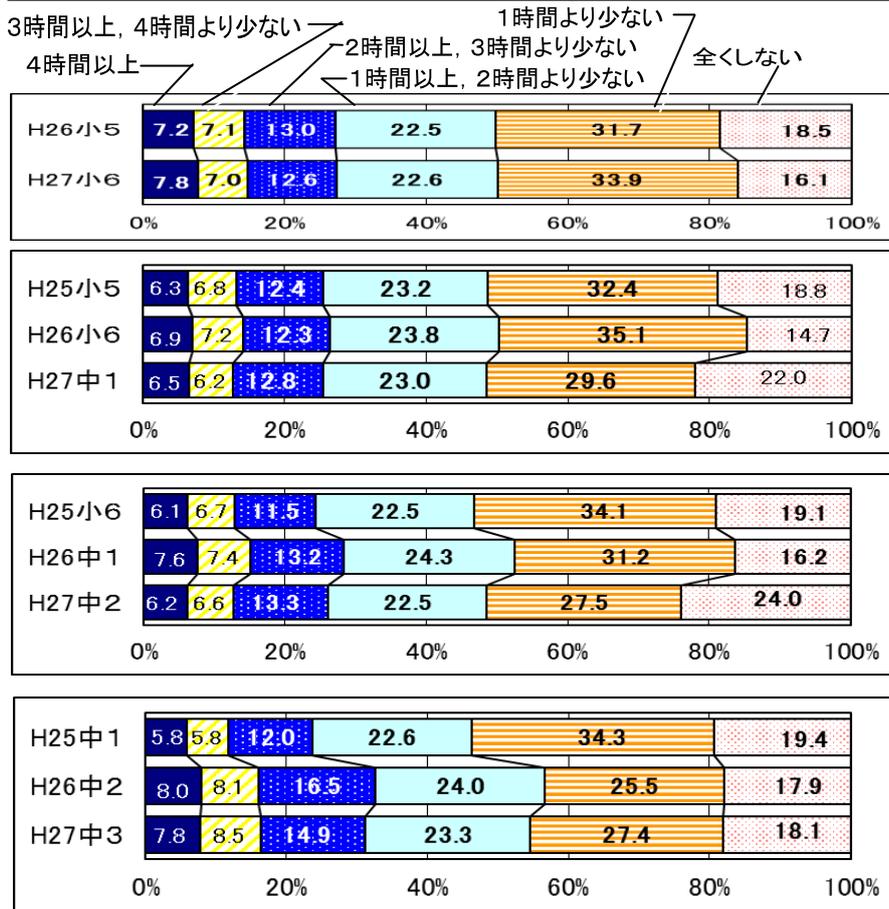


[グラフ 34-1] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)
 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



[グラフ 34-2] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)

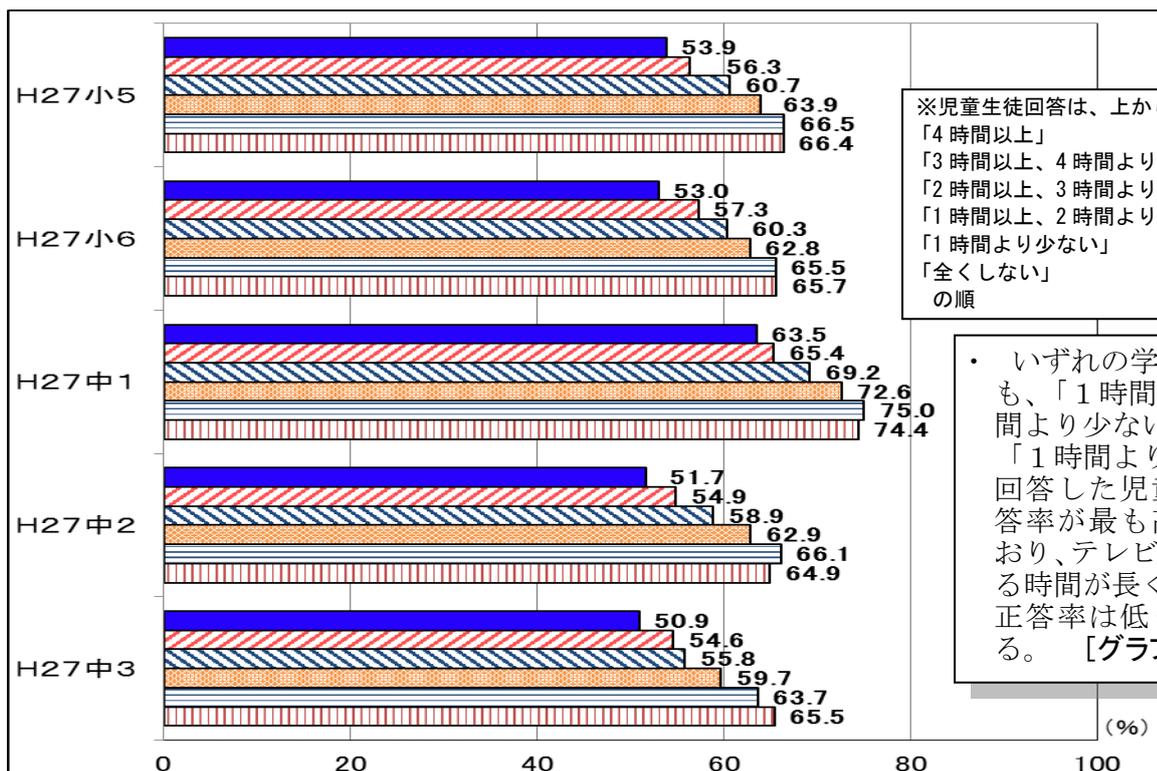
平成 25～27 年度「同一児童生徒」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



・ 「同一学年」の経年比較において、2時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合は、小学6年と中学3年で増加している。その他の学年では、目立った傾向は見られないが、いずれも前年度を下回っている。 [グラフ 34-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、2時間以上テレビゲームをしている児童生徒の割合に目立った傾向は見られないが、平成26年度から平成27年度にかけては減少する傾向にある。 [グラフ 34-2]

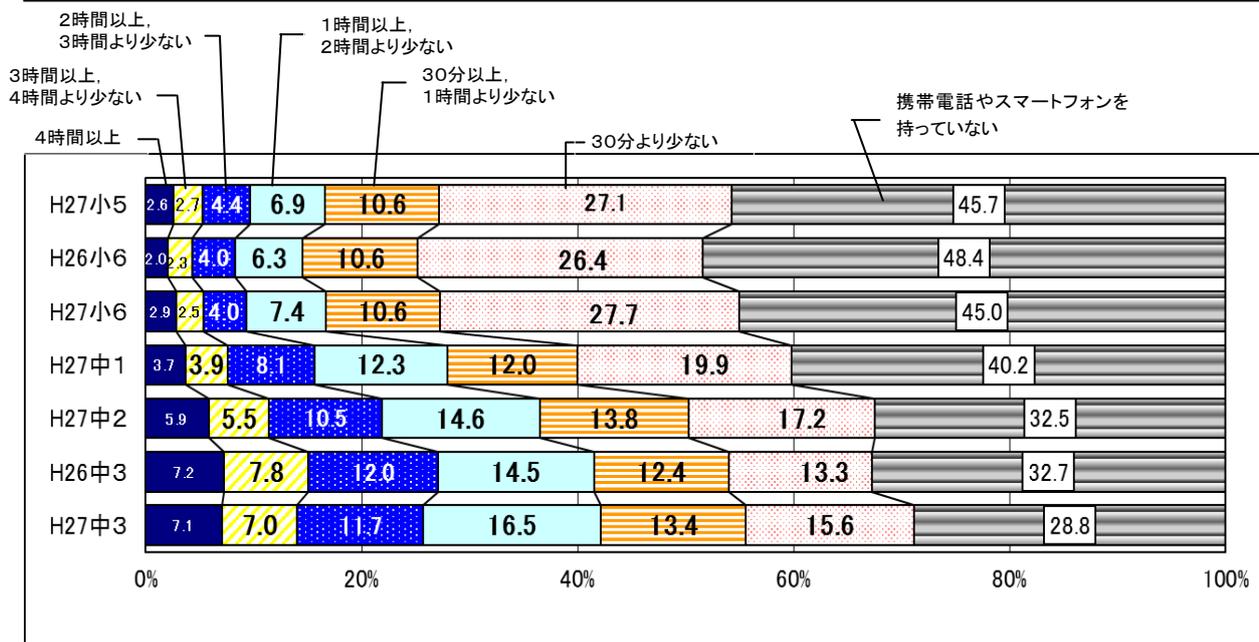
[グラフ 34-3] 「1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒回答は、上から「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「1時間より少ない」「全くしない」の順

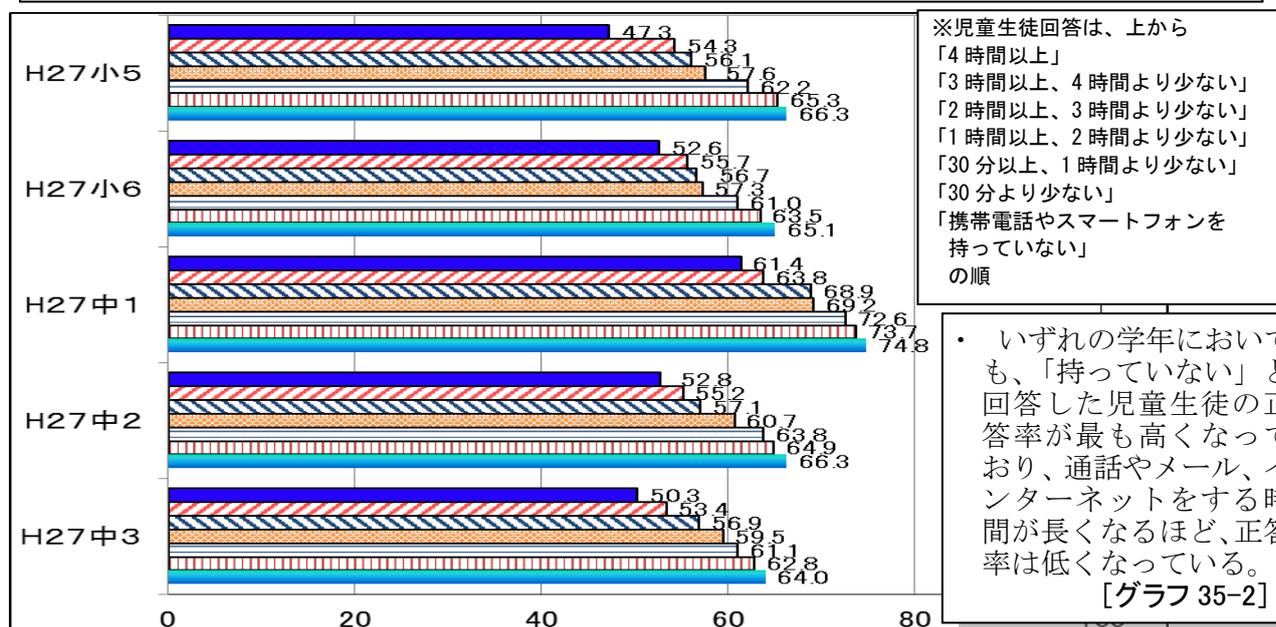
・ いずれの学年においても、「1時間以上、2時間より少ない」もしくは「1時間より少ない」と回答した児童生徒の正答率が最も高くなっており、テレビゲームをする時間が長くなるほど、正答率は低くなっている。 [グラフ 34-3]

[グラフ 35-1] 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをするか ※平成 26 年度は全国調査の結果のみ (携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く。)

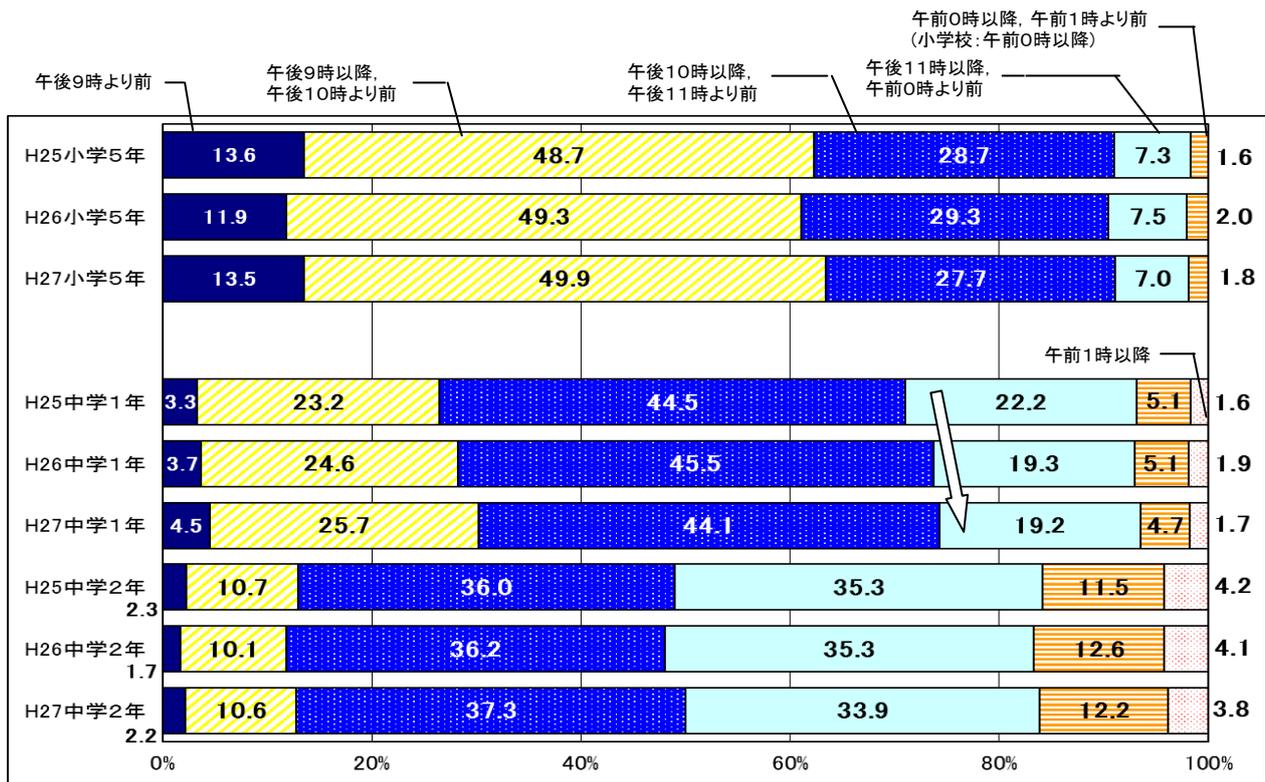


- 1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしていると回答した児童生徒の割合は、小学5年と小学6年では大きな違いはないが、中学校では、学年進行とともに増加している。[グラフ 35-1]
- 中学3年では、約4割の生徒が、1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしており、この割合は前年度を上回っている。しかしながら、2時間以上していると回答した生徒の割合は前年度を下回っている。[グラフ 35-1]
- 「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した児童生徒の割合は、小学校で約5割、中学校で約3割。小学6年、中学3年ともに、前年度を下回っている。[グラフ 35-1]

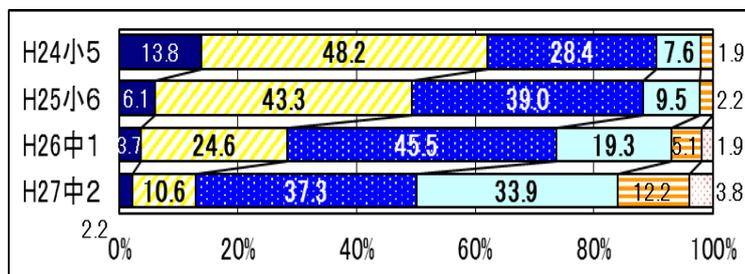
[グラフ 35-2] 「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをするか」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 36-1] 平日の就寝時刻(月～金曜日) 平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 36-2] 平日の就寝時刻(月～金曜日)の平成 24～27 年度「同一児童生徒」の経年比較



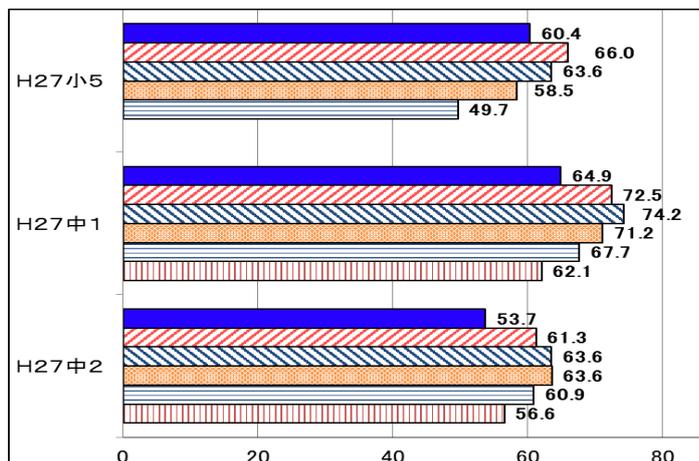
・ 午後 11 時以降に就寝している児童生徒の割合は、小学 5 年で約 1 割、中学 1 年で約 3 割、中学 2 年で約 5 割である。

[グラフ 36-1]

・ 「同一学年」の経年比較において、午後 11 時以降に就寝している児童生徒の割合は、中学 1 年で減少している。[グラフ 36-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、学年進行に伴い、平日の就寝時刻は遅くなっている。 [グラフ 36-2]

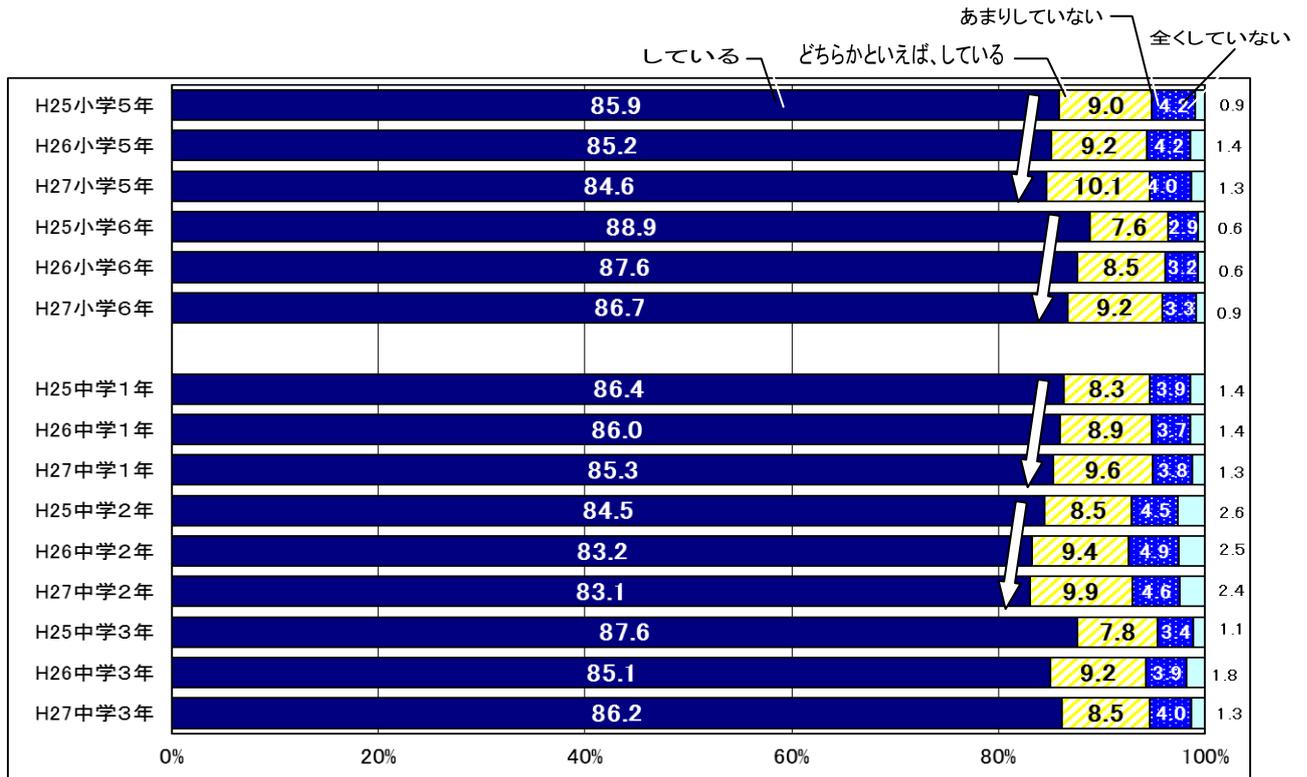
[グラフ 36-3] 平日の就寝時刻(月～金曜日)の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒回答は、上から
「午後 9 時より前」
「午後 9 時以降、午後 10 時より前」
「午後 10 時以降、午後 11 時より前」
「午後 11 時以降、午前 0 時より前」
「午前 0 時以降、午前 1 時より前」
(小学校: 午前 0 時以降)
「午前 1 時以降 (中学校のみ)」
の順

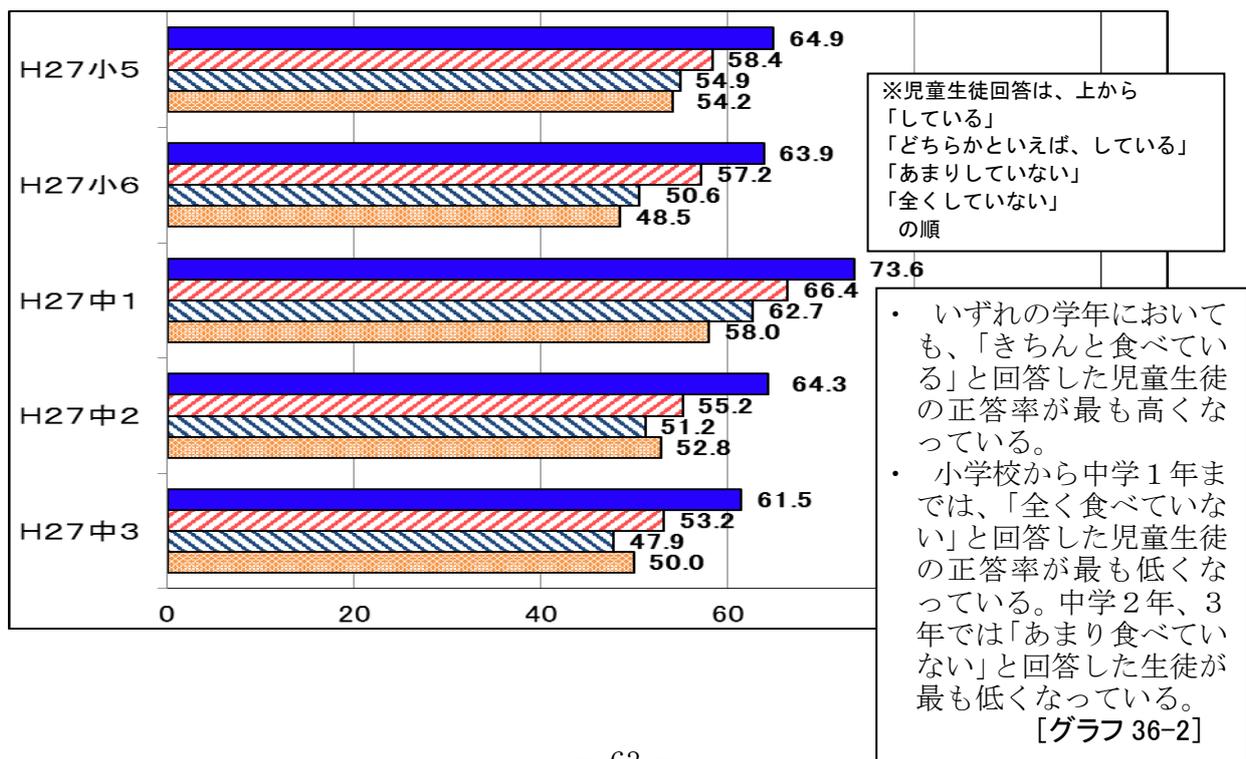
・ 小学 5 年では、午後 9 時以降 10 時より前、中学 1 年では、午後 10 時以降、11 時より前、中学 3 年では、午後 10 時以降、午前 0 時より前と回答した児童生徒の正答率が最も高くなっている。 [グラフ 36-3]

[グラフ 37-1] 朝食を毎日食べている 平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較

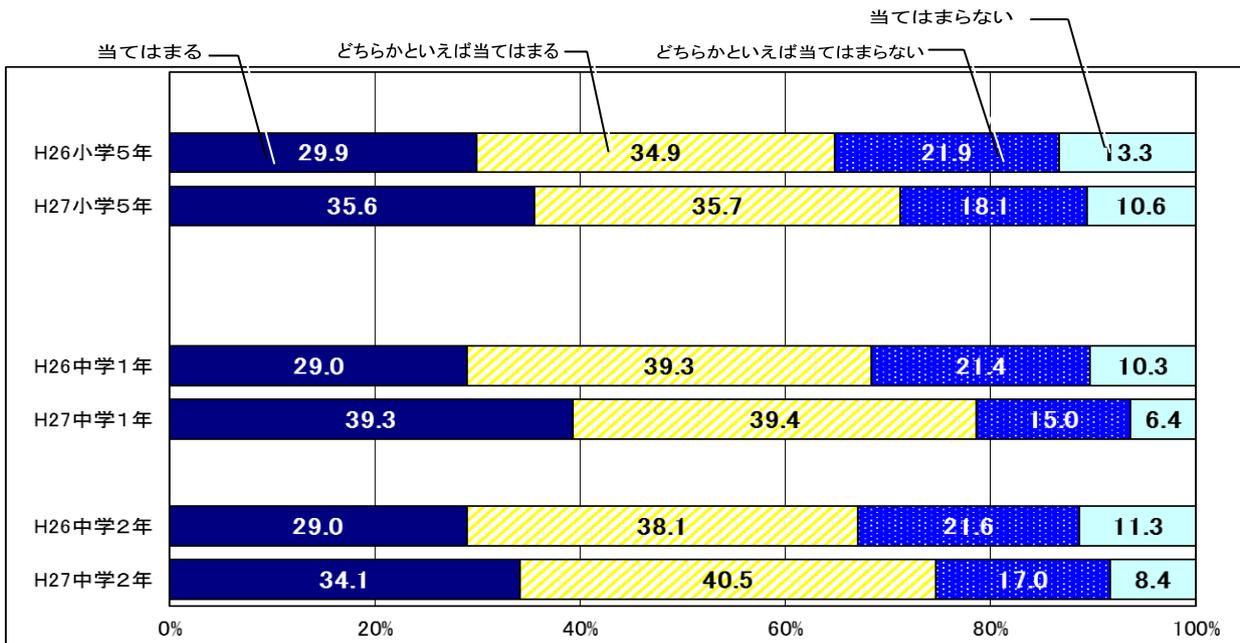


- 「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒は、いずれの学年でも8割を超えている。
- 「同一学年」の経年比較において、中学3年を除く全ての学年で「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒の割合が減少している。中学3年では、「毎日朝食を食べている」と回答した生徒が前年度を上回っている。

[グラフ 37-2] 「朝食を毎日食べている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



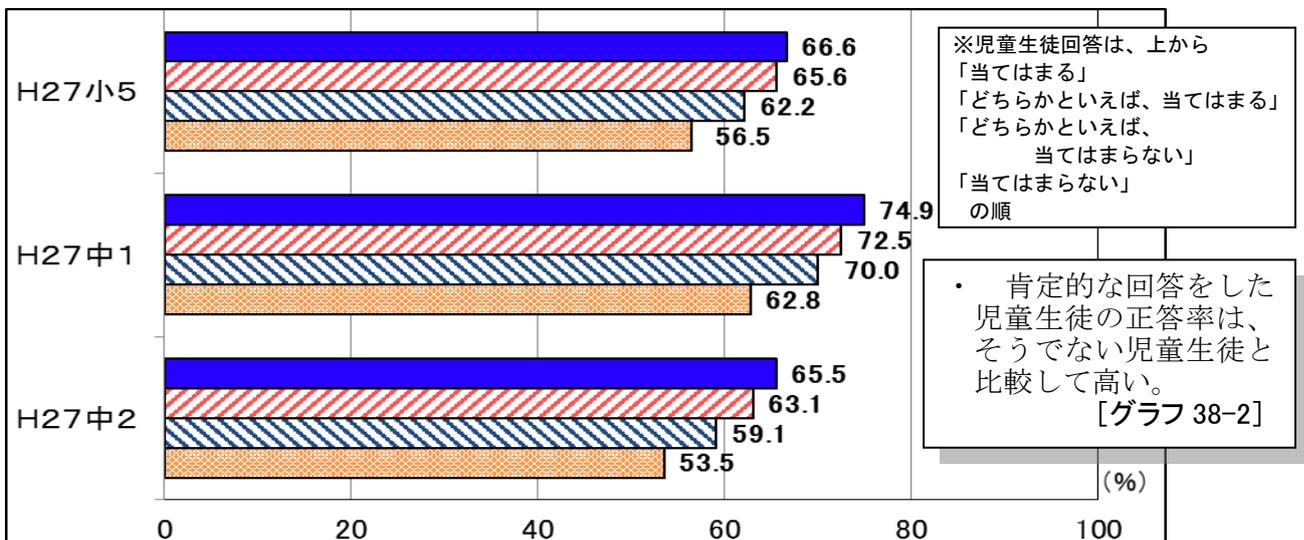
[グラフ 38-1] 新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしている
平成 26～27 年度「同一学年」の経年比較



- ・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、いずれの学年も前年度を上回っている。
- ・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、平成 26 年度中学 1 年から平成 27 年度中学 2 年にかけて、増加している。

[グラフ 38-1]

[グラフ 38-2] 「新聞やテレビ、インターネットのニュースを読んだり見たりしている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

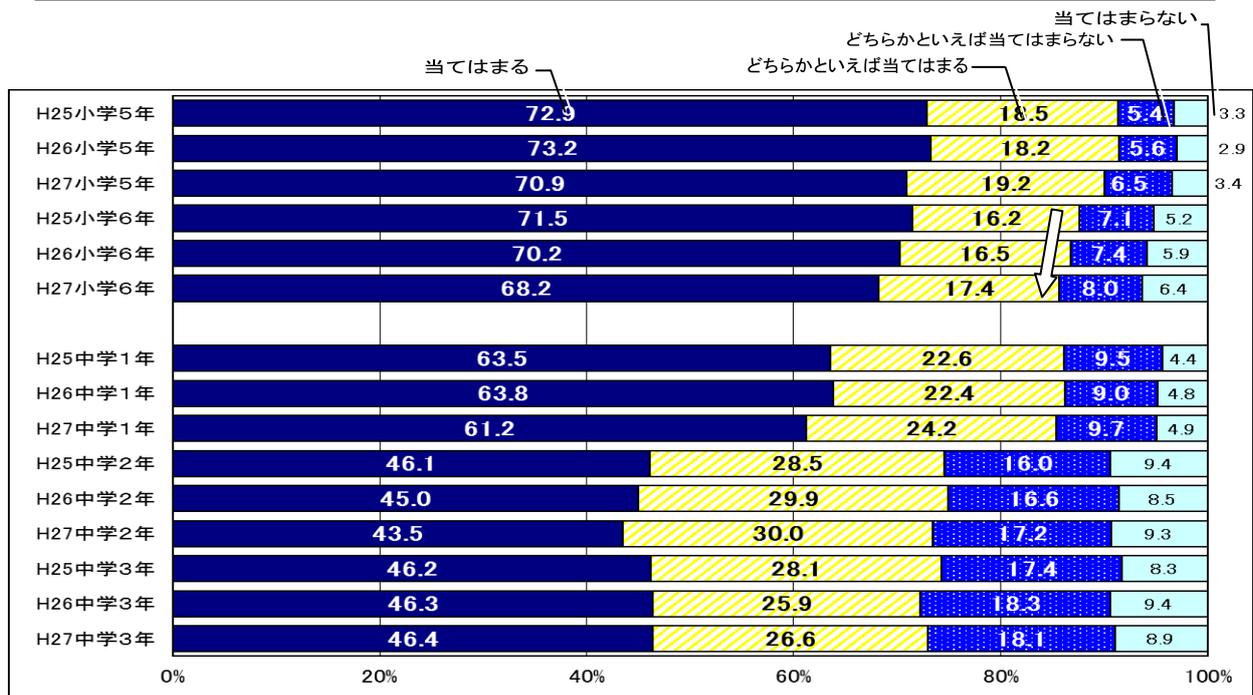


※児童生徒回答は、上から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の順

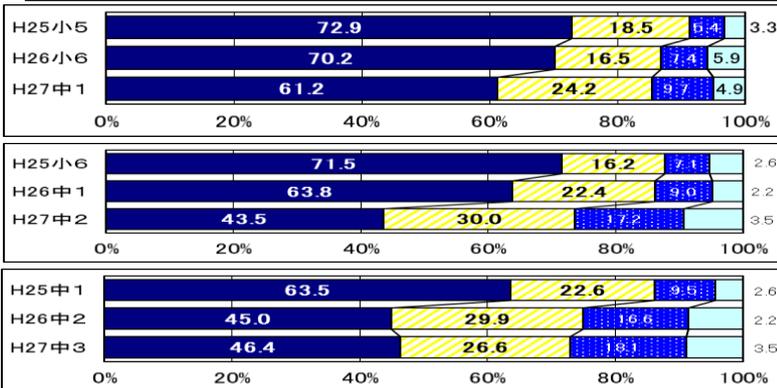
- ・ 肯定的な回答をした児童生徒の正答率は、そうでない児童生徒と比較して高い。

(%)

[グラフ 39-1] 将来の夢や目標をもっている 平成 25～27 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 39-2] 将来の夢や目標をもっている平成 25～27 年度「同一児童生徒」の経年比

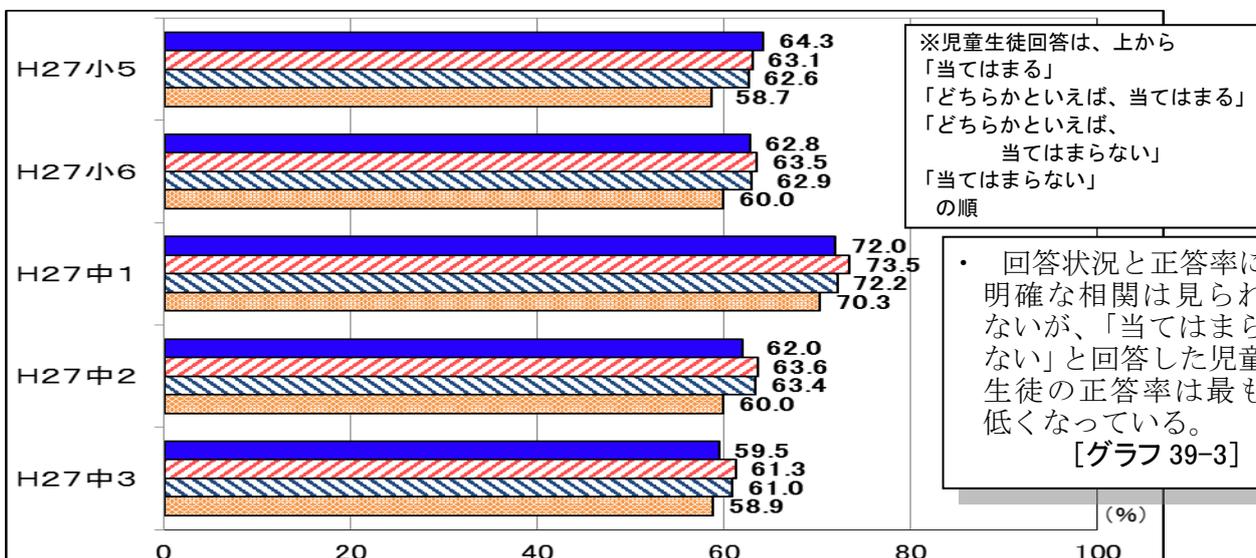


・ 「同一学年」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、小学6年で減少している。その他の学年では目立った傾向は見られない。

[グラフ 39-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較において、肯定的な回答をした児童生徒は、学年進行に伴い、減少している。[グラフ 39-2]

[グラフ 39-3] 「将来の夢や目標をもっている」の質問に対する回答と教科(国語・算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒回答は、上から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の順

・ 回答状況と正答率に明確な相関は見られないが、「当てはまらない」と回答した児童生徒の正答率は最も低くなっている。

[グラフ 39-3]

(5) 地域別の状況

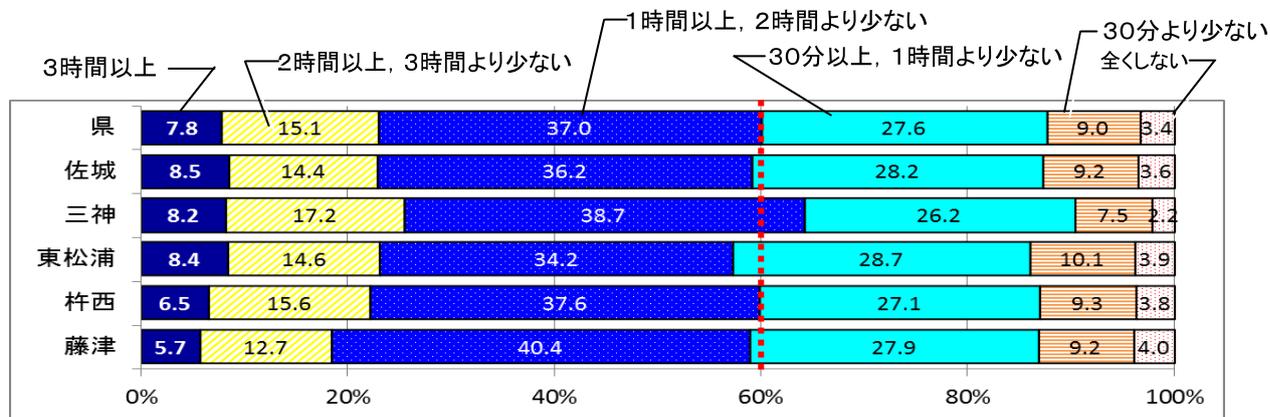
《児童生徒質問紙調査及び児童生徒意識調査》

① 家庭での学習について

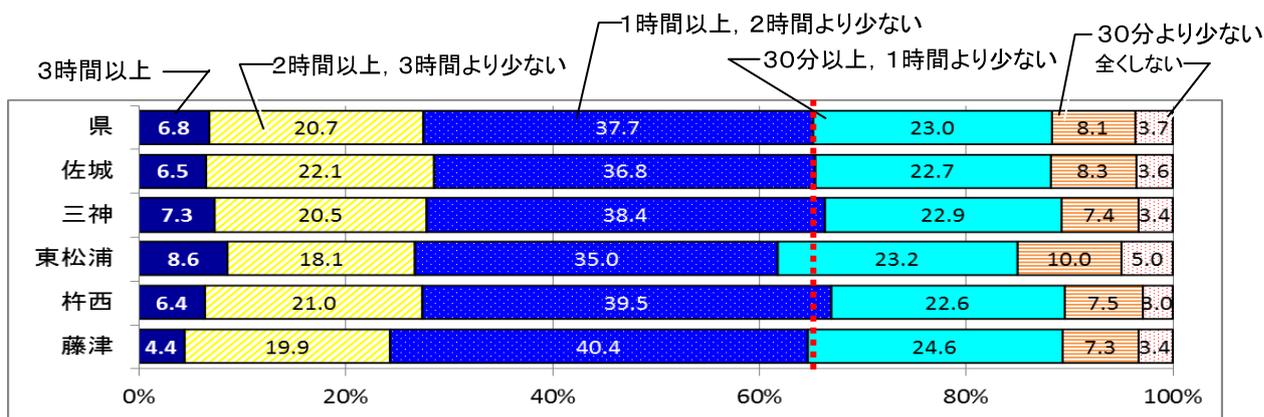
- 「平日に1時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、東松浦地域が低い。中学校では杵西地域が高く、東松浦地域が低い。
[グラフ 40]
- 「土日に2時間以上勉強している」児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、藤津地域が低い。中学校では三神地域・佐城地域が高く、東松浦地域・藤津地域が低い。[グラフ 41]
- 「計画を立てて勉強している」で「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、東松浦地域が低い。中学校では地域差が見られない。[グラフ 42]
- 「授業の復習」で「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、藤津地域・東松浦地域が低い。中学校では三神地域・佐城地域が高く、藤津地域・東松浦地域が低い。[グラフ 43]

[グラフ 40] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

【小学校5・6年生】1時間以上(県)59.9%

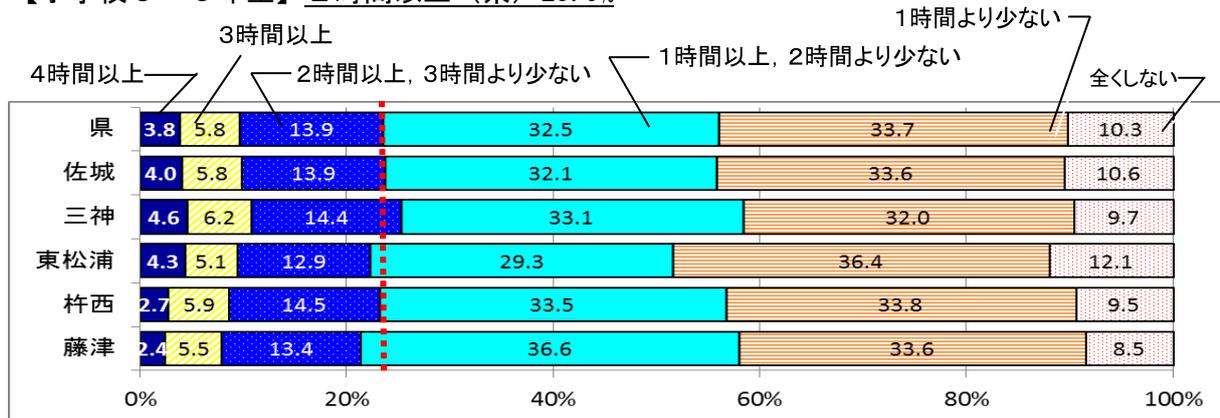


【中学校1・2・3年生】1時間以上(県)65.2%

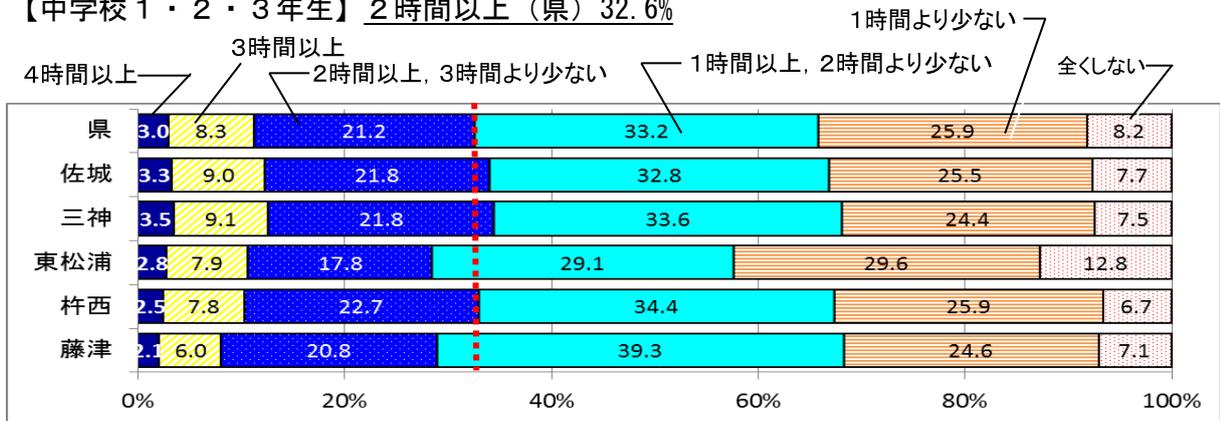


【グラフ41】 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

【小学校5・6年生】 2時間以上 (県) 23.5%

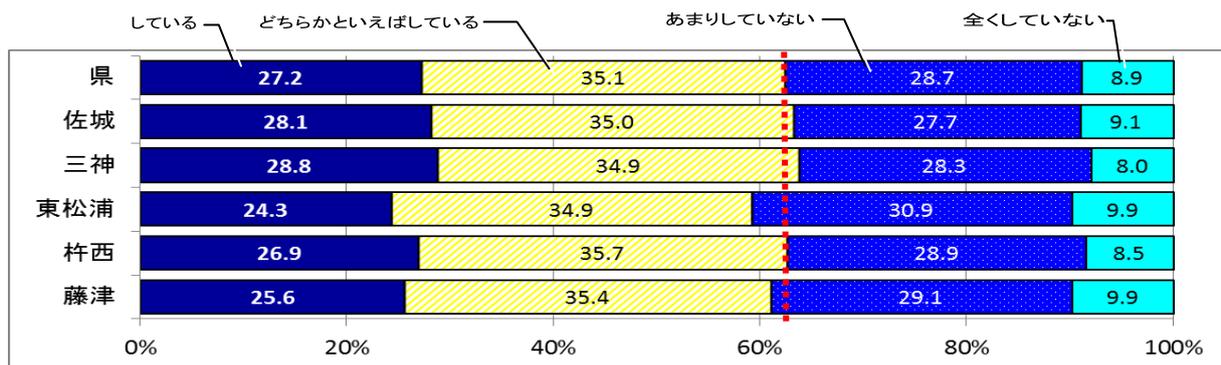


【中学校1・2・3年生】 2時間以上 (県) 32.6%

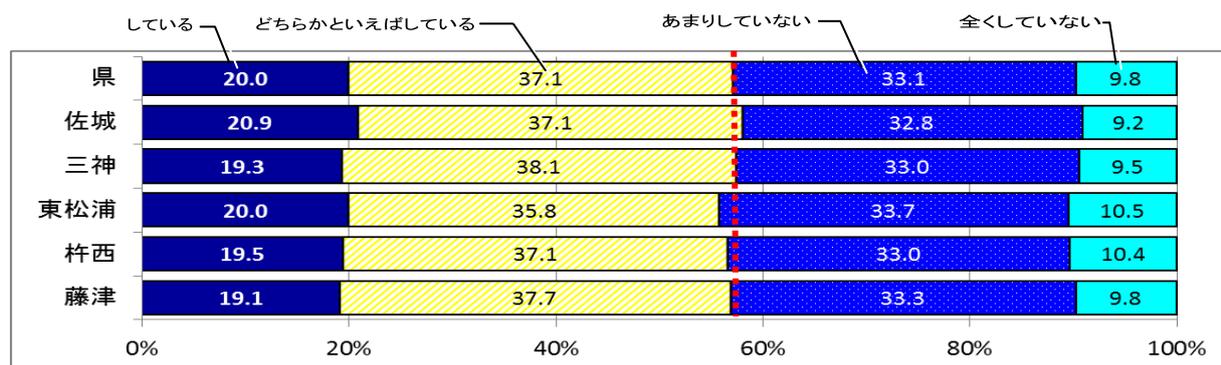


【グラフ42】 自分で計画を立てて勉強している。

【小学校5・6年生】 肯定的回答 (県) 62.3%

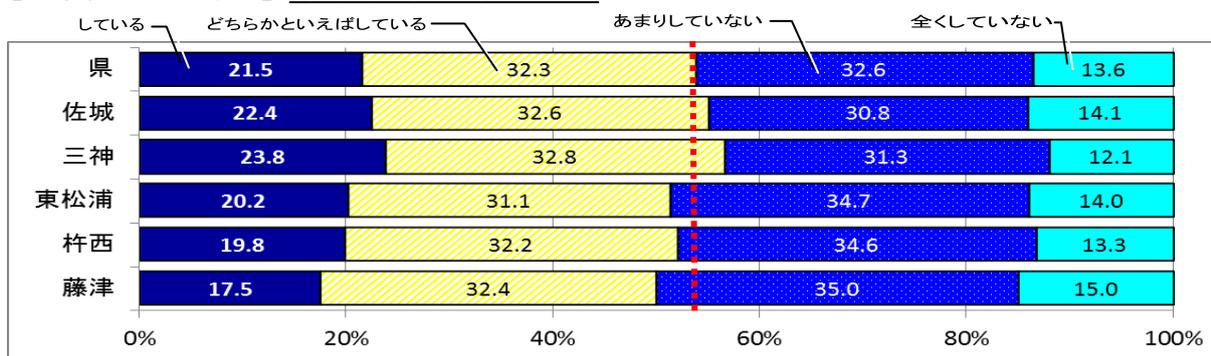


【中学校1・2・3年生】 肯定的回答 (県) 57.1%

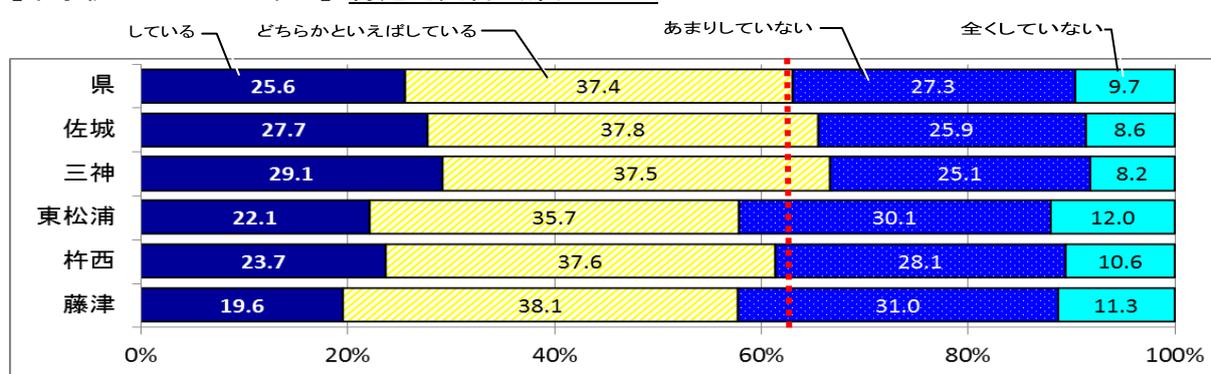


[グラフ 43] 学校の授業時間の復習をしている。

【小学校 5・6 年生】肯定的回答（県）53.8%



【中学校 1・2・3 年生】肯定的回答（県）63.0%

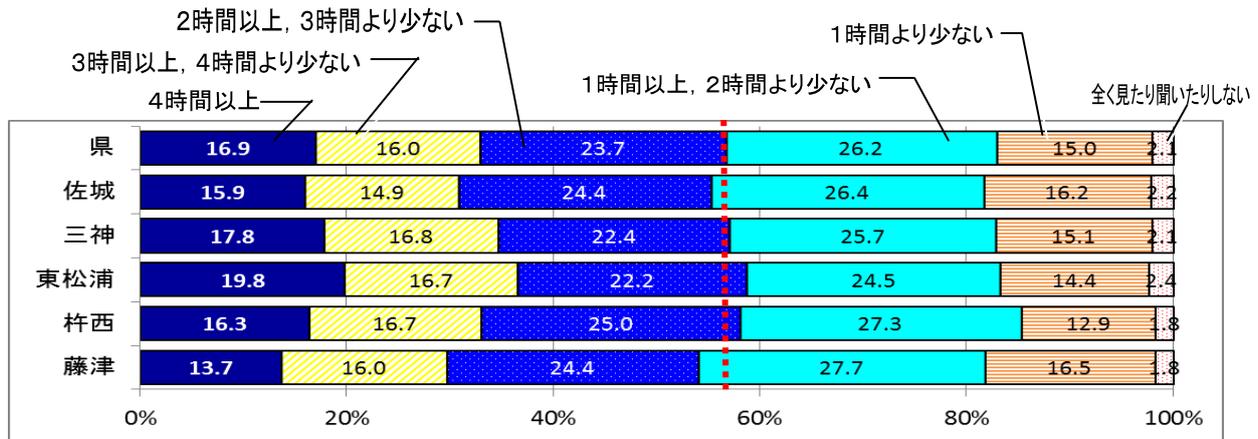


② 家庭での生活について

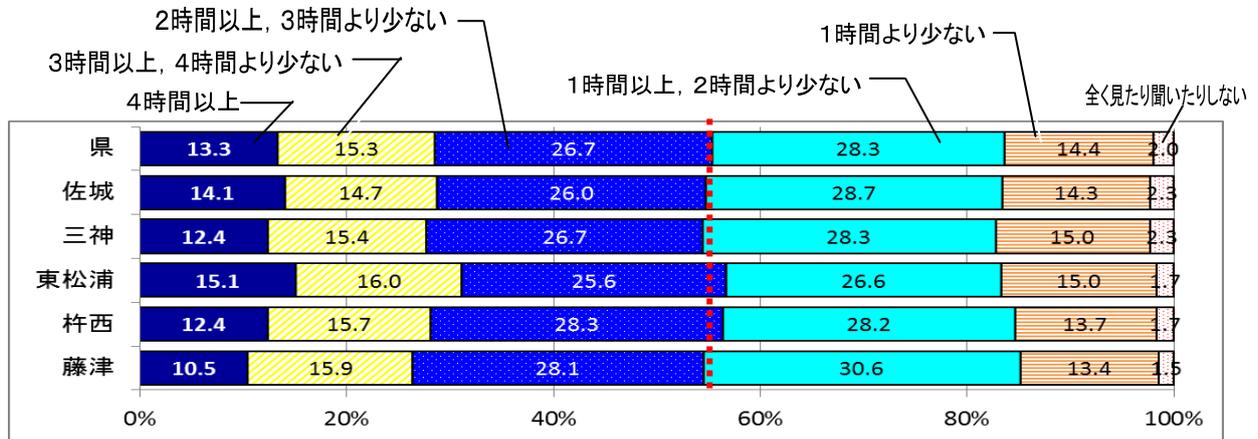
- 「1日あたりのテレビやビデオ・DVDの視聴時間」で「2時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では藤津地域が低く、東松浦地域が高い。中学校では地域差が見られない。[グラフ 44]
- 「1日あたりのゲームをする時間」で「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに藤津地域が低い。[グラフ 45]
- 「1日あたりの携帯電話やスマートフォンで通話やメールをする時間」で「1時間以上」と答えた児童生徒の割合は、小学校では藤津地域が低い。中学校では藤津地域が低く、東松浦地域が高い。[グラフ 46]

【グラフ 44】 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)

【小学校5・6年生】2時間以上(県)56.6%

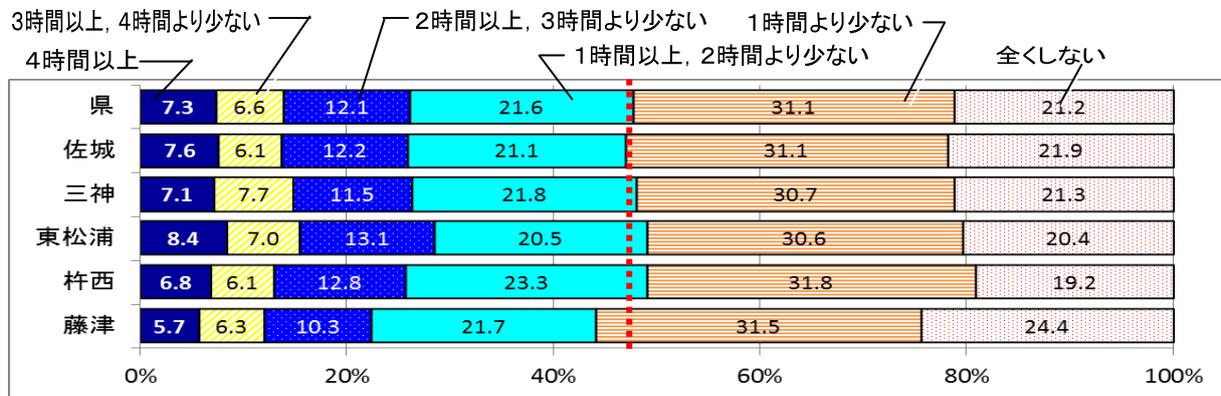


【中学校1・2・3年生】2時間以上(県)55.3%

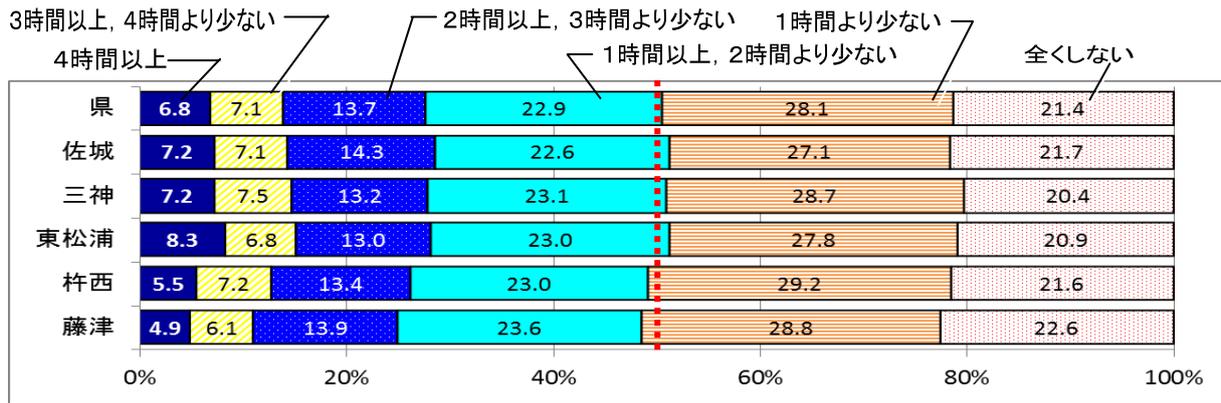


【グラフ 45】 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)

【小学校5・6年生】1時間以上(県)47.7%

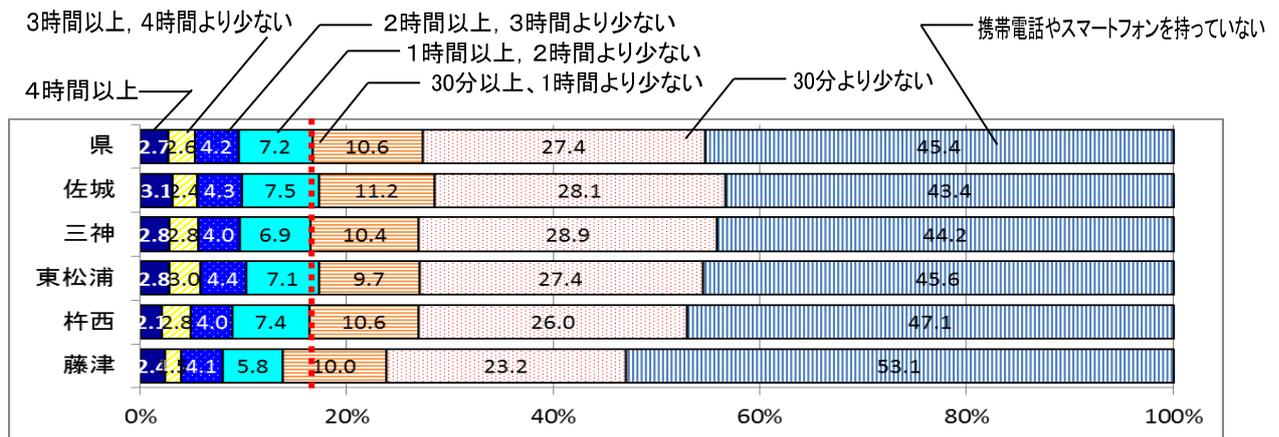


【中学校 1・2・3年生】1時間以上（県）50.5%

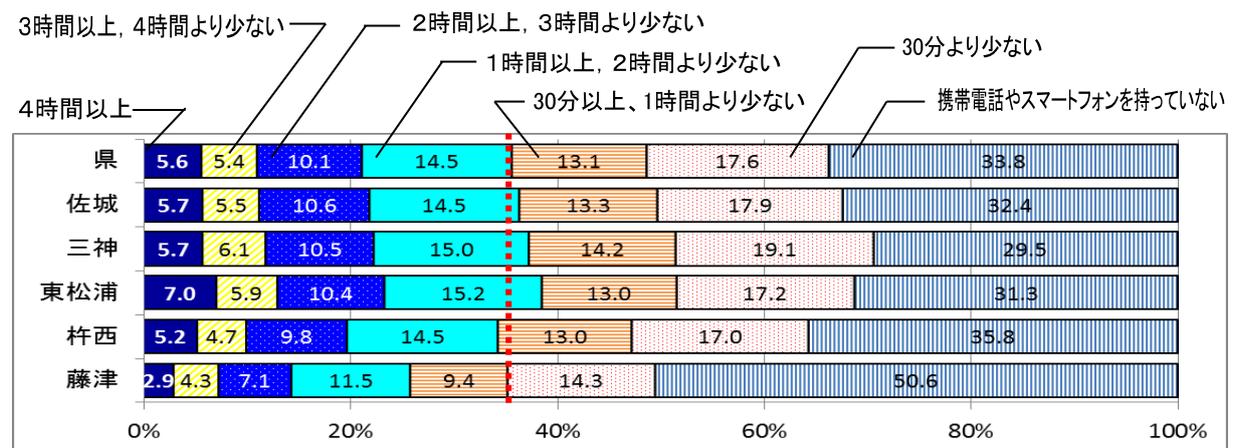


【グラフ 46】1日あたり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット(ゲームは除く)をする時間

【小学校 5・6年生】1時間以上（県）16.7%



【中学校 1・2・3年生】1時間以上（県）35.6%

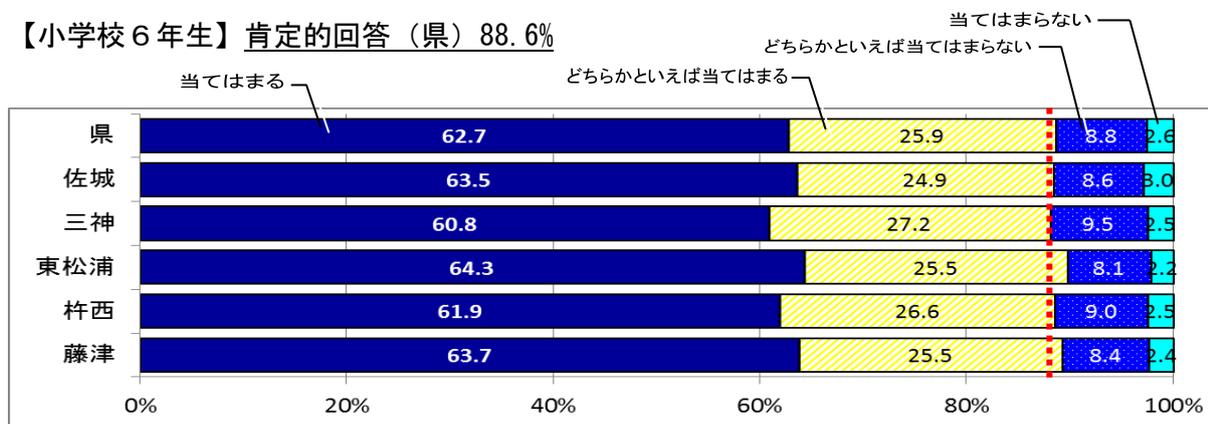


③ 学習活動について

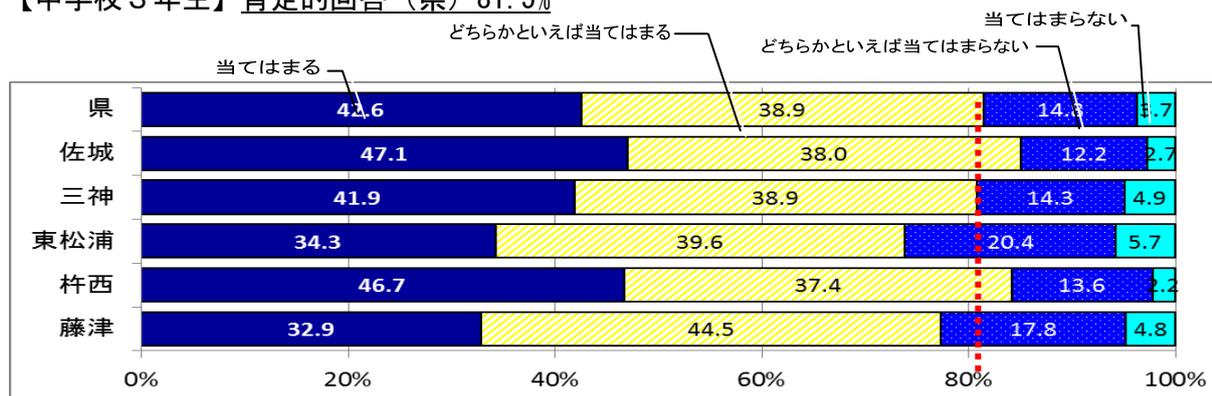
- 「授業のはじめに目標（めあて、ねらい）が示されていたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られない。中学校では佐城地域・杵西地域が高く、東松浦地域・藤津地域が低い。[グラフ 47]
- 「授業の最後に学習内容を振り返る活動」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域・藤津地域が高く、中学校では藤津地域が高い。[グラフ 48]
- 「ノートに学習の目標とまとめを書くこと」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差が見られない。中学校では杵西地域・藤津地域・佐城地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 49]
- 「授業で友達との間で話し合う活動を行っていたか」について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域が高く、中学校では藤津地域が高い。[グラフ 50]
- 「テストで間違えた問題について勉強しているか」について、「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校では佐城地域が高く、杵西地域が低い。中学校では藤津地域・三神地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 51]

[グラフ 47] 授業のはじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

【小学校 6 年生】 肯定的回答（県）88.6%

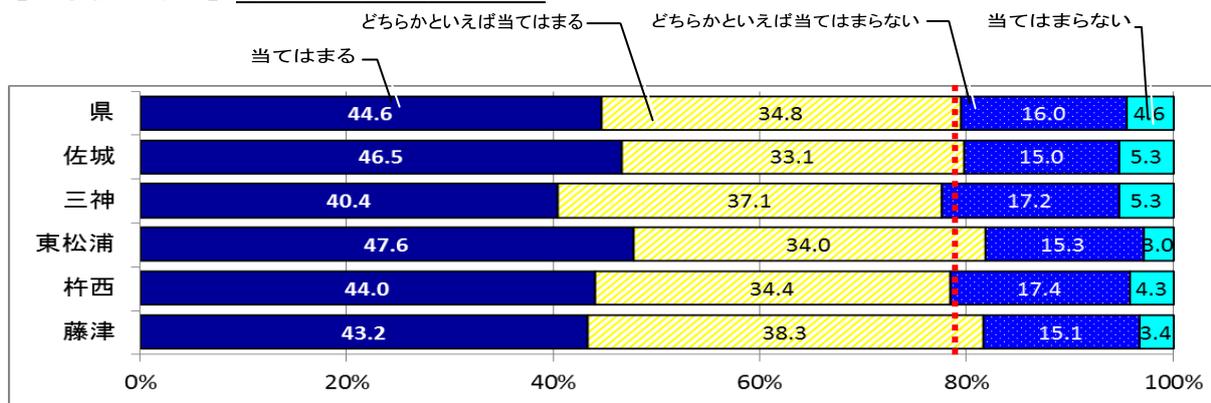


【中学校 3 年生】 肯定的回答（県）81.5%

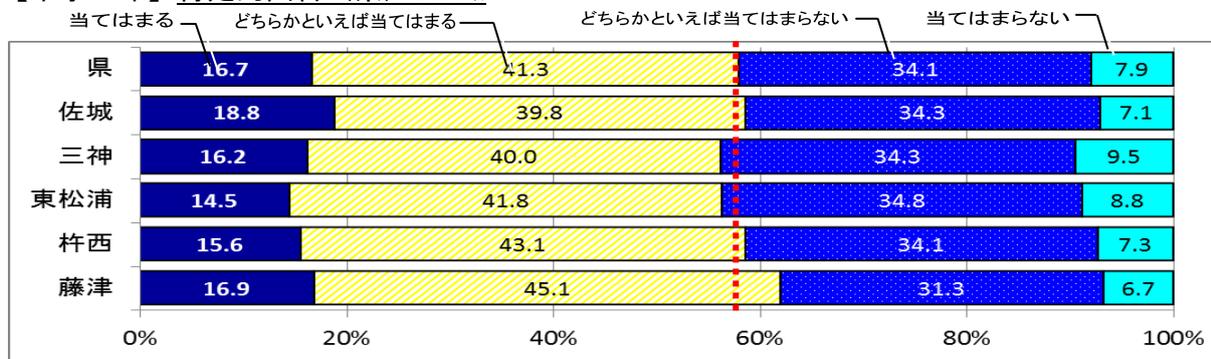


[グラフ 48] 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

【小学校 6 年生】 肯定的回答（県） 79.4%

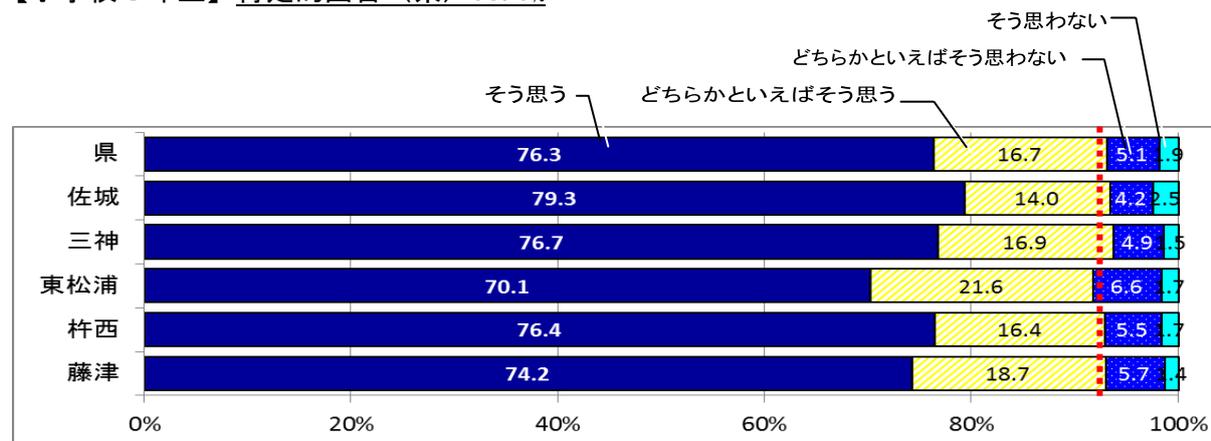


【中学 3 年】 肯定的回答（県） 58.0%

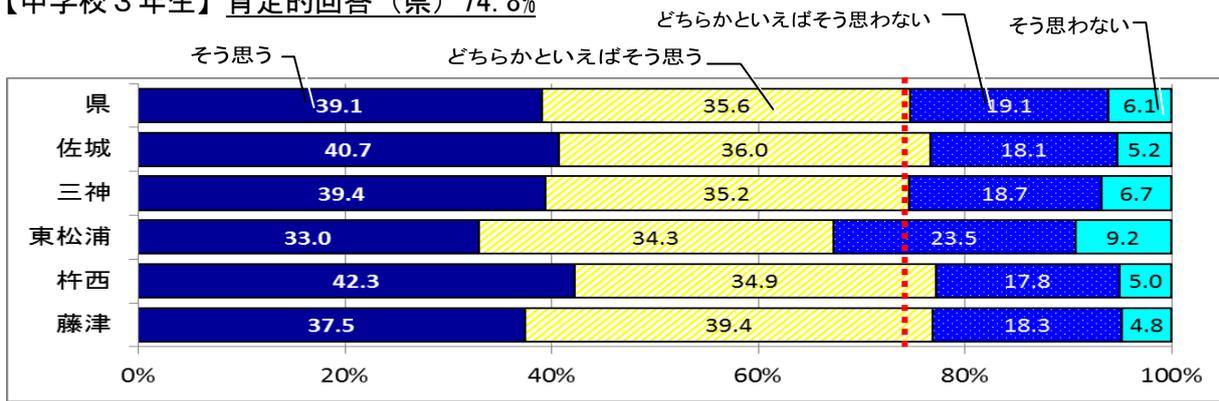


[グラフ 49] 授業で扱うノートには、学習の目標（めあて、ねらい）とまとめを書いていたと思う。

【小学校 6 年生】 肯定的回答（県） 93.0%

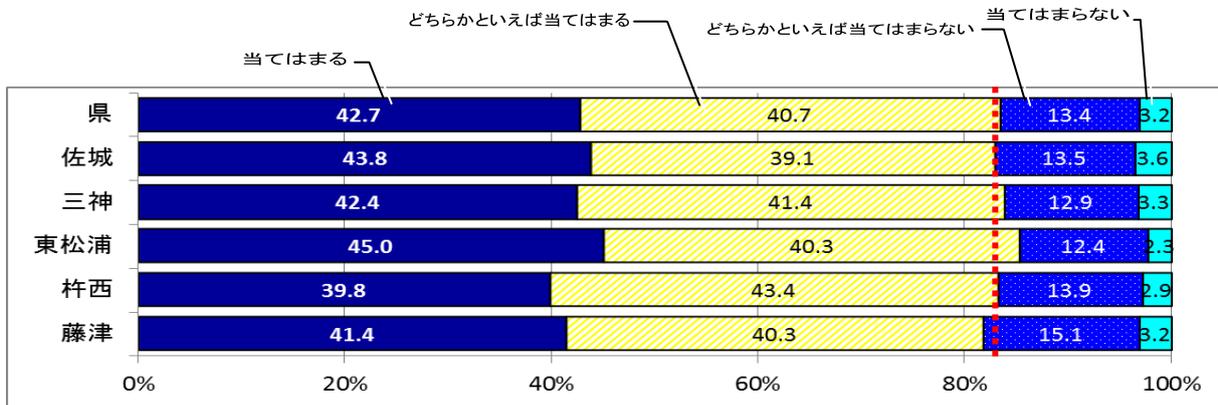


【中学校3年生】肯定的回答（県）74.8%

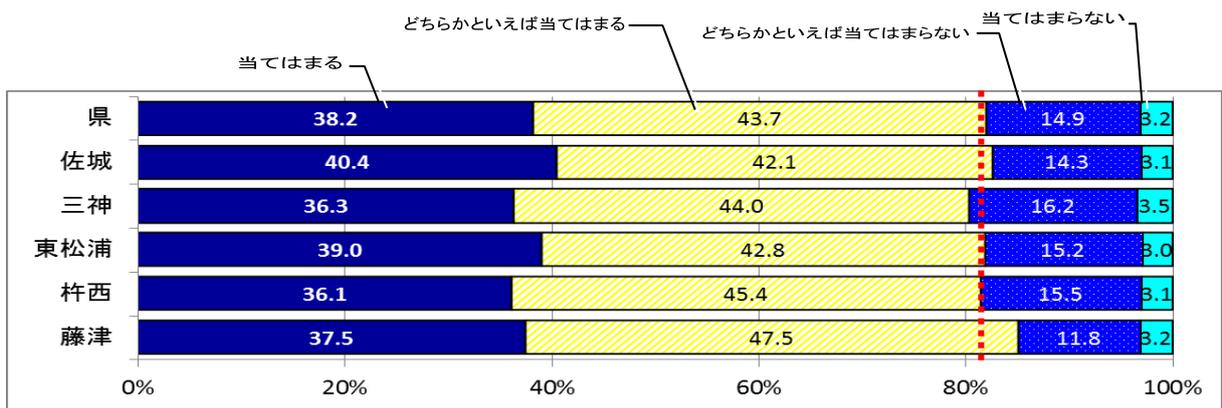


[グラフ 50] 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

【小学校5・6年生】肯定的回答（県）83.4%

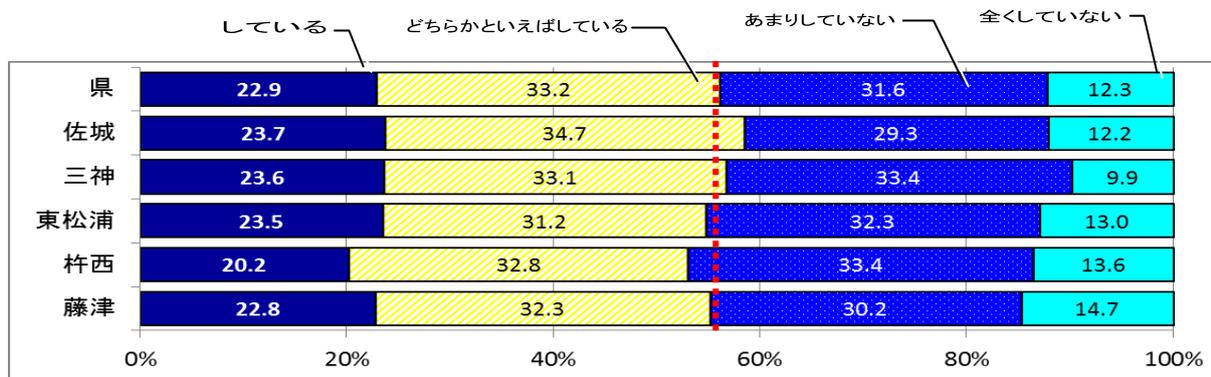


【中学校1・2・3年生】肯定的回答（県）81.9%

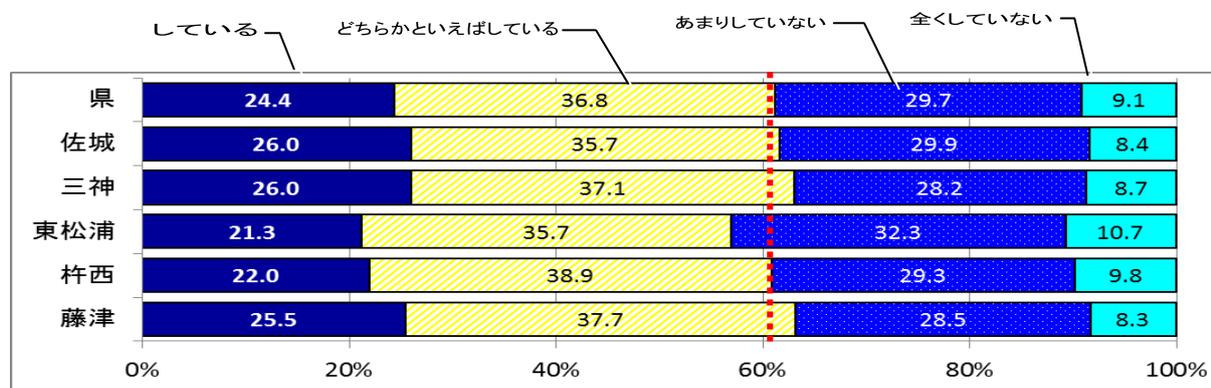


[グラフ 51] テストで間違えた問題について勉強している。

【小学校 5 年生】 肯定的回答（県） 56.1%



【中学校 1・2 年生】 肯定的回答（県） 61.2%



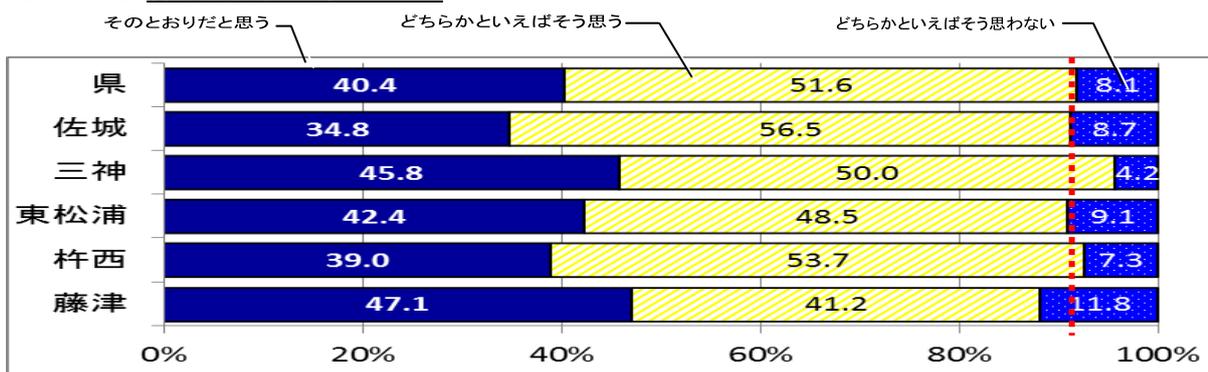
《学校質問紙調査》

① 児童生徒について

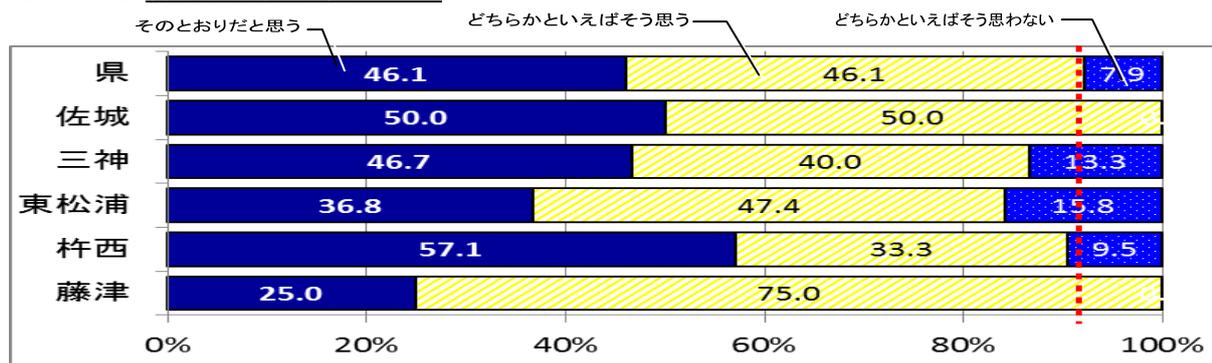
- 「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高く、藤津地域が低い。中学校では佐城地域・藤津地域が高く、東松浦地域・三神地域が低い。[グラフ 52]

[グラフ 52] 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

【小学校】 肯定的回答（県） 91.9%



【中学校】肯定的回答（県）92.1%



② 指導方法・学習規律について

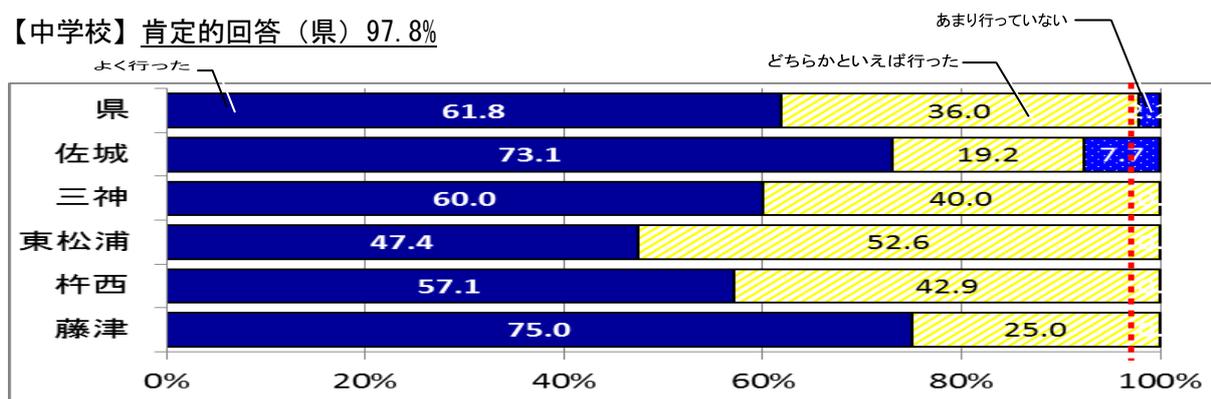
- 「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れている」と回答したのは、小学校ではほとんどの学校であり、地域差が見られない。中学校では佐城地域の割合が低い。[グラフ 53]
- 「授業の最後の振り返る活動を計画的に取り入れている」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域・藤津地域が高く、東松浦地域が低い。中学校では杵西地域・藤津地域が高く、東松浦地域・三神地域が低い。[グラフ 54]
- 「ノートに目標やまとめを書くように指導した」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域が低い。中学校では東松浦地域が高く、三神地域・藤津地域が低い。[グラフ 55]
- 「学級やグループで話し合う活動を授業で行っている」と回答した学校の割合は、小学校では地域差が見られない。中学校では、藤津地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 56]
- 「自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高い。中学校では佐城地域が高く、三神地域・東松浦地域が低い。[グラフ 57]
- 「学習規律の維持を徹底している」と回答した学校の割合は、小学校では地域差が見られない。中学校では佐城地域・藤津地域が高く、三神地域が低い。[グラフ 58]

[グラフ 53] 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている。

【小学校】肯定的回答（県）99.4%

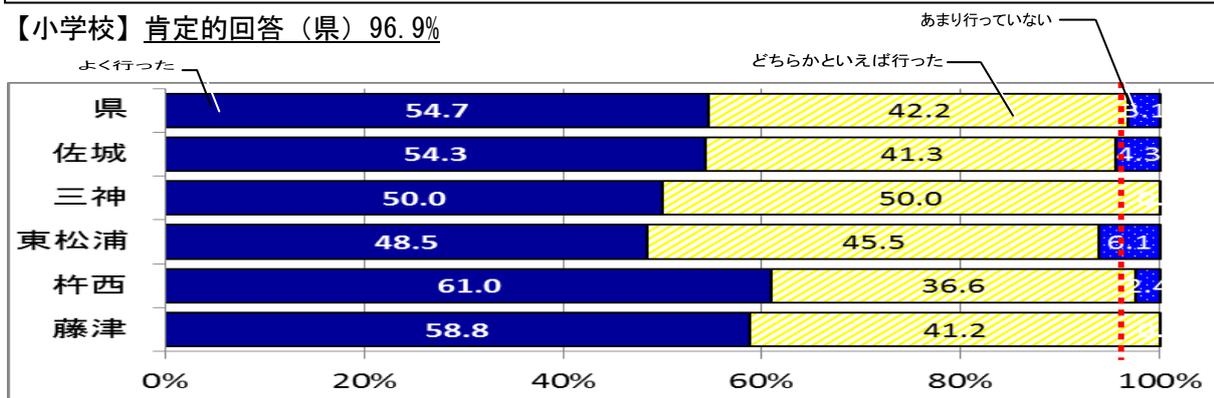


【中学校】肯定的回答（県）97.8%

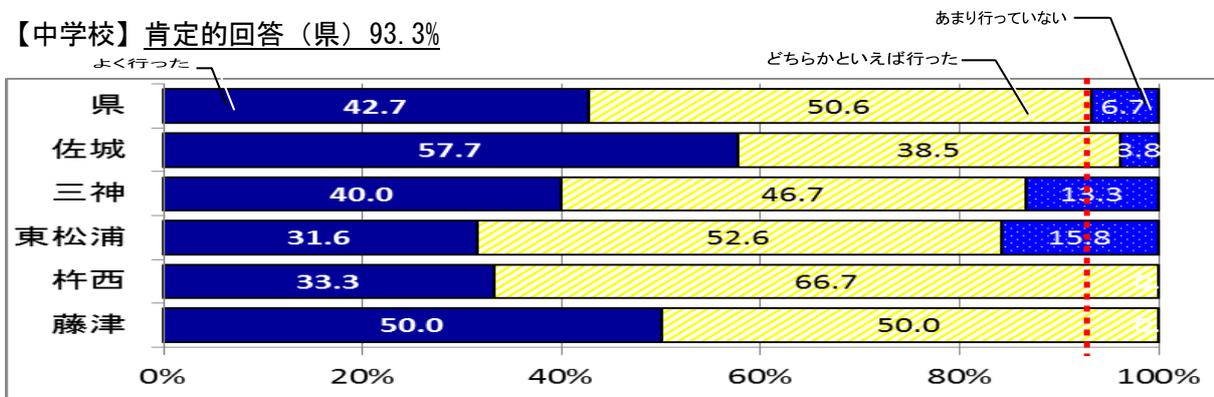


【グラフ 54】 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れている。

【小学校】肯定的回答（県）96.9%

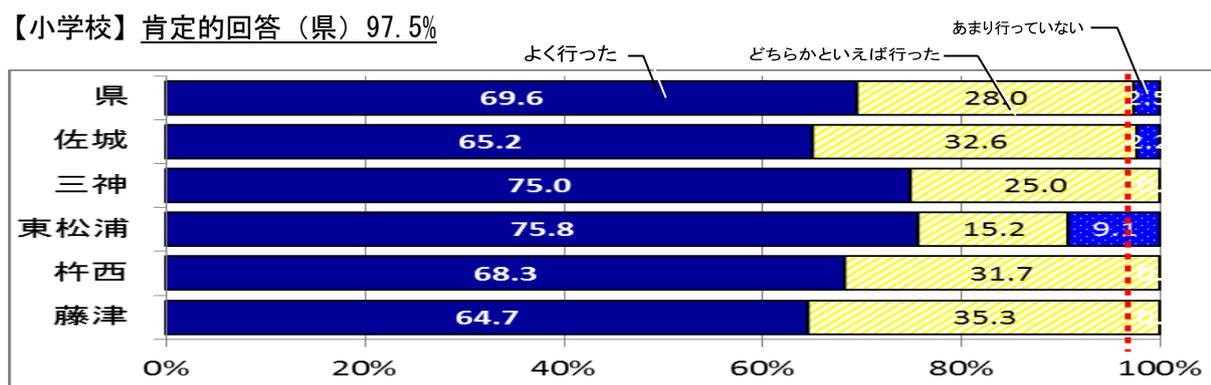


【中学校】肯定的回答（県）93.3%

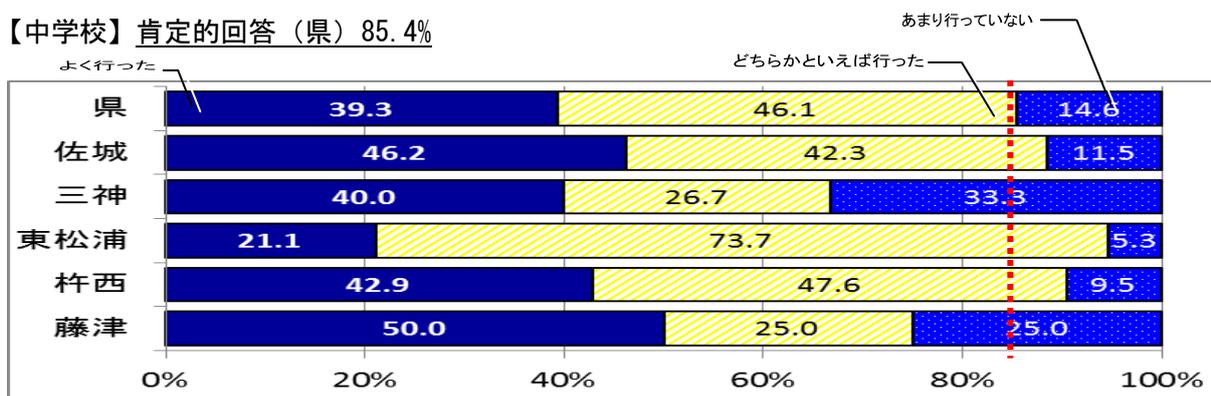


【グラフ 55】 授業で扱うノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書くように指導している。

【小学校】肯定的回答（県）97.5%

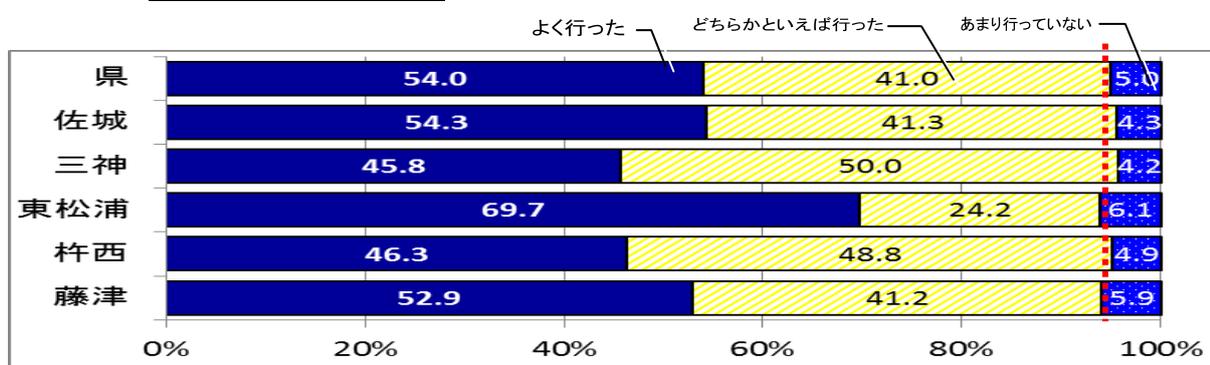


【中学校】肯定的回答（県）85.4%

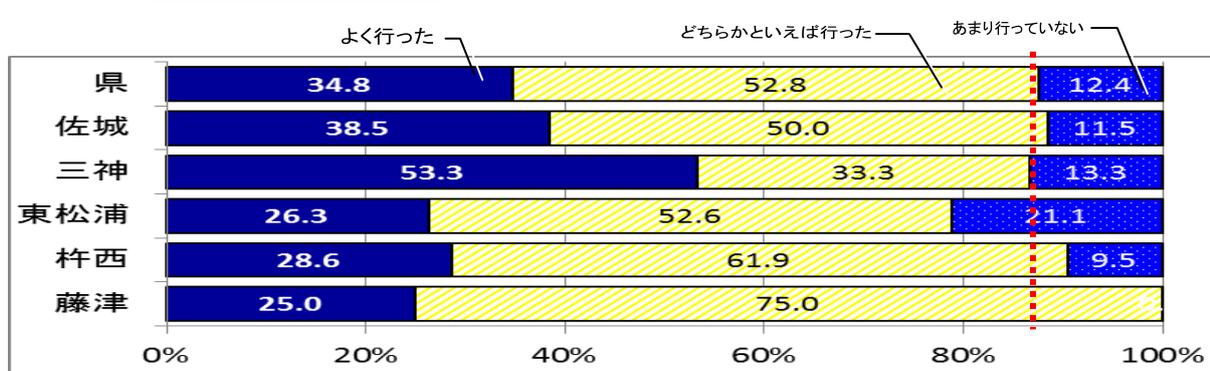


【グラフ 56】 学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。

【小学校】肯定的回答（県）95.0%

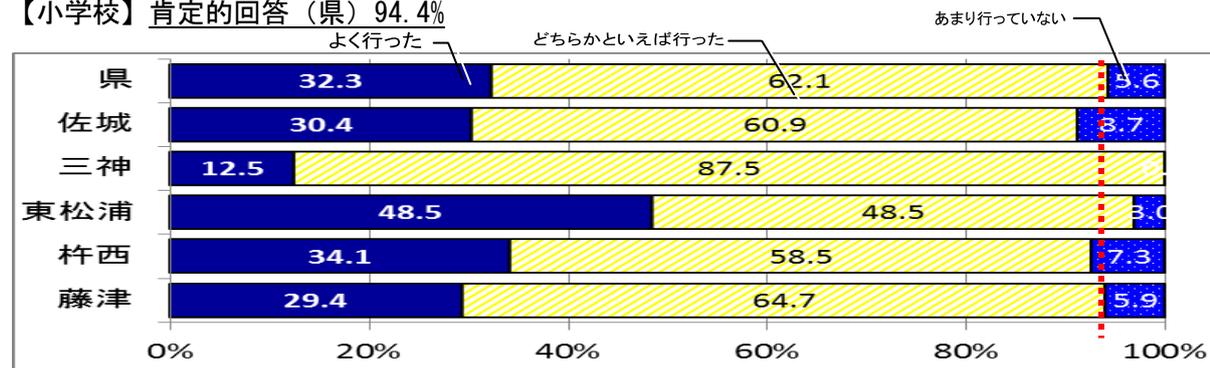


【中学校】肯定的回答（県）87.6%

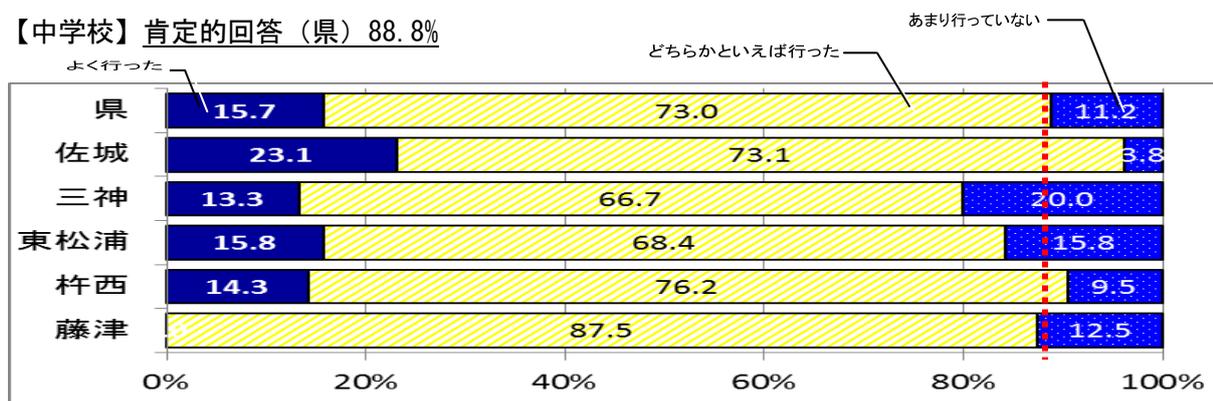


【グラフ 57】 自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。

【小学校】肯定的回答（県）94.4%

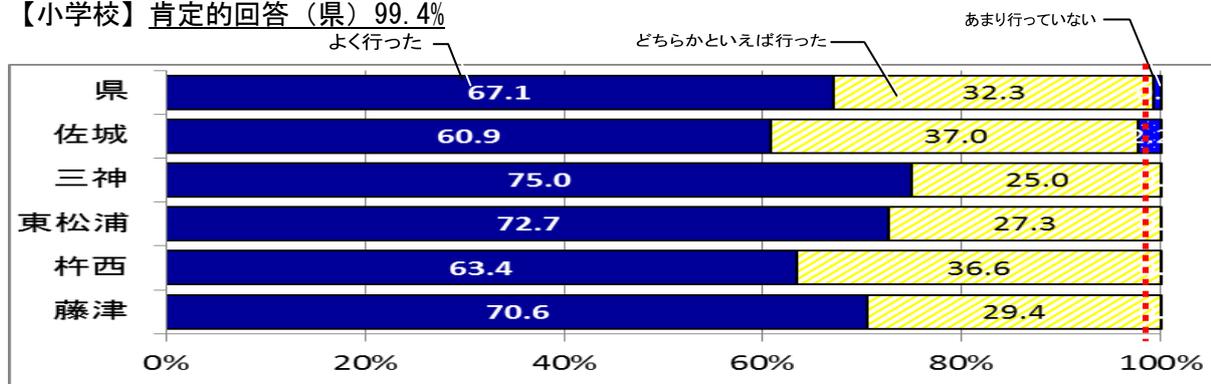


【中学校】肯定的回答（県）88.8%

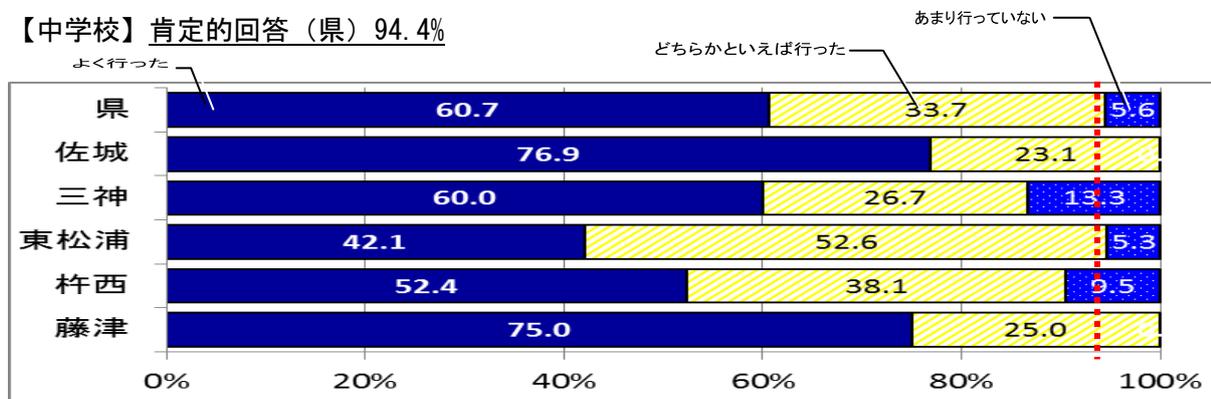


[グラフ 58] 学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底している。

【小学校】肯定的回答（県）99.4%



【中学校】肯定的回答（県）94.4%

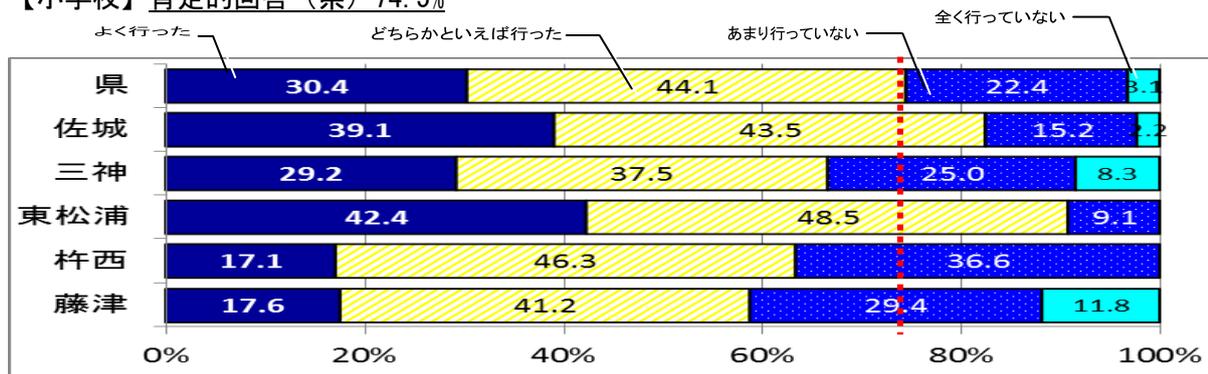


③ 小学校教育と中学校教育の連携

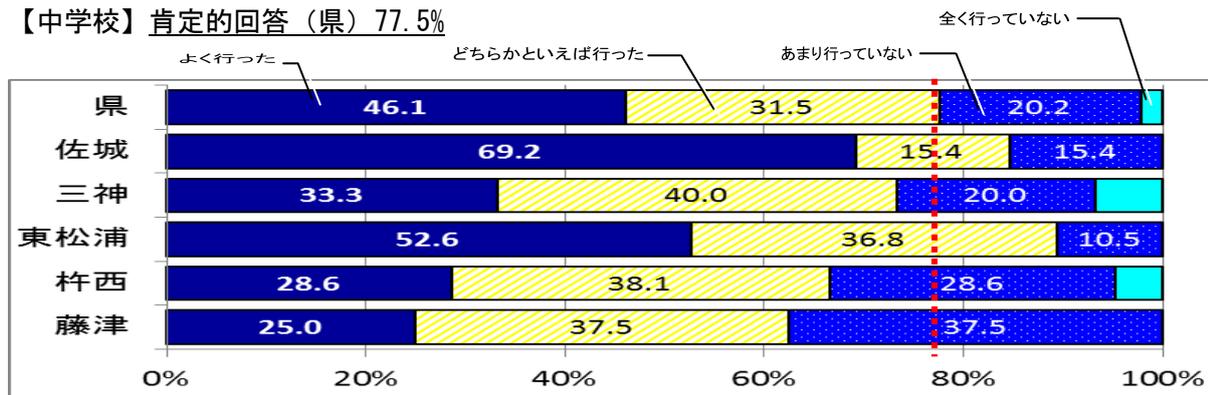
- 「教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携を行っている」と回答した学校の割合は、小・中学校ともに、東松浦地域が高く、藤津地域・杵西地域が低い。[グラフ 59]

[グラフ 59] 教科の指導内容や指導方法について近隣の小・中学校と連携（教師の合同研修、交流、教育課程の接続など）を行っていますか。

【小学校】肯定的回答（県）74.5%



【中学校】肯定的回答（県）77.5%

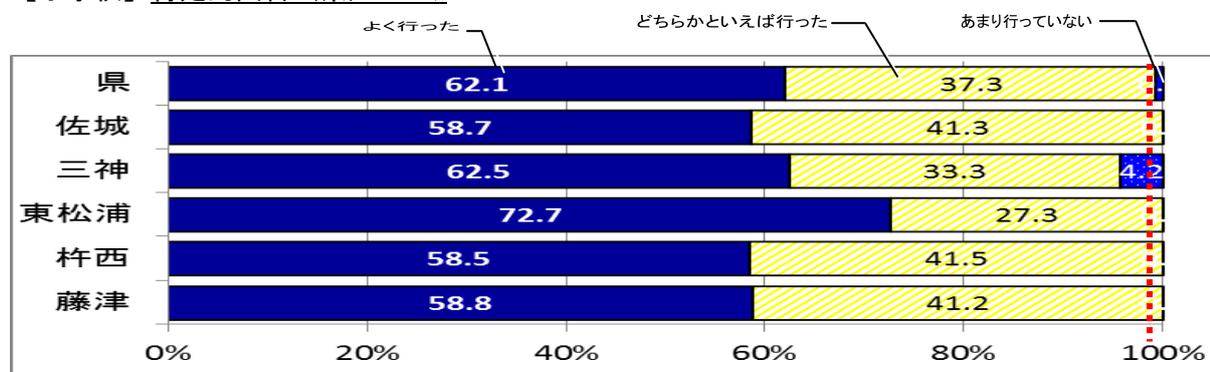


④ 家庭学習について

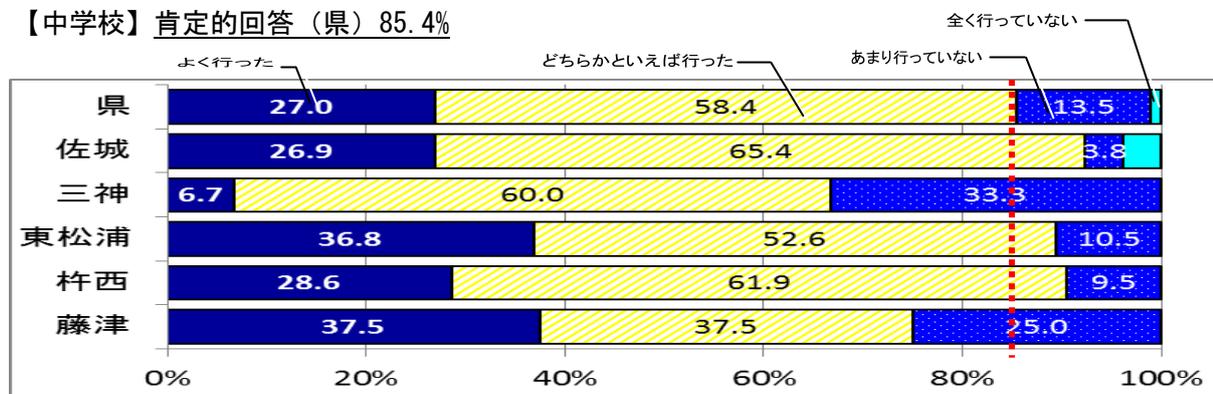
- 「保護者に対して家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答した学校の割合は、小学校では地域差が見られない。中学校では、佐城地域が高く、三神地域・藤津地域が低い。[グラフ 60]
- 「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」と回答した学校の割合は、小学校では藤津地域・東松浦地域が高い。中学校では、藤津地域・佐城地域が高く、三神地域・東松浦地域が低い。[グラフ 61]

[グラフ 60] 保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけ。

【小学校】肯定的回答（県）99.4%

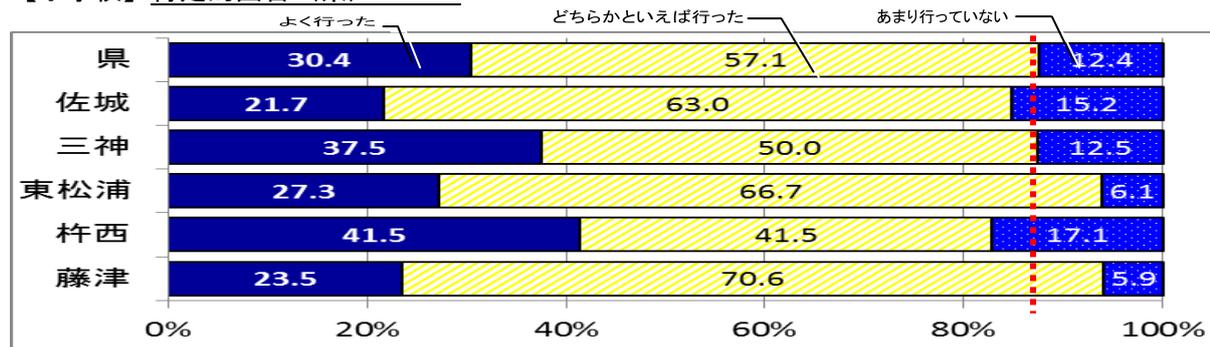


【中学校】肯定的回答（県）85.4%

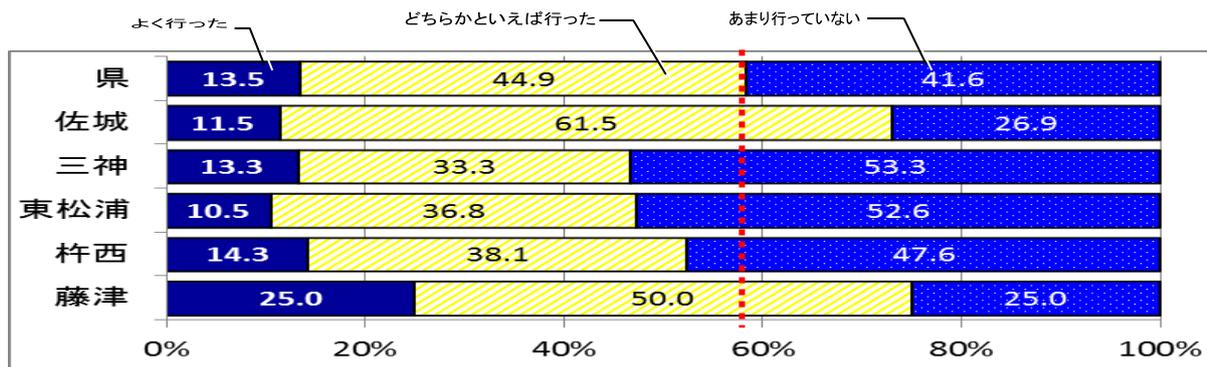


[グラフ 61] 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与える。

【小学校】肯定的回答（県）87.6%



【中学校】肯定的回答（県）58.4%

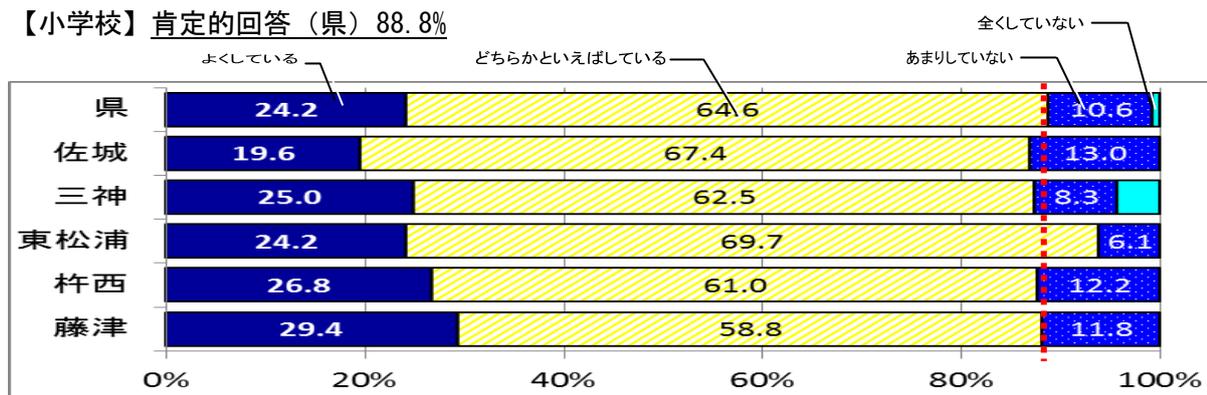


⑤ 教職員の取組について

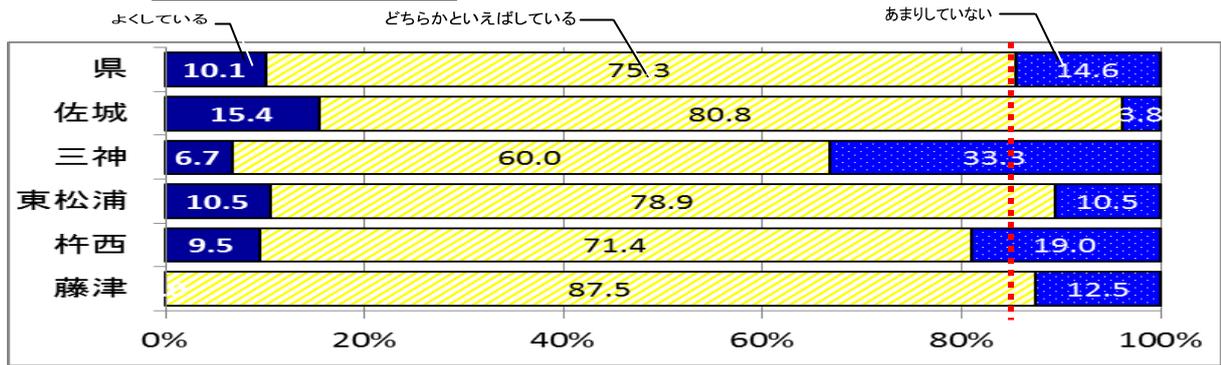
- 「知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している」と回答した学校の割合は、小学校では東松浦地域が高い。中学校では佐城地域が高く、三神地域が低い。[グラフ 62]
- 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答した学校の割合は、小学校では三神地域・杵西地域が高い。中学校では杵西地域・藤津地域が高く、佐城地域が低い。[グラフ 63]
- 「学級運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいる」と回答した学校の割合は、小学校では杵西地域が低い。中学校では東松浦地域・藤津地域が高く、三神地域が低い。[グラフ 64]

[グラフ 62] 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している。

【小学校】肯定的回答（県）88.8%

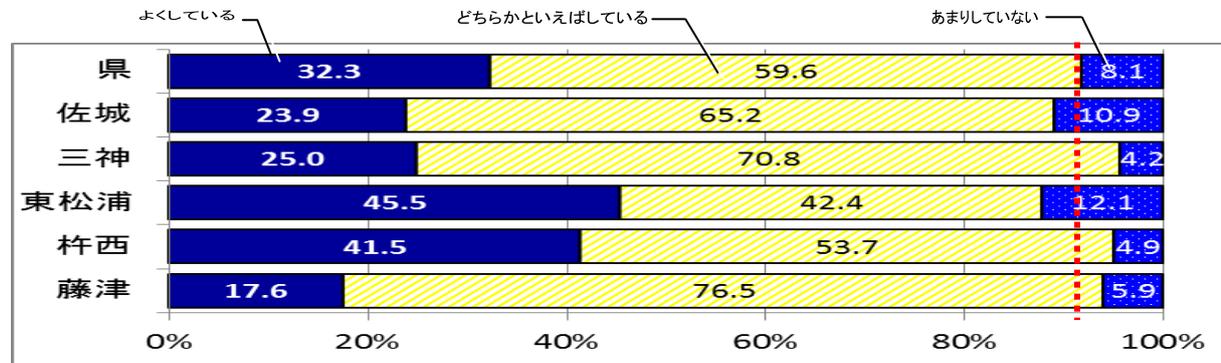


【中学校】肯定的回答（県）85.4%

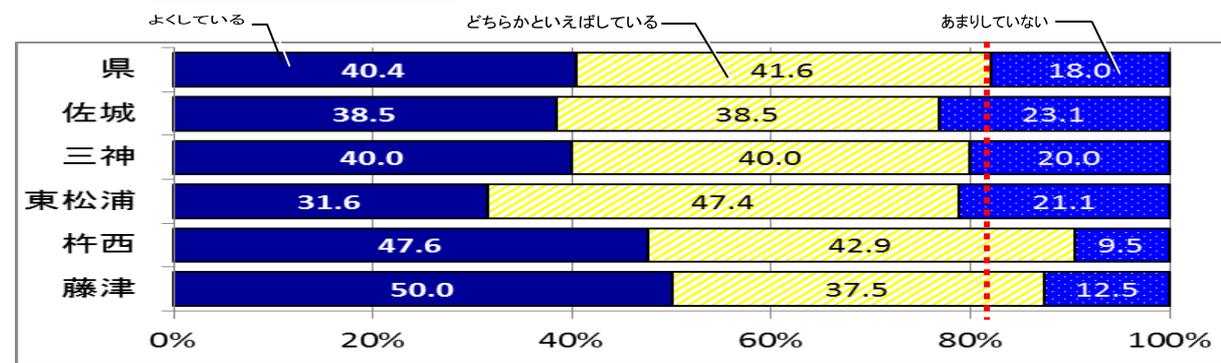


[グラフ 63] 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる。

【小学校】肯定的回答（県）91.9%

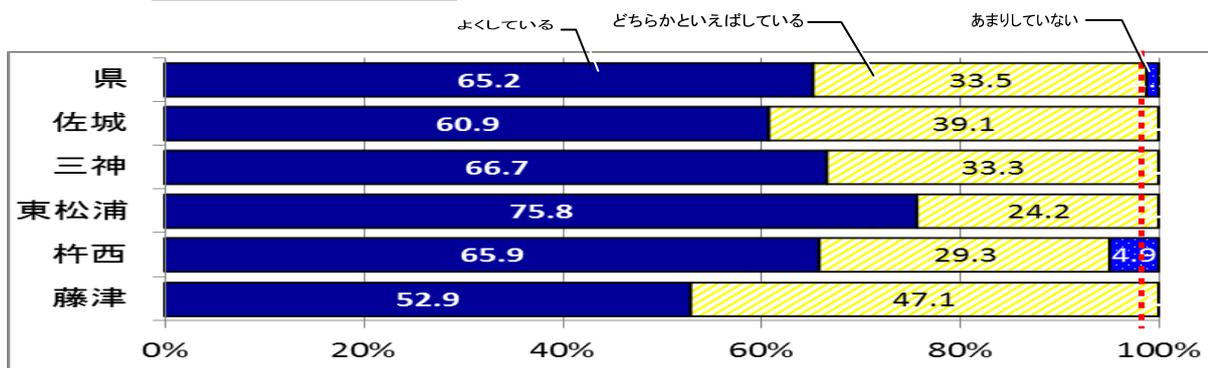


【中学校】肯定的回答（県）82.0%

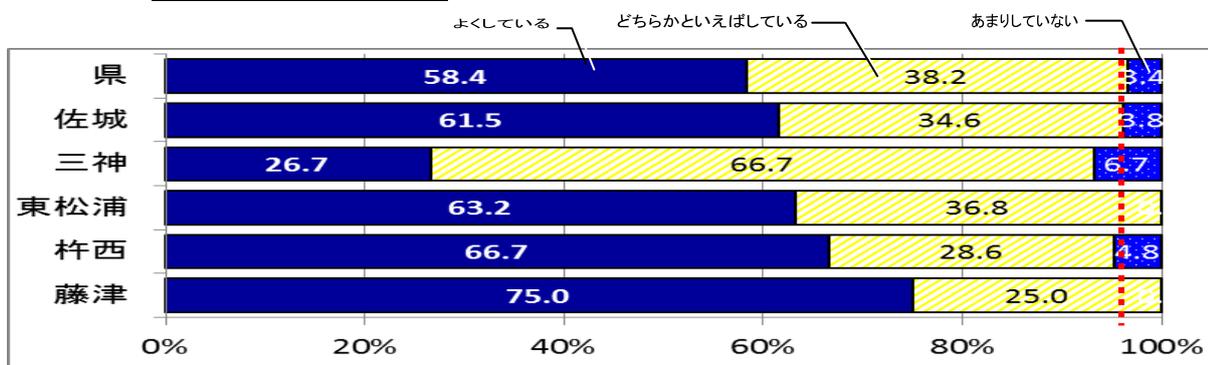


[グラフ 64] 学級運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。

【小学校】肯定的回答（県）98.8%



【中学校】肯定的回答（県）96.6%



(6) 児童生徒意識調査結果のまとめと指導改善のポイント

ア 授業への関心・理解度・有用性について

① 知的好奇心を喚起するような授業の工夫

「各教科の勉強が好き」という問いについて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、多くの教科で前年度を上回っている。「各教科の勉強が好き」という意識は、主体的な学習の推進力となる。それぞれの教科の特性に応じて、児童生徒の「知的好奇心」を喚起するような授業の手立てが求められる。そのためには、例えば、授業の導入において、児童生徒と教材との出会わせ方を工夫することや、児童生徒に単元レベルでの学習の見通しをもたせることなどの手立てが考えられる。また、各学校では、児童生徒意識調査における、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」（小学校）、「社会の授業で調べたことをもとに考え、話し合いをすること（討論すること）は楽しい」（中学校）など、教科の学習活動についての設問の回答状況から、児童生徒の授業に対する興味・関心や意欲の状況を十分に把握して指導に当たることが大切である。

② 分かる授業の推進と学習内容の定着を図る工夫

「各教科の授業の内容がよく分かる」という問いについて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、多くの教科で前年度を上回っている。授業に対する理解度は、授業の根幹ともいえる部分であり、「分からない」と回答している児童生徒がいる場合には、迅速かつ適切な対応が望まれる。また、「分かる」と回答しているにもかかわらず、該当教科の正答率の結果に反映されていない場合は、学習内容の定着に課題があると見て、授業内での定着を図る指導の工夫や家庭での学習のさせ方を工夫する必要がある。

③ 活用力を高める指導の工夫

「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いについて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、前年度と大きく変わらない。学習内容に対する有用性は、学校だけの学びではなく、生涯にわたって児童生徒が学び続けていくための推進力となる。児童生徒の「役に立つ」という意識は、普段の授業の中で教師が他の学習場面や他の教科・領域との関連を意識させることや、日常生活とのつながりに気付かせることによって育まれる。平成 27 年度から、県内 22 校で児童生徒の活用力向上研究推進事業が実施されている。このような学校における先進的な取り組み等も参考にしながら、児童生徒の活用力を高め、学ぶことの大切さを実感させることができるような指導の工夫が求められる。

イ 学習活動に関する意識について

① 児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくり

「自分の考えを発表する機会が与えられている」「話し合う活動をよく行っている」という問いについて、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、年々増加している学年があるなど、一部改善が見られる。これらの意識は、教師主導の一斉指導だけによらず、多様な学習形態の中で、児童生徒が主体的に学ぶことができているかを把握する指標と捉えている。ここでは、発表する機会や話し合う場面を設定することも大切であるが、そこで、児童生徒が、自分の考えと他者の考えとを比較しながら、話したり聞いたりすることができるような配慮が必要である。ややもすると、分かりやすく説明する、きちんと発表するといった「発信の仕方」を指導することに重点を置きがちであるが、併せて、十分な説明や発表でなくとも、他者の思いをしっかりと受け止めることができるような「受信の仕方」を指導することにも、同様に意を注ぐことが大切である。その上で、平成 26 年 11 月の「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」（文部科学大臣諮問）において示された「アクティブラーニング」とそのための指導方法についての研究を充実させていくことが児童生徒の主体的な学びへとつながると考える。

② ICTを効果的に活用した授業づくり

「電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」と回答した児童生徒は増加しており、教師によるICT機器の活用頻度も増加している。教科等の目標実現のための手立てとして、ICTを効果的に活用した授業づくりを推し進めることで、「分かる授業の推進」「児童生徒が主体的に学ぶことができる授業づくり」に寄与することが求められる。

ウ 家庭での学習について

① 家庭学習の量と質の充実

家庭での勉強時間については、小学5年で年々増加しており、中学3年でも前年度を上回るなど、一部で改善が見られる。また、家庭学習において「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」といった問いについて肯定的な回答をした児童生徒の割合も、小学6年、中学3年で年々増加するなど、一部で改善が見られる。さらに、「学校の宿題をしている」という問いについても、多くの学年で前年度を上回っている。しかしながら、中学校では学年が上がるにつれて、その割合が減少するなどの課題もある。

家庭学習の習慣化については、小学校低学年からの家庭との連携した指導が重要である。また、多くの児童生徒が宿題にきちんと取り組んでいることから、児童生徒にどのような宿題を課すのかということについては、学校としての研究や教職員間の共通理解が望まれる。宿題の多くは学習内容の定着を図るための復習的な宿題であるが、予習的な宿題を工夫し、その宿題と授業とを意図的に関わらせるなどの手立てをとることで、児童生徒の主体的な学びを創出することができ、更なる学力向上を望むことができる。

エ 学校生活、家庭生活についての児童生徒の意識・実態について

① 学校生活の安定とキャリア教育の推進

「学校に行くのは楽しいと思う」「将来の夢や目標をもっている」という問いについて肯定的な回答をした児童生徒の割合は、多くの学年で前年度を下回っている。また、「学校では落ち着いて勉強することができている」という問いについて肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学5年で年々減少しており、中学1年でも前年度を下回っている。

学校生活の安定は、学力向上の基盤となる事柄であり、全ての児童生徒が楽しく安心して学校生活を送ることができるようにしたいものである。また、キャリア教育の視点からも、将来の夢や目標をもたせることは、学校生活の充実、学力向上につながると考えられる。特別活動や総合的な学習の時間、道徳の時間などの充実を図ることを通して、児童生徒が集団や社会の一員としての自覚を高めたり、自己の生き方を見つめ直したりするなどの機会を大切に指導していくことが望まれる。

② 家庭との連携による家庭生活の安定

1日あたりテレビやビデオ・DVDを2時間以上視聴する児童生徒の割合は、小学6年、中学2年で減少するなど一部に改善が見られる一方で、1日あたりテレビゲームをする時間は小学6年、中学3年で年々増加している。携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間も前年度を上回っており、「持っていない」と回答した児童生徒は前年度を下回っている。「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒は、中学3年を除く全ての学年で減少しているが、「新聞やテレビ・インターネットのニュースを読んだり見たりしている」という問いに対して肯定的な回答をした児童生徒は、全ての学年で前年度を上回っている。

テレビやビデオ・DVDの視聴時間、テレビゲームをする時間が長くなるほど、正答率は低くなる傾向にあることから、家庭において、適正な時間をルールとして設定するなどの取り組みが大切となる。携帯電話やスマートフォンの所持、就寝時間や朝食の喫食については、家庭の協力が得られなければ指導が難しい面もあることから、折に触れて保護者に対しての啓発を図るとともに、家庭との連携を密にしながら取り組んでいくことが大切である。